

特集 私の初体験

新連載 三度おいしいマレーシア

え せ  
新連載 崩壊した似非楽園

—有料老人ホーム倒産—

逐次刊行物

平 9.4. 成

国立婦人文学会館  
婦人教育情報センター

読んで、書いてネットワークキング

25



# 福祉が変わる 医療が変わる

『日本を変えようとした70の社説10』

朝日新聞論説委員室 本体 一七四八円十税

十大熊由紀子



いま、社説がドラチク  
「日本を変えようとした70の社説」  
朝日新聞論説委員室  
+ 人間出版

ボランテアも、政治も  
エイズも、お年寄りの介護も  
実はこんな  
つながっていた！  
だれもが輝ける、  
誇りをもてる  
そんな社会に変えるための  
日本の、  
そして海外の知恵が  
ぎゅしりつまっています

- ① 言葉は魔術
- ② ほけても誇りを
- ③ 雑居はいやだ
- ④ 隔離はやめよう
- ⑤ タイアモン・フランを
- ⑥ 障害者に迷惑な社会
- ⑦ 社会を映す鏡 エイズと精神病
- ⑧ 尊厳死より尊厳ある生を
- ⑨ インフォームド・チョイスを
- ⑩ 人か宝ノ
- ⑪ 医療費増加のどこが問題なのか
- ⑫ 大切なのは質
- ⑬ 住宅とまちづくりあつての福祉
- ⑭ 役所が言葉で世を惑わせた
- ⑮ 政党が少し変わったノ
- ⑯ 省庁の若手が変わったノ
- ⑰ 自治体も変わり始めたノ
- ⑱ 障害者は高齢社会の水先案内人
- ⑲ 女性が変わると社会が変わる
- ⑳ 信頼は公開と選択から
- ㉑ ボランテアは恋に似ている
- ㉒ さよなら70年式日本型福祉

ぶどう社

〒101 東京都千代田区神田神保町2-10  
TEL 03-3234-1450 FAX 03-3234-1925

21世紀へのヒューマン・セクソロジー

シリーズ 科学・人権  
自立・共生の性教育

全8巻 ● B5判 ● 定価各2,400円

“人間と性”教育研究協議会編  
編集代表 ● 高柳美知子・村瀬幸  
浩・山本直英

- ① 性教育—その考え方・進め方
  - ② 小学校の性教育
  - ③ 中学校の性教育
  - ④ 高等学校の性教育
  - ⑤ 障害者・マイノリティの性と性教育
  - ⑥ 共生・人権をめざすエイズ学習
  - ⑦ 性的ふれあい・性交をどう教えるか
  - ⑧ 性教育 その用語と教材
- ①、②、③、④、⑤、⑥、  
⑦、好評発売中 ⑧ 続刊

心とからだの主人公に

性と生の教育

Human Sexuality No.10

編集長 ● 山本直英 編集 ● “人間と性”教育研究協議会  
隔月刊 ● B5判 ● 112ページ ● 定価1,260円

《特集》あれも家族、これも家族

論文 ● 女も男も「家族すること」から自由になろうよ  
／新家族論 ● 理想的な家族像の設定は不公正で抑圧  
を生みだす／座談会 ● ありのままの自分を出してほ  
っとできたらいいね【家族のマイノリティ】レズビ  
アン家族・ステップ家族・養護施設家族／時評・青少  
年を守るのは「自己決定能力」しかない／編集長対談  
● 性を武器に「請求書」を出していく社会でいいの？

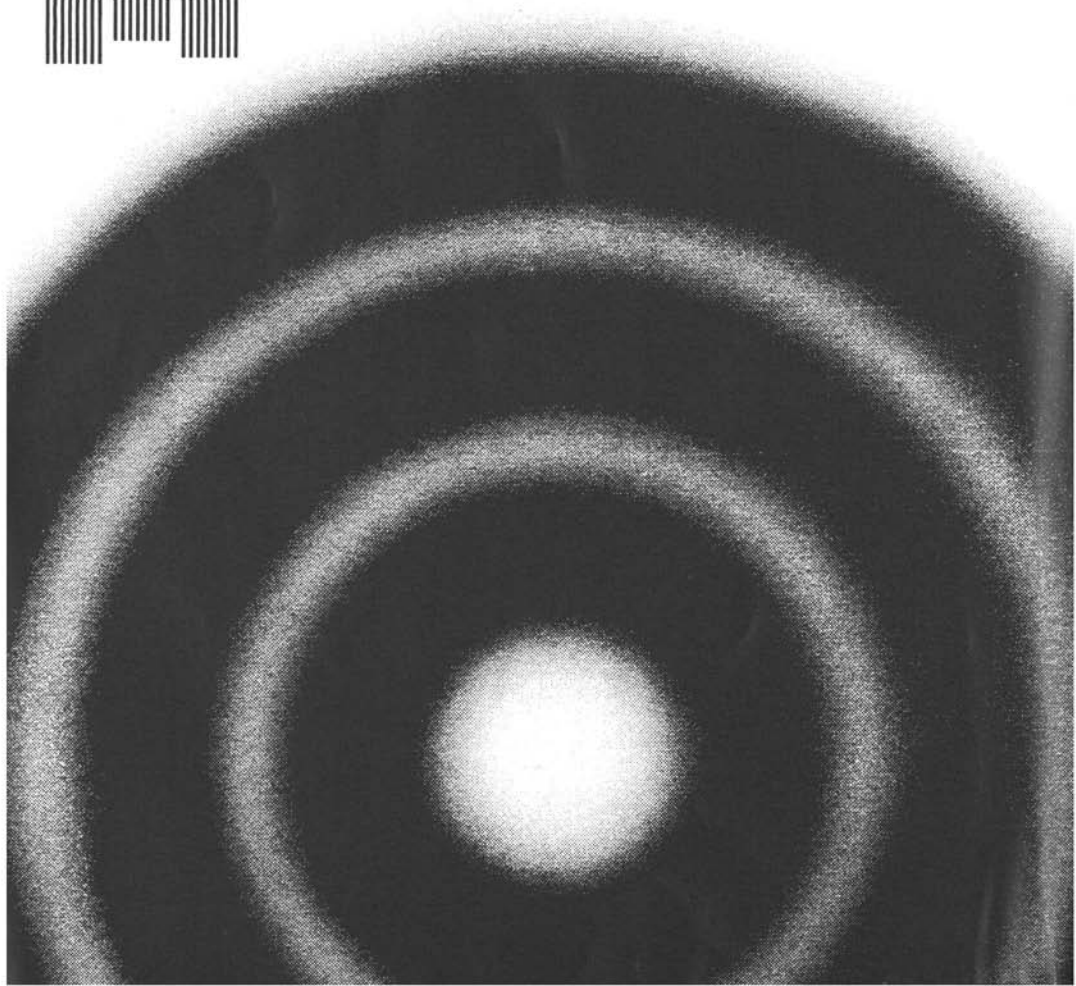
● 定期購読者受付中

- ・ 全国とこの書店でもお申し込いただけます。
- ・ 郵便振替 00180-8-10590 1年間 9,400円

〒112 東京都文京区春日2-17-3 あゆみ出版 ☎03(3815)5511 FAX03(3815)3777



●—— 読んで、書いて ネットワーキング



読んで、書いて ネットワーキング わいふ二六五号

## 目次

### 4 ヴアラエティ・ライフ ⑬

子育てを語る会から  
内モンゴルの子育て支援まで  
写真提供・文／田中啓子さん

### 特集 私の初体験

- 10 私を解放してくれた体験 K・J  
14 お粗末でした 匿名  
17 実際に体験してみると 匿名  
21 何回もあった初めての夜? 松本とみよ

### 31 エッセイスト・クラブ

筑紫由布子・中松ミナ子

### 35 マイシヨブ・マイホビー

山田恵子・白峰はるか・菊池喜恵子

### 新連載

### 42 崩壊した似非樂園 えせ 広田トシ

―有料老人ホーム倒産―

### 50 サーフレSHIP

本庄たよ子・青木千恵・三好敬子  
後藤 晶・山橋ゆり・匿名



### 57 平成おつたまげーション ③① 西田淑子

### 新連載

### 58 三度おいしいマレーシア 上田弥生子

### 64 家族と私

太田啓子・深田加奈・匿名・十河温子

### 75 おすすめの一冊 佐藤ゆかり

100 和田好子  
139 原田静枝

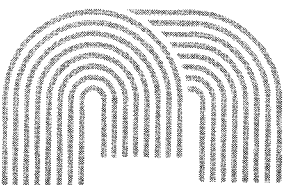
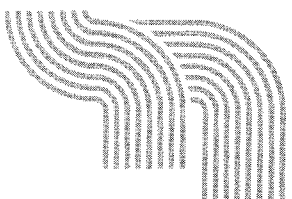
### 76 おさない子を育てる

ながはたみか・上田はるか

### 80 ガン告知 高宮みか

### 89 忘れ得ぬ人々

浅田節子・中西巳巳子





92 時事放談 ②「死刑廃止に賛成ですか？」

今井由美子・鹿内熊代・高林正美・辻浦知津代

101 老人ホーム情報センター発

102 コミック●痛快ノ一般人 ③⑧ 栗田笑

106 大人にならなかった子供たち

村上悦子・荒木裕子

110 ブック情報

112 スパリー言

匿名・堺 みどり

## 第二回

114 豊稜の女神 高松恭子

125 フリースペース

酒井智恵子・時尾松子・大沢陽子  
クワシイ智美・大口笑子

134 わいふネット

136 わいわいがやがや

仲里貞子・中村哲子・本間美恵・小澤長太郎

140 私もひとつ

嵯峨久美子・小笹明子・河野道子・村上悦子  
栗林八重子・鈴木和子・松本育子・朝倉みどり  
後藤 晶・渡辺憲子・加藤君子・花岡京子  
鈴木美奈・クワシイ智美・石井しのぶ

143 ニュー・マザン・システム大反響

144 ファム・ポリテイク編集室より 田中喜美子

投稿規定 146 次号投稿募集  
編集室から 151 編集だより 152 148

バックナンバー 19 お友達にわいふを 29  
自費出版はわいふへどうぞ 54 わいふ原稿整理方針 99  
文章講座のおすすめ 143

■表紙／レイアウト・工房はやし  
■AD・林 佳恵

イラスト・梅村 莚・奥島千恵子・小沢恵子  
カステラネンコ・弘法堂建二・小林正子  
佐藤瑞江子・田沼千恵・鳥居禎子  
西宮さき・橋本美智子・山田京子



子育てを語る会から内モンゴルの子育て支援まで

# 田中啓子さん

東京都杉並区



行動する五十代でありたいと願った。  
会いたい人に会い、行きたいところに行き、読みたいものを読む。自らの声に従ってみる。  
「今を生きる」ということだ。



見渡す限りの草原やきらきらした瞳がとても印象的だ。国境が近いためロシアの子どもたちも一緒に（95年夏）



司勤さんの講演会。  
日本の子どもたちとの交流。  
杉並区立小学校にて



講演の後の懇談会で、「お抹茶を一服」  
茨城県美浦村にて

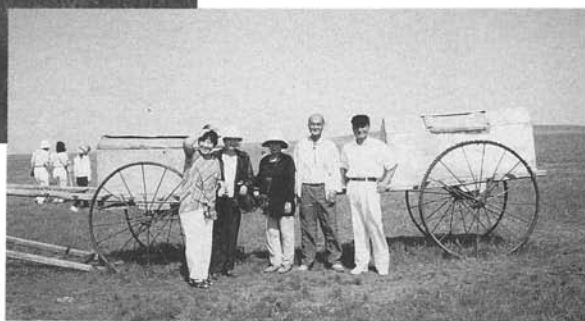
だが、昔、「今を生きろ」ときは、子ども五人と向き合う中で迷ったり悩んだりした。このことをこやしにしながら、地域を中心に子育てを支援する会が生まれた。それは「トークの会」。情報の洪水、核家族、知育偏重など子育ては難しい。お互いに語り合う中で、何かに気づき、何かが見えてくるのではないか。時には講演を通して「トーク」を発信する。

小さな石を投げたように、波紋が広がっていくことを願っている。一九九四年、東京で家庭教育に関する国際シンポジウムが開かれた。そのコメンテーターの一人に司勤（ス・チン）さんがいた。中国・内モンゴルからの留学生だ。祖国に幼児教育を普及させるのが夢だという。彼女の夢は、私達の夢のようにも思われた。



「トークの会」の若い母親たちを中心に「支援する会」ができた。そこで草原を巡回する『移動幼稚園バス』を贈ることに決め、寄付を募っている。

一昨年の夏に草原を訪れたのに続いて、昨年の夏には、内モンゴル草原へのスタディツアーを組んだ。二十五名でホロンバイル草原に行く。三六〇度見渡せる草原や、子どもたちのきらきらした瞳に心が洗われるような気がした。



草原の生活はシンプルである。移動のための車。衣類、家財道具は最小限に

ホロンバイル盟長（県知事）さんと共に  
（96年夏）



小学校の一室を借りて勉強中。日本から持参した学用品や折り紙で工作中（95年夏）



ゲル（包、パオ）での生活を見せてもらう。この少女は、おみやげのささやかなお菓子やお手玉もすべて両親に渡して、はにかみながら礼を言う。「お手玉と一緒にしようね」

草原の子どもたちは、月に一回、草原を巡回する「トラック」で集められて遊ぶ。雨の日は車の下でやむのを待つ（95年夏）



羊を血の一滴も流さないで解体する技の見学や、悪名高い七三部隊の旧跡などがスタティのプログラムにあった。厳しい自然条件の中で、内モンゴルの人々のおおらかさが心にしみる。

日本にも内モンゴルの様子を伝えて交流を深めたいと、司動さんの講演会を各地で開いている。支援の輪も少しずつ広がってきた。

さて、わたしにとつて、これからは健康が問題だ。数年前から深田久弥の「日本百名山」に行くことを心がけている。

思いのままには進まないが楽しみながらいこうと思っている。

「内モンゴルを支援する会」

連絡先

☎03「333331」1623



「百名山」の目標はまだまだ……。奥穂高にて



“何でも見てやろう”精神では共通のパートナー  
北京にて夫と



# なぜ宮内庁はかくも天皇家 のルーツをかくすのか。

卑弥呼のルーツは…

聖徳太子のルーツは…

源氏と平家のルーツは…

そして出雲の加茂町の銅鐸はどこからきたのか

## 今、解明される 古代史のすべて

か しん  
**花 信** (近代文芸社) 國弘 三恵 1500円

倭が任那を征服した。弥生時代稲作と金属文化が「渡来」した。歴史の教科書が何度改定されてもこうした「常識」が書きかえられることはなく、子どもたちが正しい古代史を学ぶ機会はない。

### 【目次より】

- 1章 弥生人はどこからきたのか
  - 1 倭とは
  - 2 日本列島の開拓者
  - 3 歪められた教科書
  - 4 高天原は高霊
- 2章 卑弥呼のルーツ
  - 1 日本語のルーツ
- 3章 そして現代



\* 本が売り切れのときは書店で注文すると10日ほどで入荷します。



特集

私の初体験



## 特集

### 私の初体験

# 私を解放して くれた体験

横浜市●K・J（34歳）

## おくてな私

二十六歳になっていた。平均がどのくらいなのか、そんなことは、全く個人的なことだから意味がないとは思いますが、さすがに、遅い。四年制大学を出ているのだから、よくよく「おくて」なんだろう。けれど、機会もなく、また興味もあんまりなかったか

ら、当然といえば当然か。

好きな相手はいた。高校時代からの大失恋を引きずっていた。忘れようにも、どうしても忘れられないくらい、長い間、ずっと思っていた人だったから。

社会に出て、女子大とは比べものにならないほど、周囲には男性がいた。初めは物珍しき、そして悪い癖が出て、つい構えてガードが固くなる。そんなこんなで、二十四歳の時、あの人に出会った。

## 不倫の勇氣なし

初めての身近な二枚目だった。異動

で同じ部に配属になったその人は、社内でも評判のハンサムボーイ。ちよつと冷たい感じのする、神田正輝に似た正統派。それだけでも、独身だったら初めからパスする。ところが、ちゃんと奥さんが居たのだ。その安心感からか、構えなかった。

入社以来、完全にお茶汲み、コピー取りに毛の生えたくらいの仕事に忙殺されていた私に、初めてその人は、自分たちがやっている審査業務の内容を説明し、暇をみては教えてくれた。「積極的に勉強すれば、いつかは私にも出来るかもしれない」という希望を抱かせてくれた。「部の女の子」ではなく、「同僚」として扱ってくれた。

それは、本当に嬉しかった。

尊敬が、親しくなるほどに好感に、そして恋愛感情に変わるのは、さして時間はかからなかった。

後から考えると、その時期、その人は奥さんが初めての妊娠で中毒症に罹って入院したりで、家に早く帰りたいし、仕事も丁度、忙しい時期で、よく残業後に居酒屋に誘ってくれた。ほとんどは数人一緒だったが、何度か二人で長いこと話し込んだりすることもあった。そうこうするうち、寝ても覚めても、その人の事を思う日々になってしまった。

また、冗談めかして社内では「私は○○さんのファン!」と公言していたから、飲み会でも皆が席を譲ってくれたりして……本気で熱い視線を送っても、誰も本気にしてくれない。その人本人でさえ、夢々本気だとは思っていない。

そのくらい、私は周囲から「堅実」に見られていたのだろう。本気で「不倫」なんて出来るタイプじゃない、そ

う見られていた。でも、さすがに二十五歳。私もそんな自分に嫌気がさしていた。

新宿の歌舞伎町で飲んだ後、腕を組みながら、ラブホテル街のすぐ側を



通つても、笑いながら「さあ、よい子はもう帰ろう!」と言うその人に、逆らえない自分が、嫌だった。あの時、本気で「帰りたくない」、何でそう言

えなかったのか、何度も後悔した。

そんな幸せな時期も半年ほどで、あっさり終わりになった。無事に赤ちゃんが誕生し、その人は「お風呂当番があるから」と言っでは、さっさと帰るよきパパに変身したからだ。

痛手は思ったより大きかった。初めて、本気でヤケクソになった。

## 試してみたかった

こういう私を変えなけりや、いつまで経つても何も変わらない。当時、父までもが、本気で見合いをしろとか、言い出していた。それも拍車を掛けたのかもしれない。「身持ちの固いしっかりした」それが一体、何なのだ!突然、バージンであることが嫌になった。

そして、彼と出会った。「隙がない」と言われ続けていた私が、珍しく痴漢に遭ったのが、彼に初めて会った晩だったから、やつぱり、いつものガードがどこか外れていたのだろう。



早稲田の政経を出て、まあそこその会社にいるのに、東大コンプレックスに悩む、一見クールだが、実は涙もろいマザコン。どう考えても、タイプじゃない。なのに、スキーにダブル・カップルで行っちゃうところが、それまでの私じゃない。しかも、着いてびっくり、一部屋しか取ってない!!で、ヤケクソの私は、そこでも「隙だらけ」だったのだろうか、いきなり飛び掛かれても、あんまり抵抗しなかった。

そこで初体験、という訳ではなかった。しかし、「帰ってから、今度は二人で会おう」と言われ、何だか迫力に気押される感じで付き合ひ始めた。

今、思っても初めから、「?」と思うことばかりだった。「俺と付き合ったら、ラクだと思ふヨ。飯と魚さえ食わしとけば、文句は言わないサ」初めてのデートでそう言われた。ナンデ、アタシがアンタのご飯、作るって決めるんダ?

封切られたばかりのダスティン・ホ





フマン主演の「レインマン」を見た。

確かにジーンと、感動が残る秀作だったが、終わって席を立とうとすると、ちよっとそのまま帰れないくらい、彼の顔は涙でぐしょぐしょだった。二十代も後半の男が、いくらなんでも、そんなに泣いちゃったりする映画か？

出張先の福岡から、仕事で失敗したからと言って、涙声で電話が掛かったことがあった。アタシに何を言っただけなの？

そんな、「？」続きの彼との関係だったのに、付き合い始めて一カ月余りで、ホテルに泊まった。要は、試してみたかったのだ。セックスがどういうものか、それで、その後私がどう変わるのか。

はつきり、「初めて」というのと「妊娠するようなことだけは絶対困

る」と、言っただけだった。気を使ってくれたのか、都心のビジネスホテルだった。殺風景で、こんな所で、そんな気になるの？という感じだった。でも、考えてみると、初めてにしてはハードな内容だったように思う。

痛かったし、誰でもそうだろうが、最初から快感なんてものはない。ともかく必死。なのに、ほとんど朝まで眠れなかったように記憶している。そう、考えれば、やっぱり、彼は気づかっていたように、自分本位だったんだろう。

前後の記憶があまり定かではないのは、やはり忘れたい、という無意識が働いていたからなのか。翌日、満開の桜の下を二人で歩いた時は、それでも幸せな気分だった。

次の日、いつものように、バレエの

稽古に行った。大きな鏡に映った私の顔も姿も、当たり前のことだが、何にも変わってはいなかった。

そう。何にも変わりやしない。そうだったって、気持ちのズレはどうにもならなかったし、結局は僅か三カ月で彼とは終わりになった。

でも、後悔はしていない。それどころか、今では、彼に感謝に似た気持ちさえ抱いている。わたしの初体験は、生まれて初めての、「冒険」だったから。それをまともに、誠実に、受け止めてくれたことは、確かなのだから。

恋愛は、体の関係に踏み込んでも、踏み込まなくても、真剣さにおいては、さして大きな違いはない。ただ、セックスを経験してからは、自分ではとても大胆になれたと思う。積極的にもなれた。そして、私は普通の女で、今まではどうしていいのか見当がつかなかった「性」と、自然に向き合っていくけそう気がしてきた。

そういう体験を出来たことは、今思えば幸運だった。

# お粗末でした

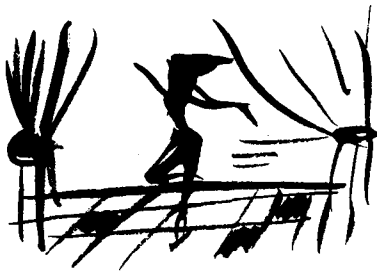
匿名

## ひたすら懂れた思春期

わたしの初体験は二十歳の時。短大を卒業して、就職した、同期入社の子の二歳年上の男性が、*「初めての男」*。

妹と女二人のきょうだいで、大正生まれの両親の下、セックスの話はタブーという環境で育った。高校生ぐらゐまで、おとなの言うことをよく聞く優等生タイプだったので、いけないと言われたことは素直に受け入れていた。むしろ、セックスは汚らわしいもの、というメッセージを、母親から暗に受けていたのではないか、と思う。思春期になって、あらゆることに弾けてしまい、フェミニズムやフリーセックスに憧れる。性に関する本を読んだり、女のからだについての本を読

んだりする。母親が、あまりに強固に反対するので、かえって、中学生時代からタンポンを使ったりした。未婚の女が膣にモノを入れることに対する抵抗に処女礼讃(?)に對する反発だった。高校を卒業するころには、後ろめ



たさと一緒にになったマスターベーションも覚えた。

しかし、幸か不幸か、ずっと片思いだった。何度も何度も、強烈な片思いをした。映画を二、三度観に行った人はいたが、「彼」という存在は十代のわたしには無縁だった。セックスどころか、キスも、手をつなぐ相手もいなかった。ひたすら、懂れていた。はやりのジュニア小説を読み、わたしもいつかたがいに胸がキュンとなる恋をしたい、と思い続けた。(一方では、誰でもいい、男なら、セックスしてみたいとも思ったが、度胸もなく、プライドも邪魔した。暗い思春期だった)

## 何だこんなものか

それがまた、社会人になって、一挙に花開いた(?)——のならよいが……。

入社試験で結構よい成績だったのに、人事の育成担当の人たちには、チャホヤしてもらった。短大卒も珍し

かったので目立ったのだろう。入社して、はじめの二週間ほどの研修で、同期の男性に誘われ、夕方、お茶を飲みに行ったりした。

私立大学を出て、自称プレイボーイの彼を、半ば軽べつしながら、内心に乗り、公園で初めてのキス。たぶん四月の終わるか五月の初めには、彼の下宿へ行つて、セックスした。マスターベーションで、ある程度の快楽は知っていたから、やたら痛くて、快楽はなくて、何だこんなものか、と思つた。おまけに、彼には、あまり抵抗せずになんまりセックスしたし、出血もなかったので、初めてだとは思つても、ええ、

「次は、もっと、いやそうにしたほうがよい」

とか、

「どんどん枕のほうにずり上がっていく感じに、痛そうにするんだ」

とか、言われてしまった。

こんな男に「自分はコイツを初めて

女にしたんだ」なんて優越感に浸られてはシャクなので、あえて訂正もしなかった。彼の下宿を出て、帰る時、痛くて歩き辛いの、情けなかった。何てお粗末なんだろう、と自分の、大切になるはずだった初体験の軽さに、一抹の後悔を覚えた。

しかし、何かから解放されたよう

な、スッキリ感もあった。

精神と肉体、ともに  
満足できる関係

あれから、何人の男と性を共有しただろう。二十年余の年月と、さまざまな体験で、ずつとよい関係を持てるよ





うになったと思う。少なくともセクシュアリティというものが、自分自身とパートナーにとって、どんなに重要な意味を持つものか、という認識はできた。「モア・リポート」も読んでみたし、かつての「わいふ」のアンケータも読んで、ミラー・ウィズイン（内なる鏡）―女性が本当の自分に出会うために―（アン・ディクソン著 新水社刊 一三〇〇円）他のセクシュアリティに関する本もいろいろ読んだ。出産も妊娠中絶も経験した。自分の感じるままを相手に伝えるむずかしさ（それは、セックスの場合だけでなく

く、あらゆる場面において）、そして相手の感じ方を受けとめることのさらにむずかしいこと。何より、きちんと感じ方を相手に伝えることのできる関係作りのむずかしさと思う。

ただ、こころ、一年感じているのは、性的衝動の強さにつき動かされて燃え上がった関係のもろさ。きちんと、感じていること、考えていることをフランクに伝えることができて、受けとめてもらえるのに（最高の関係だ、運命的な出逢いだ、なんて思いましたのに）、ふいに目から鱗が落ちたようにいとおしさが消えてしまう

こと。――これはもしかしたら、肉体が先行したことに對する精神のプレッシャーだろうか、と思ったりもする。二十年以上前の初体験が、案外こんなふうに影を落としているのだろうか。今のところ、一番安定しているのは二十年ほど続いている相手との関係である。途中いろいろの中断もあったが、おたがい肉体的に快楽を与え合うことができて、そしてそれは精神的な満足感をもたらす。（これがひとつ残念なのは、いとおしさが募ることはならなくて、精神安定剤どまりだ、という点）

精神的ないとおしさが先行する相手もいるのだが、こちらのほうは肉体的究極の快楽にはならない。うまくいかないものだ。ここまで初体験をひきずっているとは思えないので、これは今後の研究（？）課題だ。もっと学習しよう。二六四号「フリースペース」には胸打つラブレターが載っていて、涙が出るほど感動した。羨ましいと思うが、わたしはわたし！

# 実際に体験 してみると

三重県●匿 名 (38歳)

## 夢多き少女時代

私の初体験は今から十一年前、新婚旅行で行ったハワイでのことだった。なんと平凡なつまらない、と思われるかもしれないが、私にとっては一世一代、清水寺の舞台よりもっと高い所から、目をつぶって飛びおりるような大きな出来事だった。

そもそも私は結婚をそれほど望んでいたわけではなかった。夢多き少女時代、なりたいたいものがたくさんあって、その中にかわいいお嫁さんになるというのも確かにあったが、それはあくまで、きれいなウェディングドレスだとか、初々しいエプロン姿にあこがれていたのであって、現実には男性の体を受

けられるなんてことは想定していなかった。

元来の内気な性格や女子校に行っていたこともあって、幸いなことに高校卒業までは、全く男性に縁もなくひた

すら夢だけを見て過していた。

やがて社会に出て、OLとして働くようになってからもまだ一つの夢を持ち続けていたので、結婚しようという気は起きなかった。ただ、会社の男性





達と女性達でスキーに行ったり旅行に行ったりすると、ああこんな世界もあるのか、結構楽しいなと思ったり、女友達が彼氏に車で送ってもらったりしていると、楽しいなとちよつとうらやましくもあつた。が、まず自分の夢を實現させるほうが先だし、恋人は結婚相手と考えていたので、理想の相手がそう簡単に見つかるわけではない。結婚なんてまだ、はるか先の事とらえていた。結婚相手は私のすべてを理解し、大きく包みこんでくれる人、なんて大望をこのころはかなえられると信じていた。

やがて何年も過ぎるころ、私よりも私のまわりの人間が、変わつていった。二十歳過ぎたあたりから、同級生の結婚の報がちらほらと入るようになっていったが、二十四歳でそれはピークを迎え、二十五歳過ぎて一人であるのはごく少数になってしまった。なんでみんなが、いとも簡単に結婚を決められるのか、私は不思議でしやうがなかった。当人にしてみれば熟考の



結果かもしれないが、一生に一度、しかも自分のこれからの人生を託す相手を決めるのが、適齢期なんていう短い期間に集中するなんて、とても信じられなかった。

とはいえ、私もそろそろ覚悟を決めなくてはならなかった。才能がないのか努力が足りないのか、夢のほうは實現しそうになかったし、会社でも同期入社がいなくなつて居場所がなく、家でも、そろそろ結婚を、とうるさく見合話をもちこんできた。

## 十回を超える見合

私は私の家が好きだった。気が小さく、外ではいつも緊張を強いられる私が、唯一くつろげる場所、誰にも遠慮のいらぬ場所。それは私の生まれたこの家であるはずだったのに、ある時それは許されなくなった。

農家であるわが家には女しか子供がいなかったの、長女の姉が伴侶を迎え跡をとることになった。義兄はやさ

しい人で、なにも出ていけといわれたわけではない。それでも、父や母は私に熱心に見合をすすめ、私もこの先一生一人で生きていくか、結婚するかの選択をせねばならなかった。

一人で生きてゆく。その道はつらくさみしそうな感じがした。友達はあるが結婚し子供もいるのに、私だけがひとりぼっち。仕事だって、特別技術のいることをやっているわけではない。一生続けられるものかどうか。

そこへいくと、結婚のほうは明るい未来があるような気がする。彼とデート、友達をよんで豪華な華燭の典、ハネムーン（海外に行ったことがないのでぜひ行きたい）、かわいい子供。

彼を会社へ送り出したあとは趣味にうちこめる。私はいつのまにか、夢に興味に変えていた。

ともかく見合をすることにした私だったが、これがまた試行錯誤の連続だった。一度会っただけの人間を、どうやって自分の一生をかけるべき価値があるかと判断したらいいのだろう。

二度、三度会ったところで同じである。お茶のんで、他人行儀な口調で話して、その人物のいったい何がわかるのか。私は洋服一枚買うのに、一週間くらい店に通って考える人間である。

一生に一度の買物を三、四時間の間に決められない。見合の場合、三回会うと（デートすると）断われないという不文律があるらしい。

中には一回会っただけで、「いやだ、この男の人とは合わない」とわかる人物もいたが、たいていの場合は可もなく不可もなくで、決定打がない。未知の人間なんだから当然だろう。向こうだってそう思っている。で、迷うのが、三回会々と断われないと大変なので、決定打がない場合は仲人さんにお断わりの返事をした。

そうこうして迷ううちに、私の見合回数は十回を超えた。わがままをいつているのではなくて、人生を決める決心がつかなかったただけなのだが、親たちは怒った。勝手にしろとつき放したり、私がこの人は絶対いやというのに、

## ★わいふバックナンバー

- 250号 女の友情
- 251号 集合住宅での子育て
- 252号 うちの子のおばあさん・おじいさん
- 253号 阪神大震災
- 255号 家事サービスを利用してみたら
- 257号 ああ、マンション暮らし！
- 258号 時事放談「私たちのゴミ問題」
- 259号 夫の過労死は他人ごとか？
- 260号 トラブル旅行記
- 261号 嫌われる姑・好かれる姑
- 263号 わが家の親子ゲンカ
- 264号 ふるさとの伝統行事

どうせ死ぬなら上手に死のう

死ぬのに必要な手続きのすべて

一三三五円

こんなにはふえた  
安くはいれる有料老人ホーム

―付湯院後の養老・リハビリに老人保健施設

二五七五円

シリーク老後の暮らし

お年寄りが安全に暮らすために

一五〇〇円

変わる主婦・変わらない主婦

一五〇〇円

お申し込みは電話でどうぞ。

☎〇三―三三六〇―四七七―

つき合ってみると勧めたり……。

## 体が汚されるのではない かという危惧

結婚なんて今は一生一度ではないかもしれない。バツイチなんて軽くいうくらいだし。成田離婚で手もある。でも私はできれば後悔は避けたかった。いいかげんな選択をしてあとで泣くより、じっくりと相手を見極めたかった。決断力がないといわれれば、そうである。結婚は初体験に踏み出す勇氣はまだなかった。今どきの若い人に笑われそんな話ではあるが、初めの一步を踏み出す時は、誰でも多少は怖いのではないか。ましてや自分の体の事である。私は自分が体験することによって、自分の体が汚されるのではないかと危惧した。今の精神も体もまるつきり違うものになってしまったら、どうしたらいいのか。

また、売春は汚いかというが、結婚だってやってる行為は同じはずなの

に、なぜ汚いとはいわないのか。

結婚した友達をみても、特に変わったとかは感じなかった。だが私の場合はどうなるのか。今の体が純潔でいいのだとしたら、結婚という行為によって汚されてしまうのだろうか。父も母も自分の娘が汚されるようなことを、なぜ望むんだろう。

今、夫となっている人と出逢ったのは、ぐずぐずと思ひ悩んでいるころのことだった。

十回を超えてからは数えてなかった。もう何回目かは忘れてしまった。お見合だった。

きつとこの人ともダメだろうなと思いつつ、「将来のこととか不安になったり悩んだり、しません？」と聞いたら、「いくら考えたってなるようにしかならんから、深く考えてもしかたないで。それよりも先へ進んでいこう」と答えて返ってきた。この時あつと思つた。すぐに考えこんでとどまってしまう私に対して、この人はすごく前向きな考え方をするんだ。この人なら

私が困った時には助けてくれるかもしれない。この一言が決定打となり、私はとうとう結婚を決めた。

そしてハワイ。この時の心臓のドキドキは今でも憶えている。ハワイはともきれいで楽しかったけれど、少しだけ苦しい出も混じっている。結婚前と結婚後で、精神にそう変化はなかったと自分では思っているが、客観的に見たらどうなのか、よくわからない。

頭の中で想像するだけのものが現実の体験となったら……。

出産でもそうだが、体験する前は怖い怖いものすごく恐れていて、実際すごく大変な目にあつて体も痛めつけられた。でも過ぎてしまえばまるで人ごとのようにああ大変だったなあ、あの時は……と思える日も来る事を知った。

空想は四方八方へ広がってきりがないけど思い出は一つに限定される。

もしもあの時結婚してなかったら、今ごろどんな生活をしていたか……。でもここにいる私はたった一人。よくても悪くても。

# 何回もあった 初めての夜？

熊本県天草郡●松本とみよ

## 突然の入籍

私が結婚したのは、彼と出会って一カ月後のことであつた。別に情熱的な恋に落ちたというわけではない。彼が、外国航路の船員であつたため、二カ月の休暇下船の間に事を運ぶ必要があつたのである。

プロポーズを承諾すると、たちまち結納とあいなつた。彼は、もう休暇の終わりが迫っていて、とても結婚式を、挙げているひまがなかつた。結婚したら家族手当が出るから、一刻も早く入籍してほしいと言う。断わる理由もないので承諾した。後で叔父に怒られた。犬や猫をくれるのとは理由が違ふ。簡単に入籍すると言われた。

しかし後で考えてみたら、私は働いていたので、この家族手当は出ないのである。意味のないことであつた。

婚姻届は、彼が乗船する前日に、二人で役所へ出した。だが、結婚式も挙げていないのに入籍している。これは、一体どういう立場になるのであろうかと私は大いに悩んだ。特に私達の場合、まだ知り合つて一カ月。あまり親しいとは言えないのだ。それこそ、極端に言えば、手を握つたことすらない。それなのに、入籍したからといって、

即、妻としてふるまえるものではない。「カーテンなんか、君の好きな物に替えていいよ」と彼は言う。

しかしである。姑一人で暮らしている、自分は一週間に一回しか訪れることのない家のカーテンをひっぺがしたりしたら、姑は何と思うことか、とてもではしない。

こんなこともあつた。乗船した彼から、冬のオーストラリアへ行くから、冬物の衣類を送つてほしいと手紙が来た。私達は、入籍したとはいえ、家も



別々に暮らしている、いわばフィアンセの立場。彼の衣類などわかうはずもない。姑に言うと、彼のタンスの前に案内された。赤の他人のタンスの前で、私が困り果てたのは言うまでもない。まあ、妻であつて妻でない、まことに奇妙な私の生活は、こんなことの繰り返しであつた。

しかし、世間的には、りっぱに夫婦なのである、紙切れ一枚のことなのに、何だか、おかしくてならない。婚姻届を出した日も、ちよつと悩める場面があつた。私達は入籍した。彼は明日乗船である。いわば最後の夜だ。

「一体、この人は私を、例えば今夜どうするつもりなのだろう」と私は疑問が湧いた。

すると、私の心を見透かしたかのやうに、彼が、

「結婚式までは、このままでいよう。楽しみは残しておきたいから」

と言う。別に楽しみに思われても困るのであるが、そういう考え方もあるにはある。なんか肩すかしをくつたよう

だが、ホツとしたのも事実。心の準備が出来ていない。

これが見合結婚の変なところだ。恋愛だったら、こうじゃない。心の準備なんかをとにかく言うことはない。体のほうで求めちゃうだろう。いつ、どこで、どうなるうがかまうことはないだろう。

彼は船に行つてしまった。とたんに私は淋しくなつた。愛しているというのではないが、いつも私を笑わせてくれた人がいなくなつた。なんだか、心にポツカリ穴が開いたようだった。

彼からは時々、エアメールや電話があつた。オーストラリアで買ったと、毛皮のバッグやコアラのぬいぐるみ、オパール指輪が送られて来たりもした。

## 彼に会いに港まで

三カ月がたつたころ、突然、彼から電報が来た。

「船が、名古屋に入港するから来い」

と言うのである。私は、銀行で働いていたから、これには困つた。だいたい上司に何と言うのだ。

「夫に会いに行つていいでしょうか」なんてとても私には言えない。その上、病気で半年休職して復帰したばかりだったのだ。休暇なんてないのである。欠勤扱いになつてしまう。それだけでなく、病氣休職中に結婚してくるとは！なんて上司のひんしゆくを買つていたので、これ以上問題を起こしたくなかつた。

さんざん迷つた挙げ句、上司に打ち明けると、

「やはり、行つたほうがいいんでねえの」ということになつた。休みを二日もらい、土、日を利用して四日を確保した。しかし、これ以後、そう度々休みを取られては困ると言われ、身も縮む思いであつた。彼が、度々私を呼び出すだろうことは、容易に想像がついたからだ。退職という二文字が浮かんだ。

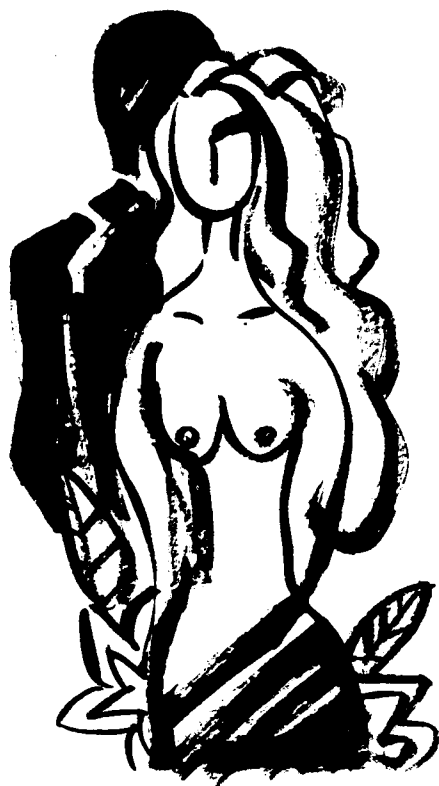
同僚には、冷やかされて、えらい目にあつた。



「泊まってるひまなんかない」  
と言ったら、  
「泊まらなくてもいいじゃないの。ご」

休憩で  
私のことを「岸壁の妻」と呼んだり、  
「行けるの?」「迷うんじゃないの?」

と言う友人達。ますます不安で、血圧  
が上がり、頭が痛くなった。  
実のところ、そうなのだ。彼は、一



体、私を呼んでどうするつもりなのだろう。私は妻として扱われるのか、それともプラトニックな婚約者として扱われるのだろうか。いくら戸籍上の夫とはいえ、赤の他人なのだ。その男性と二人で夜を過ごすことを思うと、パニックになりそうだった。

電報の後に着いたエアメールに、もし来れるならバンベイユを持って来てほしいと書いてあった。バレーボールぐらい大きなみかんの一種。そんな大きなみかんをどうやって下げて行ったらいいだろう。悩みがふえた。

昭和五十七年、十月三十一日。いよいよ、名古屋に行く日となった。嬉しいのか、悲しいのか、自分の心がわからない。

私にとって、初めての飛行機の旅だった。

阿蘇山の上を通り、国東半島、岩国、びわ湖、大阪?と思ったら、もう名古屋に着いていた。

地下鉄で、終点、名港まで行くことにする。その近くに、船員会館がある

はずだった。泊まるには安いと教えられていた。

翌日、六時起床。港へ行く。

やがて遠くから近づく船。それが彼の乗る和栄丸だった。ホッとすると同時に緊張もした。

そのころ、船内では、誰かの奥さんが来てるというので、大騒ぎとなっていたらしい。彼にしても、私が実際に来るかどうかはわからなかったわけだ。双眼鏡で覗かれてるなんて夢にも思わなかった。

船が入港するまでは、岸壁に私一人だったのに、急に何台かの車がやって来て、あわただしく、人が集まって来た。船の代理店や家族のようだ。甲板に、彼の姿が現れた。航海中に髪が伸びて長髪になっている。

彼にたのまれたという本社の人に声をかけられ、私は船の中へ案内されたのだった。

彼に、「税関が来てて忙しいから」と部屋に連れて行かれた。彼の個室は三畳くらいの長方形。ベッド、ロッ

カー、机にソファア、洗面台。それに、船特有の丸い窓。

「寝ていいよ」と彼。まさか、寝るなんて、そんなことできつくないではないか。持参の本でも読むことにする。

## 船室で、一体どうなるの？

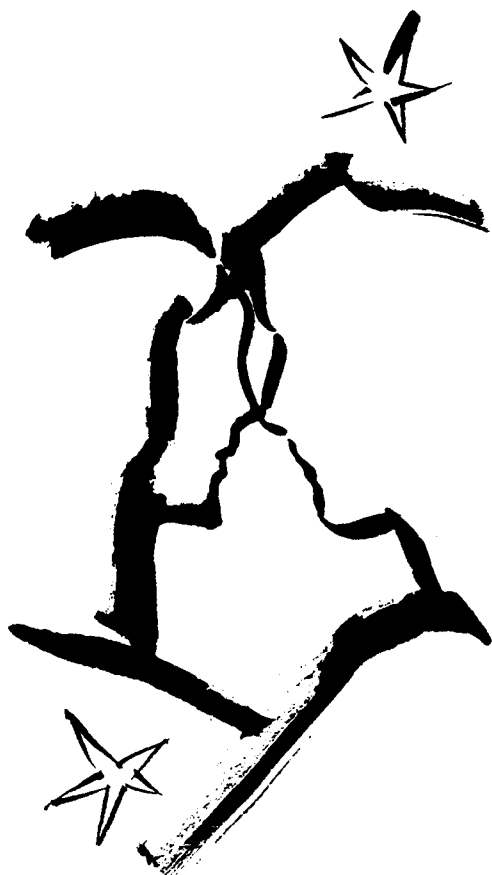
彼は、船の調理手。食事の支度の合間合間に顔をさせる。牛乳や果物、本を集めて来てくれた。

しかし、彼が部屋に来る度、飛び上がりそうに緊張する私だった。一体彼は、私をどうするつもりなのかという不安が胸をよぎる。

「今夜はどうする? どこかホテルへ行くか? 船にも泊まれるけど、嫌だろ」

と彼が言う。「ホテル」という響きに、すっかりびびった私は、無邪気そうに見えるようにと祈りつつ、「船も面白そうじゃない」と答えた。

夕食は、彼が部屋に運んで来た。プリのおさしみ。



「あまり、食べたくない」

と言うと、

「どうしたの？ 緊張してるんじゃないのか？」

に苦笑い。わかってるなら緊張させるな！

夕食の後は、彼は仕事がないので、

部屋でずっと話して過ごすうち、夜もだいぶ更けてきた。彼は、いつも何時ごろ寝るのだろう。私は、すっかり疲れて、寝てしまいたかったけど、  
「もう、寝たい」

なんて言えないではないか。何か別のほうへ誤解されそう。

それを察したのか、彼は、

「眠たかったら、ベッドに寝ていいよ。俺はこっちのソファで寝るから。一緒に寝たっていいけど、結婚式までは清い関係で」

なんて言う。彼は、一体、何を考えているのだろう。

ホッとしたような、シラケたような。時計は夜中の一時半になっていた。彼は、明日の仕事は大丈夫なのだろうか。

カーテン閉めて、服を脱いで寝たけど、一つの部屋で、男の人と一晩過ごすのは初めての経験なので、すごく緊張してしまった。

だって、彼は、

「男は、チャンスがあれば寝たいと思ってる」

なんて冗談ぽくよく口にしていたのに、これがチャンスでなくて何なのであるうか。もし、彼の気分が変わって襲われたりしたらどうしよう、なんて思うと眠れない。彼が身動きして、椅子の

きしる音。どうにも心臓にこたえた。

船のエンジンがうるさくて、寝られやしない。うつらうつらしていると、彼の起きる気配。朝食の仕度であろうか。部屋から出て行った。

その日は、甲板に出て海を眺めたり、港のスケッチをして過ごした。

翌日、ホテルへ行つたけれど

さて、その夜は、思いがけない展開となった。



「今日は、夕食は外で食べて、どこかホテルにでも泊まろうか」

と彼が言い出したのだ。

「どこで寝ても同じよ。もったいないわ。寝るところあるのに」

船員達が気をきかして、ちよつとはロマンチックな場所に、とアドバイスしたらしい。

タクシーが船にやって来て、ちよつと困ったことになる。

「ホテルって言われてもねえ」

運転手が、どこも空いてませんと言ふのだ。「どこでもいい」と言つたところ、私達は、なんと！ラブホテルに連れて行かれたのだ。堂々とラブホテルに行く、なんていう神経を私は持ち合わせていない。どうにもバツが悪い。来てしまった以上仕方がない。入らざるをえない。

「色んな部屋があるねえ。どこにする？」

彼は状況を楽しんでいるようだ。

「ごくごくシンプルな部屋にしてね」  
こんなはめになって彼を恨んだ。

「思わず武者ぶるいが出ちゃうなあ」  
と彼は私に向かつて微笑んだ。

「悪い冗談はよしてよ」昨夜、言つたばかりよねえ、清い関係でつて。私は彼を睨んだ。

今夜も昨夜と同じことだった。おしゃべりは楽しかったが、私はもう寝たかった。ここ二、三日不眠が続いている。なかなか言い出せずに、時間はどんどん過ぎていくばかり。「私はいけど、あなたは、もう寝たほうがいいんじゃないの？ 仕事があるんだから」とうとう、私は切り出した。

すると、「そうだね」と立ち上がりかけた彼が、本当に突然、

「僕達は、もう夫婦なんだから、堂々と一緒に寝てもいいんじゃない？」  
と言ひ出した。

「それとも、心の準備がある？」

そこまで言われれば、さすがに鈍い私でもピンとくる。彼の一八〇度の方向転換。

私が、どうすべきかと考えていると、彼は、私が一生忘れられない名セ

リフを吐いたのだった。すなわち、  
「ベッドは一つしかないんですよ」

私は、その途端、うなだれていた頭を弾かれたように上げて、彼を見つめた。バスケットで言えばスラムダンク。「決まった」と言うほどの名セリフであった。

十年たつて、

「ねえ、あなたは何であの時、急にこんなこと言い出したの？」

と聞いてみた。夫は困った顔をして、

「色々考えたんだけど……夫婦なんだし……べつにいいんじゃないのかあ……」

わかったようでわからない。

ところで、その夜、私達は結ばれることはなかったのである。今でこそ、私にとっては世界一の男だと思っているが、その時の私にとって、見知らぬ男でしかなかった彼。そんな場面になつても、私は心も体も燃えるどころか冷めるばかり。実際、ごくシビアな頭で、男に抱かれろと言われても、ちよつとやってらんないよといふところ

ろではないか。真面目にお相手しな  
きやとは思ふのだが、ついふき出して  
しまった。

「ねえ、もうやめようよ。こんなバカ  
バカしいことまともにやってらんない」  
私は、彼の腕を枕にしてもう寝るこ

とにした。  
「男は、こんなことしてても、ちっと  
も面白くないんだけど」



知ったこっちゃない。

しかし、一つのふとんに寝たというだけで、何だか、とつてもあったかい気持ちであった。

この初めての訪船の後、私は、彼が再び休暇で帰って来るまでの半年、船へ行くことはなかった。もう、あんな目に遭うのはごめんだった。

## 今度は彼の家

彼が乗船してから九カ月。四月に休暇が訪れた。私の勤務する銀行へ、帰って来たと電話があった。その日は、金曜日であった。彼の家へ訪ねて行くと、夕食の後、彼は私を家まで送り届けた。結婚式は一カ月後の予定である。彼の休暇は、二カ月半であった。

彼は、明日の土曜日、仕事が終わるころ迎えに行くから、荷物をまとめておくように、結婚式はまだだけど、一緒に暮らしたいと言う。結婚式まで待っていては、休暇が少なくなる。ただでさえ、一緒にいることの少ない私

達なのだから。

「もし、君が逃げたら、たとえ自転車に乗ってでも追いかけて行く」と言う彼の言葉には笑ってしまった。仕事を終わると、彼が迎えに来た。ところが、私は着替えも何も荷物を持たなかったのである。私のささやかな抵抗だった。ちよつと意地悪してやりたかったのだ。それに、その日、私は生理だった。彼の期待に答えられぬのを何と告げたらよいのか。

さて、もう寝る時間となった。彼が、二階の自分の部屋に引き上げて行き、私も彼の所へ行かざるをえない。私は生理だし、ぬまきもない。

彼は、すでに電気を消して、ベッドに寝ていた。その時は、本当にベッドは一つしかなかった。彼が独身時代から使っているシングルベッドだ。

私は、ちよつと困らせてやろうと着替えを持って来なかったのだが、そのせいで、実は自分のほうが困ることになった。彼は、一向に困りもしないのである。浅はかな私。

**お友達に「わいふ」をおすすめください**

新しい定期購読者をご紹介くださった方には、次のように購読期間を延長させていただきます。

●定期購読者をお一人ご紹介くださるごとに誌代、プラス送料とも一号延長。

**「わいふ」年間分をプレゼントにお使いください**

●結婚 赤ちゃん誕生のお祝い、遠方のお友達とのコミュニケーションにどうぞ。お申し込みいただければ、まず新読者にきれいなプレゼント・カードをお送りしてお知らせし、以後一年分、計六回送本いたします。

●その場合も定期購読者のご紹介の場合と同様に、お一人につき一号分延長させていただきます。

●また多数ご購入くださる方は割引のご相談に応じます。

「ねえ、何か着る物持っていない？ 私  
は、このまま寝るわけにはいかない  
わ」

と私は声をかけた。

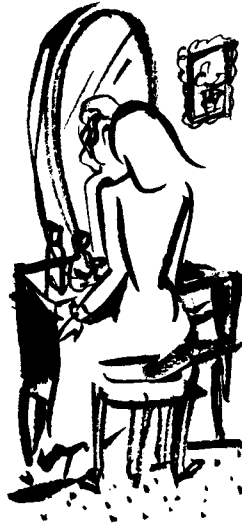
「どうして、持つて来なかったんだ？」

彼は不機嫌に、

「すみません。何かねまきを貸してい  
ただけませんか？」

とできるだけ、こともなげに言つての  
けた。さぞかし、姑は呆れたことだろ  
う。

私は、借りたねまきに替えると、



「そんなことは知らん」  
と言い放った。どうしよう。

「お袋に、何か借りて来いよ」

「ええっ!!」

私に残された道は一つしかないよう  
だ。仕方なく、姑の部屋へ、

しぶしぶ、なるべく彼に触れぬよう  
に、彼の横へすべりこんだ。

彼が私のほうへ向き直つて、手を伸  
ばして来た。私は、その手を握つて押  
し戻したのだった。

「ごめん、だめなの」

そういうわけで、私は、初夜とい  
うのを二度もつぶしてしまったのであつ  
た。よく、彼が怒らないものだと思  
ひましてしまった。

こういうありきまで、私達にとつて  
初めての夜はいっぱいあつて、はたし  
てどれが、初夜というものにあたるの  
か、よくわからない。

初めて船へ訪ねた夜。初めて一つの  
ベッドに寝た夜。初めて彼の家に泊  
まった夜。ことごとく私達は結ばれな  
かった。その他に結婚式の夜もあれば、  
新婚旅行の夜もあった。私達ほど、初  
めての夜の多いカップルも珍しいので  
は？

しかし、そんな私達も、とうとうと  
いうか、ついにとうか結ばれる日は  
やつて来た。

私が残念に思うのは、初めて訪船し  
たあの夜、私にもっと余裕があれば、  
どんなにか、ロマンチックに演出する  
こともできたろうにということだ。そ  
れだけが、心残り。

(え・カステラネンコ)



# 腕時計

横浜市港北区

筑紫由布子（32歳）

中学受験に合格し、そのお祝いにと、祖母がくれた腕時計。もう二十年経った現在も、私の左腕で時を刻んでいる。何時間か身に着けないでいると止まってしまうが、時間を合わせ、ネジを巻くとまた動き出す。さすがにベルト部分は何回か取り替えたが、本体は、故障することもなく、ずっと時を刻んできた。

長年、身に着けている心地よさや、愛着もさることながら、他の時計に代えてしまったら、何だか祖母が亡くなってしまいうようで、そんな気がして、ずっと大切に使ってきた。

一昨年の正月、祖母の食欲が落ちてきて心配である、母からの電話で知った。すぐにでも会いに行きたかったが、福岡は遠い。まして、赤ん坊を連れて行くには寒すぎた。暖かくなったら、お見舞いを

兼ねて帰省することにし、とにかく、それまでは祖母の無事を祈るしかなかった。入浴時以外は、常に時計をしていた。祖母の命の時を止めてはならない、その一心で。

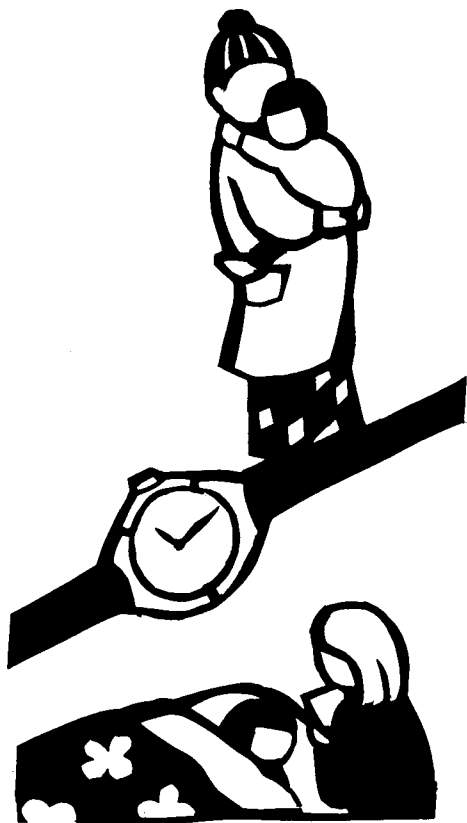
三月になり、やっと歩けるようになった娘を連れての帰省を果たした。母の実家で、三年振りに祖母との対面。しかし、ベッドの上の祖母は、あまりにも痛々しかった。ふくよかな顔は小さくなり、白髪は枕の上で放射状になっている。呼びかけても返事はない。ただ、娘を見せると口がかすかに「あかちゃん」と動き、とてもいとおしいという表情を見せた。その一週間後、祖母は、八十九歳の生涯を閉じた。

涙とともに、走馬燈のように祖母の思い出が駆け巡る。私が生まれて十年間は、母の実家で暮らしていた。教師をしていた両親に代わり、昼間は祖父が私の面倒を見てくれた。そのせいか、私はすっかりおばあちゃん子になって、祖父母がどこへ行くにも、マスコットのように連れて行ってもらった。

しかし核家族になり、私も成長し、家族より友達と過すほうが楽しい年頃になるにつれ、祖父母に会う機会もめつきり少なくなってしまった。私が大学生になり、いよいよ九州を後にする前日、久し振りに祖父母を訪ねた。祖父が、「音楽を志すのなら、一流の音楽家になれ」と声高らかに激励する傍ら

で、「おばあちゃんは、さみしか」と言いつつも、  
錢別をこっそり手渡してくれた祖母。当時の私に  
は、老いた人々を思いやる気持ちなどこれっぽっち  
もなく、九州から脱出できることと、思いがけない  
臨時収入に心浮かれていた。

そして月日は経ち、祖父が他界した。私は、故郷  
で就職することもなく、ろくに帰省することもなく、  
都会で所帯を持ち、出産の際も里帰りすることもな  
かった。ドライな生き方を常とし、自分の野望ばかり



追い求め、年老いていく祖父母や両親の気持ちを察  
することさえできず、寂しい思いをさせてきた。随  
分、不義理をしてきたと思う。

ふと気がつくと、祖母や母が聞かせてくれた子守  
唄や昔ばなしを、私も娘に歌ったり、お話ししたり  
している。娘のおんぶやだっこで、体中痛くなる時  
がある。六十代で、私をおんぶ、だっこしてくれた  
祖母はさぞ辛かったことであろう。夜泣きする私  
を、一晩中だっこして、一睡もせず、そのまま出勤

していた母。頭の下がる思いである。

祖父母や両親が、私に注いでくれた愛情の深さ、尊さを、子供を持って初めて理解することができた。

弥生、三月。厳しい冬が終わり、冬枯れの木立ちに、新しい生命が芽吹く月。大好きだった祖父と祖母が春の光に導かれるようにして、旅立ってしまったが、私にとっては悲しい月になってしまったが、左腕の時計は、二十年前と変わらぬ音で時を刻む。

## ハタキを掛ける

和歌山県日高郡

中松ミナ子

年末ともなるとスーパーの店頭に、さまざまな住いの洗剤が並ぶ。

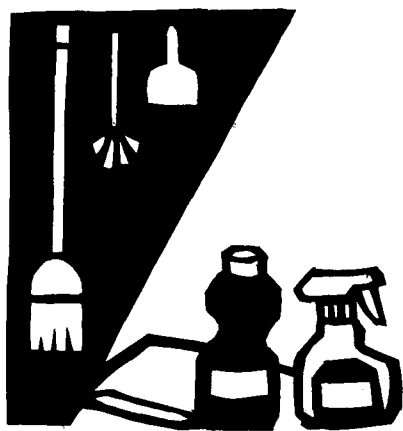
レンジ回り、換気扇、ガラス、鏡、家具、化学ぞうきん等々……その用途に合わせた、実にいたれりつくせりのモノたちばかりだ。

（私なら、どれを使うだろう……）と意地悪ばあさんヨロシク眺めているうち、ハタキがない。キヨロ

キヨロすると貧相なナイロン製のハタキがあった。ちよつと手に取ってみると、頼りなげなモヤシみたいな代物であった。

かつて毎朝、障子や窓枠をパタパタ、ハタキ掛けをした習慣も、このところ、すっかり忘れたかのようには手抜き掃除ですましていた。

それに我が家のハタキも、ずいぶんと、くたびれてしまい、それを理由としてハタキ掛けをおこたり、つい化学ぞうきんやボロ切れで電気のカサの上、タ





ンスの上をサーと拭くだけで澄ました顔でいた。もっとも障子の棧など、ハタキより、化学ぞうきんでホコリごと拭き掃除ができるのが、便利であり簡単だからである。

しかし、この日は妙にアマノジャクになって、スーパ―から帰宅するなり、穴があいたりデンセン入りのストッキングを切り、納屋から夫の古い釣り竿の一部を貰って、ハタキ作りを始めた。遠い昔、

亡き母も、時どき、こうしてハタキを作っていた。押入れから端切れの入った箱を出してきて切り揃え、汚れてみすばらしくなった古いハタキの束をはずす。新しい色とりどりの束をそこに結わえ、小さなクギを一本打ってクルリと逆さに向けると、お手玉のような配色のきれいな布の輪になる。その部分をタコ糸でしっかりとしばってハタキの完成だった。母はそれをちよつと振ってみて、満足気にニッコリうなずいたものである。

パタパタ……パタパタ……白い障子にハタキを掛ける音がリズミカルに家に響き、朝の光の中でハタキは、いくつもの色を見せる。

目の奥にひとときわ鮮やかに残っているのは、モミの赤い色……。

私の作ったハタキはナイロンストッキングのお古、時代が変われば材料も変わるワケだ。

しかしストッキングはなかなかのすぐれものである。ホコリを散らさずに吸収（？）してくれるからだ。

調子に乗って、家のあちこちをパタパタとハタキ掛けをした。年末の大掃除の第一歩だ。

そして母の若く元気だったころを、私自身の上に重ねながら――。

(え・小林正子)

# マイジョブ・マイホビー

## 友がみな我より 偉く見ゆる日に

東京都世田谷区●山田 恵子（45歳）

仕事が面白いと思うようになったのは六年前、特許事務所に翻訳者として勤めたころからだ。特許に関してはまったくの素人だったにもかかわらず、その事務所は

恐ろしいほどの人手不足で、私は入所早々わけも分らないままに、やみくもに仕事をこなさざるをえない環境に放りこまれた。おまけに仕事は翻訳だけではなかった。発明の内容の検討までが要求されていた。担当の仕事の管理は、最初から最後まで担当者任せられ、私はすぐに仕事中毒になった。仕事の量は多く、要求されるレベルは高かった。仕事の中身やその期限がいつも心から離れず、眠れない夜が続いた。それでも仕事が面白いと思った。

二年ちよつとで同業他社に転職した。新しい事務所は職場の雰囲気も自由で気楽で、いつそう仕事が面白いと思うようになった。ここでも担当が与えられ、それをこなすために忙しいときには土曜日も出勤する。それでも少しも苦にならない。三人の子供たちも大きくなった。突然残業になっても、電話一本で勝手に何か食べていてくれる。下の子を保育園に通わせながら走り回っていた、数年前のがむしやらな毎日がうそのようだ。何という気楽さだろうか。いつか私はこの会社で定年になるのいいか、と思うようになっていた。

大学を出て三年半働いて、専業主婦を十年やって、ワーキングマザーを十年やって……、そうやって人生の半分以上を生きてきた。思い返してみれば、再就職の日から十年の月日が経っていた。あのころ、私には社会人としての信用も、仕事に要求される高いレベルも何もなかった。十年かけて泣いたり笑ったりしながら、やっとの思いで手に入れたものだ。今の仕事も職場も満足すべきものだ。それなのになぜだろう。いつからか、私の心にはわけの分からない苛立ちがはびこっていた。それはまるで仕事の安定と引き替えるかのように、私の心に芽生えていた。

駆け登ってきたこの場所には一体何があっただろうか。それは私の本心に欲しかったものだろうか。そしてここから私はどこに行こうとしているのだろうか。私は今とても疲れて、すごく歳をとってしまったような気がする。

専業主婦だった十年間は、振り返るとなぜか真つ暗だ。子育ての間には、命を育む喜びを感じたり子供の愛らしさに見惚れたり、楽しい思い出もいろいろあったはず

だ。それなのにここから見えるのは、下の子をおぶって上の子の手を引いて、近所のスーパーに買物にとほとと歩いて、若い私の姿だけだ。

あのころ私は、これが本当の自分ではないと信じ続けた。出口は見えなかったが、そう信じていることが生きる支えだった。それでも十年もの長い間モラトリウムを続けるというのは、なかなか辛いものだ。ある日どうしても就職しようと思って「わいふ」の原田静枝さん（現在再就職アドバイザー、原田ワーキングライフ研究所主宰）に会った。自分の勉強に使うお金が欲しいと思ったのだ。「私に再就職が出来るでしょうか」。これが相談の本音だった。そんな私にとって「あなた翻訳をやりなさいよ」といった原田さんの言葉は天の声だった。私はその言葉にすがった。

あれから十年経って私は一応の翻訳者になった。編集プロダクション、翻訳会社、特許事務所。会社は変わってもいつも翻訳者として働いてきた。大学時代やりたかったものとは遠い隔たりがあるとはいえ、地味でネクラの商売ではあっても、今の仕事



は面白い。それにもかかわらず、私にはどうしてもこの仕事が私の生涯を賭けてなすべきこととは思えない。理系のこの業界で自己実現をしたいとは、少しも思わないのだ。

仕事を通して、車の運転の出来ない私でも、エンジンの構造と作用を少しは学んできた。それでも私の人生が、車のエンジン・をよりよく理解するためにあるとはとても思えないのだ。こんなところで何をしているのだろう、という声が聞こえる。

私の友達に薬学部を出て大学の研究室に十年ほど勤めて、その後薬剤師として病院

で働いている人がいる。ある時「一貫した仕事が出来て羨ましい」と言ったら、「とんでもない」という答えが返ってきた。大学での研究と薬剤師の仕事とは、全くといっていいほど違うものだし、今の仕事には創造性が少しもない、と言う。創造性があった大学の研究室はストレス性の円形脱毛症になって、辞めざるを得なかった。転職先の病院でストレス性の胃潰瘍になったこともあった。それでも彼女にとって仕事は生きることそのものである。

職場には専業主婦の閉塞とは別のストレスがある。無理解な上司、相性の悪い同

僚、理不尽な会社のシステム。かつて夫は職場や仕事の愚痴をこぼす私を「見たこともない人の悪口は聞きたくない」と拒絶した。確かに夫は職場の愚痴を一切こぼさない。確かに私は不満タラタラの甘ちゃんだ。でもそれでは、このやりきれなさをどうやったら発散できるというのか。

「私は愚痴をこぼしてあなたのコメントを期待してるわけじゃない。バカだと思っただけ同意して欲しいだけなのよ。そうかそうかと頷いてほしいだけなのよ」

私は泣いて訴えた。かなり深刻な離婚の危機だった。それ以来、経験から学ぶ人である夫は、バカだなと思いつつもいつも私の言葉に頷いてくれる。

人生はふり返っても仕方ない。それでも時々ふと考える、もし人生をやり直せるなら、と。少なくともこんな細切れな生き方はするまい、と。そんな苛立ちをつのらせながらある時夫に尋ねた。

「ねえ、あなたは人生で、何かこれと云えることをやってきた？」

夫はためらうことなく言った。

「そうだな、僕は子供を育ててきたな」

私にはその言葉が新鮮だった。そうだ、私も子供を育ててきたんだ、三人も。そうだが、仕事も家事もやって、働きながら勉強もしてきた。その一つ一つは一流品ではないにしても、私には夫がいて、子供がいて、仕事があつて、仕事の他に打ち込める世界もあった。こんなにたくさんのかことをやってきた……。

いつか忘年会の二次会で、事務所の所長が酔っ払って、私に「こんな仕事は虚しいよ、他人の発明の手助けをしてるだけなんだから。自分のものなんて何も残らないんだ」と言った。私はハッとした。二十年近くも特許事務所を経営してきた人の言葉だった。この虚しさは、都会に住んで自ら物を造り出すことのない者の宿命なのかもしれない。それは私の虚しさでもあった。

友がみな我より偉く見ゆる日よ

花を買いきて妻と親しむ

私は石川啄木のこの歌がとても好きだ。みんなこうして辛い思いをだましまし生きていく。ときには失意のうちに死んでい

く。人生の折り返し点を過ぎて、先がすっかり見えてしまった夫と二人、前を見ることをやめて、二人で見つめあつて生きるのも素敵なことだと今は思う。ただ歳をとっただけなのかもしれないけれど。

## 電話対応の仕事

東京都豊島区●白峰はるか

二人の子どもに手がかからなくなつてから、パートタイマーの仕事に出るようになった。最初は銀行の事務の仕事を三年ほど続けたが、単調さに少し辟易し、待遇のよい現在の職場に移り一年半になる。

電話対応の仕事をしている。就職時に研修を受け、共通の基盤に立つての仕事だが、仕事そのものは個人のパフォーマンスだと思っている。因みに扱っているものは生命保険と火災保険にあたるものである。

同じ内容を伝えるにも、表現方法は千差



万別である。他の人の応対を聞いていると、それぞれ人柄や経験が反映されていて面白いと思うし、反省したり教えられたりする点も多い。

しかし、なかには他の人のやり方に黙っていられない人もいて、摩擦が生じることもしょくない。「同期の桜」は五人。一年経った現在、残りは三人となった。退職・募集という同じことの繰り返しで、長く続く人は少なく、残っている人は、「つわもの」ばかり。

ところが、そんな職場に変化が起きてきた。職場のレイアウト変更があり、電話ルームの広さが従来の二倍になった。狭い所で大勢の声が交錯し、聞き取りにくいので、広い快適な職場環境への改善の要望が、重ねて出されていたためである。

一人あたりのスペースが二倍になると、まず、電話応対や書類作成が能率的になった。と同時に、隣の人が視界に入らなくなり、自分の仕事に専念できるようになった。

今まで他の人の書類の書き方にあれこれ注文をつけていた人の声も、次第に聞かれなくなってきた。書類に不備があった場合



は、担当の上司から適切な指導があるはずで、我々が自分の仕事を差し置いて、お節介をすべきことではないのである。

レイアウト変更が行なわれて、三カ月余りが経つ。経験豊富なベテラン組は、何か物足りない様子で、最近、職場に和やかさがなくなってきたと感想を漏らしている。

親切心から新人にあれこれ教えたり、世話を焼いたりすることは決して悪いことではない。しかし、ともすると一線を越えて、相手を傷つけてしまうことにもなる。

要求されていることにできるだけ応え、必要以上に相手の心に踏み込まない。なかなか簡単なことではないように思われるが、これは日頃の電話応対の仕事にも当てはまると痛切に感じる。

職場環境の改善が功を奏してか、昨年夏の新人たちは、我々の時のような摩擦は感じていないようである。場所を広くすること、予想以上のいい影響がでて驚いている。そして、いろいろな面で快適に仕事ができるようになったことが嬉しい。

電話応対の仕事は、一つとして同じ内容のものはない。一本一本の電話の相手がそ

れぞれ違い、緊張する気の抜けない仕事だと思う。しかし、環境も改善されたことでもあるし、もうしばらくこの仕事の経験を積んでみようと思っている。

## 明日は面接

岩手県北上市●菊池喜恵子（45歳）

今年の一月二日の初売りで、おやつと思つた。歩いて十分ほどの大型店の元日営業のせいなのか、我が商店としては、嬉しい幕あけとなるはずなのに、拍子抜けの気分。三日も同じようなもので、これはいつものようではないと肌で感じた。

昨年の十二月のまあまあの売上げは、何だったんだろう、こんなに急変するとは。いつものお客様はいつたどこへ行ってしまったのだろう。

一週間たつても二週間たつても、ボツリボツリ状態で、一月、二月は暇な月と分

かつていても、これは普通ではない。そうこうするうちに、出入りの材料屋の営業マンも、包装資材の営業マンも、口々に、今年は異常なくらい物が動かないと言う。うちだけではないのだと少し安心するけれど、困った状態に変わりはない。

ここ数年のうちに、大型店や、コンビニにおされ、そのうえこの不景気、市内のアーケード街の商店に、シャッターの閉まつたままの店も目につき、活気はない。向いのレストランは、今年になってから営業するのをやめ、どこかへ働きに行っている様子だし、裏の衣料品店も、規模縮小するとかで、閉店セールし、そのまま閉店してしまつた。

景気の先行きは、まったくの不透明。国の財政は四百四十兆円もの大赤字だし、し、財政改革も、行政改革も、口先だけでそらざらしく聞かせる。毎日のように報道される、贈収賄、カラ出張に、官官接待。政治家も官僚も、政党と己のことだけ考えているようで、庶民は失望感から、自分のことは自分で守らねばと、財布のひもがきつくなるのだろうか。

一月、二月はともかく、その先に景気回復の兆しがあれば赤字が続くことになる。わずかばかりの預金など、気安めにもならぬ。どうしよう。自営業ほど不安定な浮草稼業もないのだと、今さらながら思い知る。二十五年前の私の、夫選びがまちがいったのか……。そう思えば、今の自分をも否定することになる。少々傷みが目につくけれど、店舗併用住宅の住宅ローンもあと一年と半分。子供達も健康で、まずまずの出来だし、社会人に育てあげたではないか、もう少し自分に自信を持とうと思う。

思いつめて、頭の中でいろいろな思いが、駆け巡る。夫も私もこのせんべい製造販売で生きてきたし、私四十五、夫五十歳。今さら何が出来ようか。家業を捨てられるかと言われても、捨てられそうもない。夫はたった一カ月でそう思いつめるなど言うけれど、底なしの不安感、どうしようもない。

阪神大震災で、家も仕事も、家族さえ亡くしてしまった人々の苦悩にくらべたら、私など、まだまだ甘い。家もある。家族もいる。体も健康だし、そう思い直してみても、やはり、せんべいが売れないのは辛い。どうしても辛い。



も、やはり、せんべいが売れないのは辛い。どうしても辛い。

一月、二月は、売上げが落ち込むのは、いつものことだし、三月まで待とう。わずかばかりの預金でも、半年や一年は、どうにか暮していけるだろう。それまでの辛抱だと、自分に言い聞かせてみたものの、この沈んだ気持ち、不安感、頼りなさが、心いっぱい広がって、どうしてもやりきれない。

病気で苦しむ我が子に、お医者様にもつれて行けず、薬も買ってやれないような、ただじっと我が子を見つめているだけのよう、そんな気持ちに似ていた。

いても立ってもいられぬような気持ちで、目はパート募集の広告を、食い入るように見ているし、足はいつしか職業安定所のパート募集コーナーに向いていた。そう、働けばいいのだ。家業に支障のない時間帯に、働けばいいのだ。たとえ数時間のわずかな金額でも、じっと待つて耐えているより、ずっといい。

安くて効き目のない薬でも、それを病気の我が子に買って飲ませたい。じっと見つ

めているよりも、体を動かしているほうが、やれる事はやっていたほうが、心の健康にもいいのだ。何をやっても減らなかつ

た体重が、この不安な思いで、あつという間に落ちていた。

働こう。腹を決めるとそう落ちこむこと



はない。今が勝負のしどころだと思う。夫と二人の小さな小舟、海が大荒れになって、転覆しそうな時に、見捨てて、自分だけ他の船に助けを求める訳にはいけない。沈没しないよう力を合わせなければいけないのだ。

二人の息子が自立し、子供にお金がかからなくなり、ホッとしたのも束の間の、予期しなかった大荒れの海、生きていくのは並大抵のことではないのだと、今さらながらに身に染みる。

こんな不景気、誰が負けるもんか、つぶれるところは、つぶれてしまえ。食費も出さない義父母にも、食べたい物はいっぱい食べさせてやろうじゃないか。毎日元気に、食べては寝て、寝ては食べ、長生きしてくれればいい。

明日は面接、どうなることか。

ただ今、当店おすすめのもの、色いろバック（みかん箱大ダンボール入り）四千五百円で地方発送承り中。お申し込みは菊池煎餅店へ電話かFAX（〇一九七—六三—三八三四）で。

（え・鳥居慎子）

# 崩壊した似非樂園

え せ

## 有料老人ホーム倒産

岡山県

広田 トシ (64歳)

### 入居のいきさつ

私たち夫婦は、教員を定年退職した。二人の子どもも、この田舎を出て、神戸と東京へ離れ住んだため、高血圧ぎみの夫と共に老後の安心を求め、有料老人ホームなるものを探しはじめた。夫は二度めの勤めを終えて六十五歳、妻六十二歳。(平成六年当時)

いろいろ参考になる本を読んできた。早くから入居しておくほうが、高齢になつてからよりも馴れていいと書いてある。六十一歳で入居したというその

本の著者に、手紙を送って質問してみた。ていねいに返事をくださったが、入居ホーム名は、宣伝になるからか教えてもらえなかった。

娘のいる神戸、私が終戦前まで居た大阪など行ってみたが、どこも夫婦で五千万円近い。有料老人ホーム協会の出版している「輝」というパンフレットを、めくっていたらただ一つ、我が県にもあった(有老協は、厳重な審査の上加入を認めていて、これに入っていると心配ない)。値段は都会に較べて約半額の二千五百万円(介護料二人

六百万を含む)。我が家から車で四十分ほどで行ける。サンシャイン岡山。

社長は、町会議長もしたことがあり、温厚な田舎紳士。山をきり拓いた白い六階建てがさわやか。

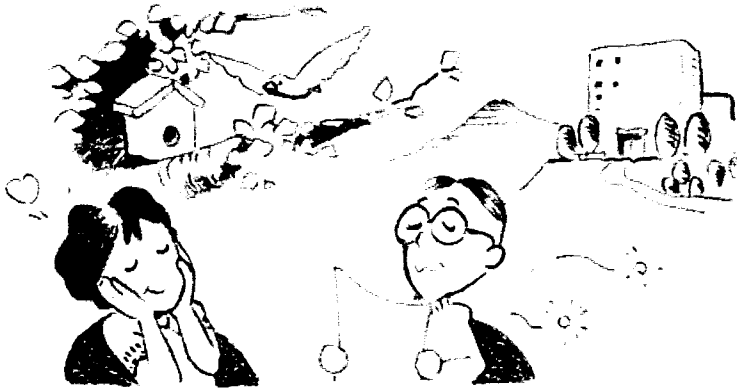
新聞が幾種類もフロンツにあり、文化的配慮がみられる。「いろいろあるから、どれでもみてください」。しかし、嘘だった。それら新聞は入居者が、各自で購読しているものと気づいたのは、ずっと後だった。

「もう、子どもに頼る時代ではありません。小鳥の声に目をさまし、自然と

共に語り合う。豊かな老後を送りましょう」

パンフレットには、夢のような言葉がずらり。六月のはじめに社長の長尾が電話をかけてくる。施設長の江原が我が家まで来た。夫が趣味にしている木工製品をみて、賞讃し、うちの施設にもこの木工ルームを作る予定ですよ。

一度体験入居をしてみてくれと言うので一泊しに行った。入居者と話してみる。いいですよ、病氣しても安心ですよ、などと言う。社長は、「別荘にして使ってください。自宅と此処を、往き来しながら、もし病氣でもされたら、すべてここでご面倒をみます。そのために、介護料お一人三百万円いただきますが、将来の安心のためには安いもんです。今入院してご覧なさい。どれだけ金を取られるか、それが全部これでやつてもらえるんですから。病院と提携していますが、医者も近くにいるので、言いかえすればすぐ駆けつけてくれます」



施設長の江原が、「町のカルチャーに通いたい人がいます。お連れになって、あなたの車に同乗して行かれたら楽しいでしょう」と言う。あの時、この男の単純な厚かましさに気づくべきだった。あぶないし、時間的に束縛されるからと断ったら、江原は当てがはずれたような顔付きだった。

「第一、食事の心配がない。歳をとって困るのは炊事です。実費で、朝三百五十円、昼六百五十円、晚六百円で、ごちそうが用意されています。ほんとはそれより各百円高なのですが、入居者には安く提供しています」

いいことづくめを並べる。だんだん入ってもいいなと思いはじめ。

もし、期待はずれであっても、それぞれの入居年数に応じて返還金制度があるという。そうだ、これがあるからこそ入ってみたのだ。

平成六年七月一日、とうとう入居した。夫は血圧が高い。なんとなく、安心がほしかった。入居金一千九百万円、終身介護料二人分六百万円、有料

老人ホーム協会への保証金四十万円（二人二十万円で、倒産した時、一人五百万円の保証金が出る）計、二千五百四十万円也。十二月に満期になる定期があるので、待ってもらえないかと言ってみた（分割払いなど、ご相談に応じますとあったから）。利息分は、会社がつから早く支払ってほしいというので、七月十四日に全額支払った。後で聞いたが、当日は「大金が入る」と、社長以下従業員など、沸き立っていたという。私たちは自宅に帰っていたので知らなかった。ちょうど、十五日が土曜日で銀行の休みの日だから、十七日に支払うと言ったら、施設長が十四日に、渡さねばならない金があつて当てにしているというので、その日にした（それ以外に、毎月管理費として十二万四千円を支払う。それと、しまいまで意味が判らなかつたが、食費の前渡し金として二十四万円払った）。

人間とは、こんなものなのだろうか。うちが、金を支払ったということが

判つてから、このホームが借金で身動きならないという情報をもたらししたのは、入居者の遠野氏だった。見学にきたとき「よろしいで、ここは」とすすめたのに（後になって、従業員の一人もそう言った。「あの時ここは危いです」と、よほど言つてあげようと思つた」と）。もし、親切心があれば、支払う前に言つてくれるべきではなかつたか。被害者として同列に並ぶのを待たのであろう。その気持ち、判らなくもない。私だつてそうするかもしれないから。誰だつて、仲間が多いほうがいいに違いない。

### 入居してみると……

部屋は一人部屋や夫婦部屋など、収容人員五十名程度。当時十七名。平成三年に開所して間がないからという。（中に数人サクラがいて、体験入居の時だけ動員されるそうだ）

遠野氏は、私鉄の元管理職、両足マヒで松葉杖。妻は子宮がんの手術をして、今入院中、七十歳を少し出ている。

三人の子どもは遠くに住む。奥さんは間もなく亡くなった。

他に七十歳なかばの男性。もと税関長だったとか。本当は違つらしいが、私は覚えやすいのでひそかに税関長と呼んだ。この人の妻は、くも膜下出血後のリハビリ中で、入浴は夫婦で男湯に入る。だから八時からは、男性は入れない。

加藤氏は七十歳前。銀行員だったとか。普段は陽気だが、時々暗く寡黙になる。十三歳年下の奥さんは、五十七歳。此処へ入る時一緒になったそうで、時々ホームの掃除など手伝っている。ボランティアだと言うので、そんなことする必要があるのかと思つたら、幾分、謝礼をもらっているらしい。つまり準従業員だ。会社への情報提供役もしていた。

夫が、内部外部共通の売店で働いている三神夫婦、妻は五つ年上で六十五歳、二人とも心臓手術をして障害者手帳を持っている。若い夫は此処へ来るのをしぶつたが、社長長尾と施設長江原が、度々勧誘に大阪の高槻まで出向

き、先ず妻がその気になって夫も仕事を退き入居した。

あとは一人者の女性、Oさん七十歳。リユーマチで指が不自由。結核の手術痕のあるKさんとGさん、この二人は岡山市からで、七十歳すぎと六十歳すぎ。もと教員の田本さん、京都から、七十八歳。

他に三人の要介護女性（寝たきり一人、痴呆二人）。

体験入居で来た時に、施設次長の大林さんは、この三人の部屋に鍵をかけ



てみせなかった。なぜだったのだろう。この大林という女性は、親切で控えめで、とても感じのいい人にみえた（敢えてみえたと言おう）。

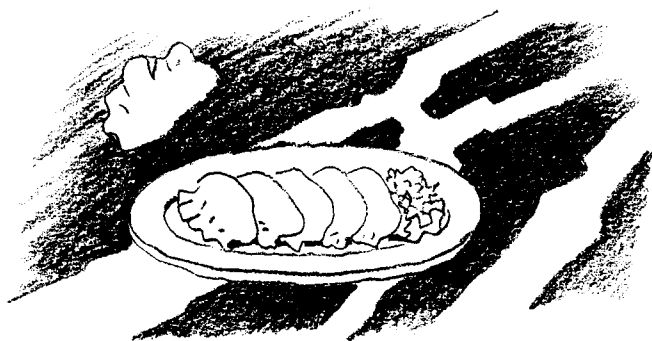
なんとなく、疑問を抱きながら、我が家とホームを往き来した。未だ六十歳台の私たち夫婦には、少し早すぎたのかもしれない。入居者は食事だけ食べに来るが、あとはドアをびったり開めて、ほとんど交流なし。月曜日の夜は、風呂がないので、男性四人で一時間ほどマージャンをしている。その趣

味のない我が家は、仲間に入らない。二間の狭い部屋ですることもない。やつぱり帰ろうかと自宅に帰れば、庭掃除などいくらでもすることがある。でもまあ、気晴らしに行ってみようか、そんな日のくり返しだ。

秋も過ぎ、震災の冬。入居者が増えると見込んだが二人だけ。ぼつぼつ入居して一年がめぐってくる。

## 食事がひどく、職員も居つかない

食事がどうもよくない。朝は、さつまいもの入ったうすいみそ汁、玉子焼き、これ以上切れないほどよく切ったたくあん二切れ、牛乳。時々玉子焼きのかわりにいわしのみりん干しが出るが、かたくて歯が立たない。真黒に焦がしていても平気で出す。調理員（社長の妹七十歳ぐらいが二人）に言う、そうかなと言う。すみませんと言えないのかなと思ひながら、黙っている（当たられてはかなわないから）。昼は、ごはんはカレー汁をぶっかける



だけの目も。これが六百五十円だろう。夜は、カリカリのせんべい状のぎょうざ、スーパ―の特売場で買ったのだろうか、食べられない。畑からの菜っぱの浸し。

施設次長の大林さんが泊りらしい。夜八時ごろ、お茶を汲みに下りたら、食事をもって立っている。

「今からですか」

「これから食べるんじゃないけど、もう、なんぼうにも、わたしらあ、こねえなもん、どうにもよう食べん。どうしようかしらん、おなかは減つとるけど、よう食べんわ」

そんなまずいものを毎日食べる入居者は、一体どうなるのだろう。

最初から居た栄養士が、最近やめた。月に材料費五万円しかもらえない。これでは入居者にすまないと言ってやめた、これも後でいい。そう言われてみると、従業員が、なかなか居つかない。私たちが入った時、四十年配の気さくな男性従業員がいて感じがよかった。働き者だったがすぐにやめて

しまった。給料が出なかったらしい。会社に金も貸したままとか。少しばかりの給料を分割払いでは、家族持ちはやれないだろう。

胃潰瘍で入院中の遠野さんを見舞いに行く。管理規定がおかしいと盛んにおこっている。いくら申し入れても改善されない。懇談会で話しても、もと税関長が茶化して、まるで会社側のよくな発言をするので不愉快と――。私もパラパラとめくってみておどろいた。まず言葉づかい。善良なる管理者に気おくれすることなくとか、施設の安寧秩序を損なう行為とか、許可なくして事務室に立ち入ることなきようとか。たしかに、そうではあるうけれど、もう少し言い方というものがありはしないか、こちらは客なのだ。それ以上に守られていない規定があまりにも多いのおどろく。年一回、経理の開示をするはずが、今まで一度もしたことがないそうだ。

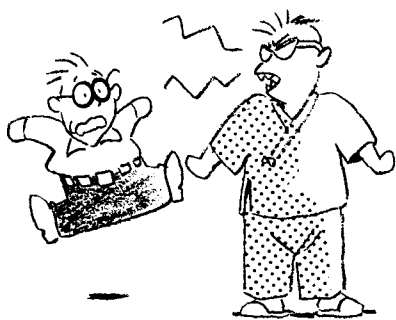
遠野さんの妻が、がん再発で夫妻とも入院。ホームでは付き添うのかと



思ったら、週一・二回、勤務帰りに従業員が立ち寄るだけ。施設長は、一般付き添い料の一日一万五千円は各自持ち、と平気で言う。話が違うではないか、では終身介護料三百万円は一体なんだっただろう。しかも、管理規定では、これは任意加入と書いてある。しかし、誰一人どちらにするか尋ねられたものではなく、当然のこととして、入居の時支払っている。それを指摘すると、「その後、有料老人ホーム協会の指導があつて、任意ではなくなっていたが、書き直さずにそのままにしていた」と答えるのには呆れてしまった。協会に問い合わせると、そんな指導はしていないという。一カ月以上留守にした場合、管理費を割り引くと記載してあるが、遠野さん夫妻は、入院して長期不在。うちも娘一家が、神戸から震災疎開してきたため三カ月不在にしたが、何の割り引きもされてない。その他、山奥なのに会社専用の自動車がない。商店もない。田本さんはカルチャージョックでおかしくなりそ

うだところばす。

平成七年四月、山田氏、大阪から入居、六十六歳（男性）。高校勤めのあと大学の講師を退職。一人の自由を満喫したくて、娘さん一家の反対をおして来た。もと教員の田本さんが、金を支払う前に現状を伝えてあげようとしたが、「自分は此処に骨を埋めるつも



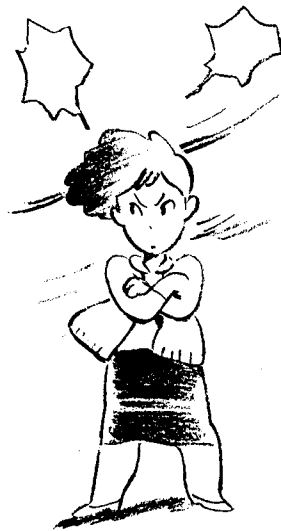
りで来た。つまらぬことを言わないでほしい」と一喝。さらに「アホアホアホ」と罵倒されたときやしがついていた。山田氏ばかりではない、みんな入居の時には、それぞれに夢を託して来ているのだ。ところが一カ月たたないうちに、山田氏から食事に対する不満が出た。社長に申し入れた。「これでは体が持たない。支払っているだけの食事に改善してもらいたい。一カ月の猶子期間をおくから」。しかし、何の変化もみられなかった。この時山田氏は退去の決意をしたらしい。わずか三カ月だった。私たちは、そんなことは全く知らなかった。

## 少しずつわかってきた ホームの実態

たまに聞かれる懇話会の時、問題点を指摘した。社長ではなく施設長がほとんど出てきて、つべこべと逃げ口上を並べて、らちがあかない。社長が不在でつかまらないというが、下手なことを言われては困るので、出さないら

しい。社長が出るよう申し入れる。もと税関長が「そんな言わんでもえやないか。ほんならあんだやつてみなはれ。素朴な田舎者の社長をいじめんでもえやないか」と言うのには、啞然とする。この人は、多額の金を会社に貸しているとか。

もともと県北に住む私たちに、知人もいる。社長のよくない噂が耳に入る。借金できるところはもうないほど、借りまくっている。建築費五億のところを、三千万だけ借り集めて、すべて借金。とにかく他人の金を利用して生きてきた人間だとか。従業員、ほとんどの入居者からも、借りられるだけ借りているなどなど、とても信じられなかった。従業員の給料もほとんど支払われていないが、借金を取り戻したくて、辞めるに辞められない人もいると聞いた。従業員は九名。スタッフが少なく手が足りないが、応募してきても、二、三日、長くても一カ月ぐらいでやめる者が多い。給料の遅配が大きな原因らしい。若い人は居つかず、私



たち以上の年寄りが勤めているのにもどった。後で聞いたが、二度めの不渡りで完全に倒産したとき、ぎりぎりまで残った若い栄養士の女の子には、江原の手がついていたとの、もっぱらの噂だった。

給料をもらわず働いているため、従業員に意欲がない、廊下はほこりだらけ。気のせいかな、若いのに入居して自

宅と悠々行ったり来たり私達に風当たりが強い。ついに、草取りをしてくださいと言いつつ出した。若い女の子が炎天下で草取りを命じられて、来て一日でやめた。こんどは入居者にさせるのか。バカバカしい。

懇話会に社長が出てきた。「何回もお願いしている経費の開示はどうなっていますか」

「まあ、なかなかすぐにやあできませんが、そのうち白書でも出しますじゃあ」

施設長が青筋を浮かべて、  
「提示すると皆さんに不安を与えるのでみせただけです」

この男、最近顔付きが陰険になっている。

「社長さん、食費のほうも公開をお願いします」

「ああ、食費はなあ、八百円ですまあ思うとりですが、どうしても足が出て、千円を越します。苦心して作りようるんですけえ」

「こんなまづいもんよう食べんと、従業員も言つとられましたよ」

社長の妹が金切り声をあげた。

「だれがそねえなことを言いましたらあ、はつきり名前を言うてください」

「言いません」

大林さんがホツとしたように下を向いた。

「しかし、食費は千六百円払っているのですよ」

「そりゃあ、人件費や光熱費も要りますけえ」

「なんと、厨房は独立採算なんですか。私達は、管理費を別に出しているではありませんか」

ここで社長はしどろもどろ。

「よう調べてみますけえ」

私は、他のホーム三カ所に問い合わせた。どこも全部、食費はすべて食料費で、人件、光熱費は当然管理費から出していますと明快に答えた。

「もう一つお聞きしたい。従業員の食費が半額と聞きますが、どこから補填されていますか」

施設長答えて曰く、

「臨時収入があります」

「どんなところから」

「入居者の方からの、ちよつちよつとしたお礼です」

もと税関長が、

「ホラツつけとどけやんか」

規定にはそのような金品は受け取らないとうたってある。

「施設長さん、つけとどけが要るので

すか」

「いや要りません」

語るに落ちるというものだ。そう言ええ、もと税関長が入院した時、従業員がわれもわれもと病院に行つたとか、特に次長の大林さんなど毎日行つたという。それに引きかえ遠野さんのところへは、行き手がない。

「なあ、だれか行つてえやあ、どうするんでえ。知らんでえ」

という調子だったらしい。税関長はその都度金一封を渡すのだ。

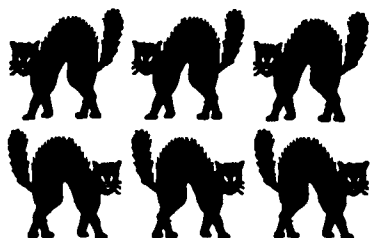
七月中旬ごろに一大事件。去年末入った入居者の黒川さん、八十三歳のおばあちゃん。亡夫は土建業で、相当金を持っている。「いい鴨がきた」と会社の者がささやいたとか。それが、従業員の山口さんに泣いて訴えたと言う。ここにいちいち書くよりも、その前後に書かれた山口さんの記録を、了解を得てそのまま載せたほうが、判りやすいと思うのでそうする。

——つづく——

(え・西宮さき)

(文中の名前はすべて仮名です)

# サーブ



# レシブ

## 原眞智子さんの遺書

東京都世田谷区 本庄たよ子

原さんの二六三号「わたしの友だちのあな」に続いて、二六四号、ご夫君への「遺書」を読ませていただき深く心を打たれております。私もこのような遺書を書き残したい、でもとても私には書けない、と思いつながら原さんを思い出しております。

原さんとは「天皇と私」と題する時事放談（二五二号）で一緒したことがあります。

す。私より四歳お若いとのことでしたが、落ちついた思慮深い方とお見受けしました。盛り上がった座談会の中で一度だけの発言でしたが、「元号を使わないこと、天皇一家の存在は女性差別の原点ではないか」についての意見を、きちんとまとめて話されました。

その後「エッセイスト・クラブ」に「最中」（二五六号）「ある下駄の話」（二五九号）「ガラス三題」（二六〇号）が載りました。それらは原さんの少女時代の話でしたが、身の回りの小さな物からふくらむ思ひ話で、あの方らしい文章でした。

ご夫君への遺書には、原さんが日常の生活をどんなに大切に、生きてこられたかが浮かび上がってきます。与えられたものでなくお二人で築いてこられた信頼感があって、病氣にも別れにもこのような澄みきった境地になられたのでしょうか。

私も、原さんのような遺書が書けることを目標として、これからの人生を大切に生きたいと願っています。

たった一度の出会いでしたけれど、私は原さんを忘れません。

ご冥福をお祈りいたします。

## 原さん、ありがとう

東京都大田区 青木千恵

二六三、二六四号に掲載された原眞智子さんのお別れの言葉、本当につらい気持ちでいっぱいです。

二六三号の校正をしている途中で事実を知り、その日は仕事ができませんでした。とてもショックでした。一度もお会いしたことがないのに涙が止まりませんでした。ゲラを一目でも早く編集部に戻さなくてはならないのに……。

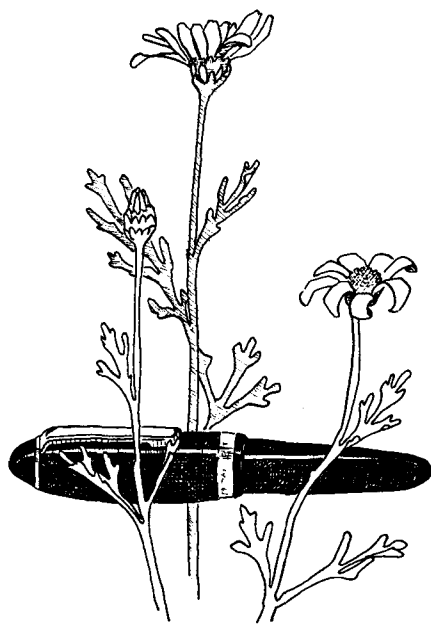
原稿用紙につづられた彼女の文字が大好きでした。おもわず、編集部に返送するときに、できれば彼女の原稿そのままを掲載してほしい旨、添え書きしてしまいました。いつもA4の原稿用紙に読みやすい、きれいな文字で、校正するのが楽しくなる原稿の一つでした。

いろいろな方の原稿を手にして仕事をさせていただいています。文字との相性とも言いましょうか、好きな原稿と苦手な

原稿があります。ワープロ原稿でも相性があります。

楽しい仕事をさせていただいてありがとうございます。

うございました。  
原さんのご冥福をお祈りいたしております。



## 二六四号「ナベ商法」 もつと前に読みたかった

大阪府茨木市 三好敬子

十三、四年前に、わたしも引かなかったことがある。多層ステンレスのナベセット（カナダ製）。

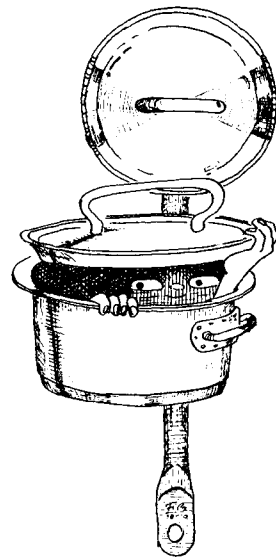
「ちよっとお料理を作らせてください。お台所とガスと水道を、少しだけ使わせてください。試食会です」

と言って、狭い社宅の台所に二人の人が入りこんできた。電話が何度もかかって、断わりきれず、

「お鍋を買うつもりはありませんよ。セールスではないんですね」

の問いに、前述の答え。使った後でも返せるというので、とりあえず、二十万円くらいだったか、クレジットで契約してしまっただ。南さんも書いていらっしやるが、本当に上手いのだ、やり方が。「セールスじゃないっておっしゃったでしょ」と言う、

「でもいい物を見たらほしくなるのは、当



然ですよね」などと言う。わたしは、輸入している大手商社に、電話で問い合せてみたりもしたが、

「うちの家でも使ってますよ」

なんて言われてしまつて……。夫の猛反対に遭い、クーリングオフの手続きをしようとして郵便を送り、休日に夫が販売店に出かけて行つた。しまいには、

「お宅のような立派な（！）な会社にお勤

めの方が、使用した鍋を返品されるんですか！」

なんて威されて、結局セットは返したが、

二〇センチメートルの鍋一個、三万円でき取ることになってしまった。もちろん、その鍋は、以来日々の調理に使つてはいるけれど、当時幼くて事情を知らなかった息子たちにも、成長するにつれ、夫が語り聞かせた。夫や息子たちから「おかあさんがだ



る掃除機」「家庭でできるドライクリーニ  
ング」「あらゆる病気に効く健康食品」「羽  
毛ふとん」……。もちろん、特殊ナベで  
作った料理も食べた。行かなかったけれ  
ども、下着や密閉容器のお誘いも受けた。

一番最初に、絵本セットを契約してしま  
い、後でクリーニングオフにした。それ以  
来、どの商品の勧誘にも疑ってかかってい  
る。身近な人のセールスには、おつき合い  
と割り切って少額の購入もした。あとは、  
好奇心から、買うつもりもないのに、参加  
している。悪く言えばヒマつぶしだが、世  
の中のものを知る、非常にキワどい勉強  
のしかただとも、私は思っている。サギま  
がいのものや、催眠商法もあった。一般の  
商店が「表」の経済活動とすれば、この  
「裏」とも言える経済界は、クチコミだけ  
に、「表」よりも早く、深く、真剣に広  
がっていく。

このような商法は新興宗教に似ている。  
わずかな心のすき間を上手にうめてくれ  
る。私の知る範囲では、新興宗教にハマッ  
た人は、たいていナベをはじめ、訪問販売  
による商品を素直に信じて、何種類も購入

している。そして、心をこめて私にも勧め  
てくれる。

今後、このような商法に接する時は、私  
もできるだけくわしい記録をしてみよう。

## 二六四号「私もひとこと」 の流稿さよさんへ

千葉県君津市 山橋ゆり（48歳）

「一生続きそう……」なんてそんなこと絶  
対ありません。むしろ順調な成長の証拠。  
「これで（こそ）いいのだ、将来ま・  
も」と考えて。そんな気休めを、とおっ  
しゃるかもしれないが、そういう「時  
期」なんです。泣いてばかりいると体に障  
りますよ。親として、することをしたら後  
は泣かないで下さい。

何が一番怖いですか、大事ですか。とこ  
とんのところ子供の命でしょう。思春期と  
いう、すごいエネルギーの魔物にとり憑か

### 自費出版は

「わいふ」へどうぞ！

「わいふ」ならではの

親身なアドバイス

良心的な費用

ご満足いただける仕上がり  
をお約束します。

●自分史、回想録、旅行記、童  
話、詩集、歌集、句集、同人雑  
誌、絵本、コミックなど何でも  
作れます。

●ご自分で撮られた写真やイラス  
トを使って楽しめます。もちろ  
ん、イラストレーターに依頼も  
できます。

●ご興味がおありの方は、わいふ  
編集部（☎〇三―三二六〇―五  
〇七〇）までご連絡ください。  
案内のリーフレットをお送りい  
たします。



れているのですから、いくら言い争っても勝ち目なし。笑っていなすおおらかさを、そのころの私も持てばよかったと思っています。

私も毎日言い争い、泣いてばかり、学校には何度度も呼び出されました。警察にも行きました。校長は「こういう子ほど将来親孝行になるんですよ」と。いまではその通り(?)。お情けで高校を卒業させてもらったこの子は「明るく気がきいていて口が固い」と職場で愛されています。登校拒否をしたもう一人は、時を経て自分で選んでイギリスの専門学校へさっさと行きました。



た。

「よその子は皆いい子なのに……」と思われるでしょうが、大なり小なり、皆経験しています。恥だと思わず、ちよつと弱音を漏らしてごらんなさい。示唆にとんだ言葉を与えることでしよう。また、あんな子とつきあわないで欲しいと思っている当の子から、またその親から助けられることもあります。

夫婦の関係も大きく揺すられました。初めのうちこそ喧嘩もしましたが、とことん話し合いや助け合いで、むしろかえってよくなりました。ケガの功名です。泣き暮

していたあのころには想像もできなかった穏やかな日々が、少なくとも今は続いています。我が家より派手(?)だったところも今では昔話、親子ニコニコ顔です。

数カ月ぐらいで過ぎてゆくものではありませんが、落ち着き払って、おおらかにたくましく過ごせば、必ず次の時期が来ます。普通の会話の時には、笑顔でやさしい言葉をかけてあげてください。

## キャリア技官の妻のつぶやき

匿名

二六四号私もひとこと「厚生省、ソボクなギモン」を読みました。

私は林野庁に勤める三十代半ばのキャリア技官の妻です。夫は毎晩一時半ごろ、寒風の吹きすさぶ中、最終電車でおんぼろ官舎に帰ってきます。十二時半ごろ帰って来

た日にや「どうしたの？ 早かったね」と  
つい言ってしまう異常さです。国会の会期  
中には、朝の四時や五時に帰って来るこ  
もあり、少し眠って、またいつも通りに出  
勤します。公務員は公僕だといいますが、  
僕どころか奴隷のような働き方をしていま  
す。

夫は、日本中の大方の人が経済成長に浮  
かれてる時代に、もう環境問題に目覚めて  
いました。十七歳の時です。この国の緑を  
守るには、自然保護団体のように外から批  
判するのも大切だけど、中から変えてゆく  
のはもっと大切だと考えて、大学は林学  
科、就職先は林野庁です。

大学の同級生のほとんどは一流企業に勤  
めているので、夫の収入とはすごい開き  
があります。当然暮らしぶりも違います。そ  
れがわかっていて公務員を選んだのは、使  
命感のようなものがあつたからで、それは  
厚生省に勤める技官も同じだと思います。

結婚して十年、六回の引越しを伴う転  
勤がありました。業者と仲良くなり過ぎな  
いためなので、私も仲良しができたころに  
はまた引越しです。



こんな働き方をして、夫が五十歳にな  
るころには、同期入庁二十人のうち出世の  
遅い順に、諸悪の根源の「天下り」をさせ  
られます。あんたはもううちには要らない  
んだよ、ということ。これは体のいい首  
切りです。その時長男はまだ十七歳です。

ピラミッドの頂点に登りつめるのはただ  
ひとり。それが厚生省ではO氏だったので  
す。

私は、夫に何が何でも出世してもらいた  
いとは思わないし、収入が少なくてもべつ  
に構わない。でも、定年まで働かせて欲し  
いし、毎日七時間は眠らせてあげたい。一  
日も早い奴隷解放の日を待ち望んで、今日  
も、仕事好きの上司が倒れてくれるのを  
祈っています。

(え・橋本美智子)

平成  
おたまたげーション

31



## クローン羊誕生

一生物の生殖にもうな雄はいらない



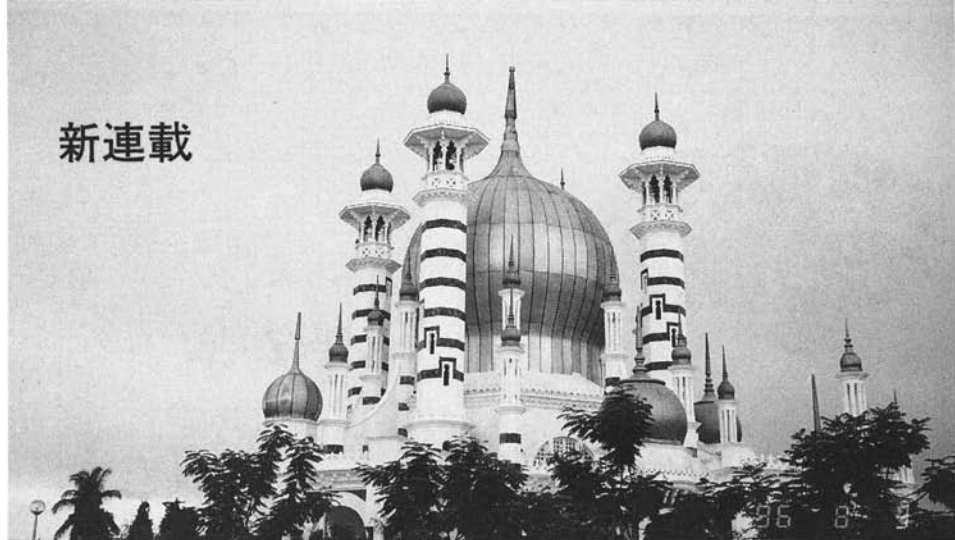
米大統領

クローン人間の研究に  
金出さぬと発表

博士

日本の宮内庁から  
資金援助の申し出が  
きています

新連載



# 三度おいしいマレーシア

多民族が共に暮らせば

東京都世田谷区

上田弥生子

朝、六時に目が覚めると、もう明るくなっていたり、子どもが暗くなるまで一日中、外で遊んでいたりとすることに違和感を覚えなくなった今でも、まだ、右手が覚えているマレーシアでの暮らし。いくつもの買い物袋をきき手の右手に引っかけて、自由な左手を遊ばせたまま、まだお金を右手で払おうと頑張っている。あつ、そうか、左手って汚いものじゃないんだった。マレーシアでは、水と左手を使っておしりをきれいにする人が多いけれど、日本では紙を使うか、ウォシュレットっていう便利なものもあるものね。お金を左手で渡しても嫌がられないんだ。慌てて左手の出番となる。

逆カルチャーショックというけれど、やはり日本は住みやすい。シンプルだ。日本語ひとつでやっていけるし、みんなとっても親切だし。目立たぬように、みんなとおんなじようにやってる限り。九四年の六月、夫はマレーシアのイポーという人口五十万の地方都市へ赴任することになった。妻と一歳になっ

たばかりの子を伴って。

マレーシアという国は、ゴムとすずの産地だと中学生のころに習った。十六世紀の東西貿易の中継点、マラッカもある。あのフランシスコ・ザビエルがここを足場に日本にやって来た。最近では、シンガポールとタイを結ぶ、東洋のオリエントエクスプレスの通り道であるとか、アジア有数のビーチリゾート、ベナン島のある国ということ  
で有名だ。

夫のマレーシア赴任の話は、もういまから十年前、私がまだ独身で、大阪市の中学校の教員をしていたころにも一度あった。好きな男と外国暮らしができるなんて、とホイホイ仕事をやめてしまったというのに、外国暮らしは熱帯病の巣、西アフリカに突然変更。

おまけに赴任したかと思ったら、半年目に内戦が始まって、たった九カ月でスーツケースひとつで逃げ帰って来て、それでおしまい。赴任一年目に与えられるヨーロッパでの三週間の休暇も、念入りに計画を立てただけで、い

つのまにかイギリスでのガトウィック空港からヒースロー空港への、乗換え六時間の旅しか、結局できなくなってしまう。(でも、バックingham宮殿の衛兵交代だけはしっかり見た。空港からの電車を乗りまちがえて、一時間ほど田舎の旅もして、羊もいっぱい見たけれど。詐欺だの、だまされたのだのと私に言われ続けて、ちよつと気の毒だった夫も、ほつとしたに違いない)



イボアの街並み。高層ビルもほとんどない

## イスラム教徒のこだわり

ものの十分も浴びていると、たちまち皮膚ガンになりそうな熱帯の、強いというよりは痛い日差しが少し和らぐころ、その儀式は始まる。いまひとつわけのわからないまま、ブラウン管の香港ドラマをぼおつと眺めていると、突然ぶちつと音がする。まだ外で遊ぶお許しをもらえないままに、ひんやりとした大理石の床の上で、カランカランと音をたてて積み木遊びに興じていた息子、春樹が両手に積み木を持ったまま一目散に駆けてきて、テレビの前に仁王立ち。ブラウン管に流れだしたのは荘嚴なモスクとひれ伏して祈る人々、芸術的なアラビア文字に、高らかにコーランを詠む声。そう、ここはイスラムの国、マレーシア。国民の六〇パーセントがイスラム教徒である。

おい、春樹、お前はいつからイスラム教徒になったんだ？と叫びたくなるほどコーランの調べは彼の心にしみ入るらしく、お祈りが終わるまで微動だ

にしない。お祈りの時間が終わって元の番組に戻ると、まるで魔法が解けたかのように積み木遊びにもどっていく。これはうちの子だけの現象かと思っていたら、ある時、子どもが二人遊びに来ていて驚いた。まだ、一緒に遊ぶということができない三人の幼い

子どもたちが、お祈りが始まるやいなや、それぞれの手を止めてテレビに見入っているのだ。やはりコーランには力があるのだ。  
イスラム教徒の特徴を手短にいうと、一日五回のお祈りをし、年にひと月昼間の断食をし、お酒は飲まない、豚は



お祈りの放送に見入る春樹  
画面上からアラビア語、マレー語、英語が映っている

食べない、むやみに肌をさらさない、イスラム教徒以外と結婚しない。そして、何よりだいじなのは、アラアの他に神はいないと信じていることである。

なぜ、豚を食べてはいけなくなったのかと、あるイスラム教徒に問えば、昔、砂漠で豚肉がもとでひどい病気が広がったからだそうで、あんなに栄養価の高い肉を食べられないなんて、かわいそうだと思うけど、教義なんだからしかたない。それに本人たちはちつともかわいそうだなんて思っていない。小さい時から、汚い、汚い、と言われつづけて、豚、と聞くのも嫌なほど嫌っているのだから、嫌いなものはしかたない。どのくらい嫌われているかというところ、ある時、見つけてしまった。わが町イポー最大の、四階建てスーパーのエレベーターに、たぶん中学生か、高校生が書いたのだろう、マレー語ではつきりバビ（豚）と落書きしてあった。いわゆる生活習慣病に関する知識も普及しはじめてはいるものの、この国には富の象徴として太りた



スーパーの豚肉売り場。ここでは奥まったところに小部屋があり、そこで売っている。ふつうのスーパーでは棚がちがうだけ

が人がいまだにいる。だからこれは豚の容姿をからかったものではなく、豚の存在そのものを意味している。それを書いた子がイスラム教徒だったかどうかはわからない。ただ、その言葉が他人の眉をひそめさせるに十分な力を持っているということだけは言える。

正確に言うと、たとえ豚肉ではなくとも、イスラムの方法に則って屠殺された肉でなければ食べてはならない。その方法とは、何やら難しいアラビア語でお祈りを唱えながら頸動脈を一気にかききり、血を出し切るのだそうで、交通事故などで死んだ動物などは食べてはならない。イスラム教徒が食べていいものをハラルといい、食べてはいけないものをハラムというが、いちいち屠殺場に行つて調べて来るのも大変なので、食べていい物にはハラルと表示されていて、イスラム教徒はこれを頼りに買い物をしている。スーパーの食肉売り場では、イスラム教徒が食べていい鶏肉や牛肉はハラル、豚肉はノン・ハラルというふうにコーナ―を分けて売っている。豚はたとえ脂を使つただけでも、だしをとつただけでもだめなので、インスタントラーメンから調味料からゼリーから袋菓子に至るまで、ハラルのステッカーが貼つてあったり、印刷してあったりする。レジでは、豚肉を買おうものなら、

わざわざ手袋をはめて扱ってくれる。それは使い捨ての手袋だったり、スーパーの袋だったりするが、要するに豚肉の入ったパックに（豚肉そのものになんてとんでもない）触れたくないのだ。たとえハラルのものを買つても、怪しいものはみな手袋の刑。「それ、ビーフだから」と言つても、「そのハム、ターキーだから」と言つても全く無駄。疑わしきものは罰せよという感じで、手袋をはめてくれる。スーパーの袋をひよいと裏返して、全くパックに触れずに袋詰めしてしまふ、熟達者もいる。

ある時、ビーフのミンチを買つたら、表示が何かに問題があったらしく（マレー語で店員同士が会話していたのでよくわからない）、私がそれはビーフだ、つて言うのに、彼らはあまりミンチを食べないせいなのか、信じてもえなくて、お肉の入ったビニール袋の結び目の、さらに端つこのほうを、親指と人指し指の先でつままれたことがあった。死んだ蛙の片足をつま



ふだんは中国人の肉屋で豚肉を買う  
焼き豚1本分のロース肉が300円ぐらい

むみにたいに。素手で触ることができないようなものを食べてる自分が、何だか惨めに思えてくるやら、人の食べるものにそこまでけちつけることはないでしょう、と腹立たしいやら。そんなこんなで、だんだんスーパーで豚肉を買うことが少なくなっていくた。

それでもたまにはベーコンやハムがむしように食べたくなる。そういう時は、イスラム教徒以外のレジ打ちの人の列に並ぶ。うまいぐあいに、イスラ

ム教徒かそうでないかは慣れてくれば一目でわかる。不幸にして、イスラム教徒しかいなければ、私が手で持つて値段を見せて、私がこの手で袋詰め。おねーさんにはにつこり笑って袋をくれて、バーコードは無視して手で値段をうちいれる。おねーさんは豚に触らずにすんで幸せ。私も、嫌な思いをせず

## 多民族の国

イスラム教の国ならば、豚肉なんか売らなきやいいのに、と思われるだろうが、それではこの国の経済はたちゆかない。何しろ、この国の人口の三〇パーセントは中国人なのだから。彼らは大の豚肉好き。朝、昼、夜と三食食べても平気だし、お祭りといつては豚の丸焼き、結婚式にも豚の丸焼き、と

いったぐあいに。宗教上の理由で牛肉は食べない中国人がいても、豚肉を食べない中国人はいない。その上、経済力がある。豚肉を扱わなければ、そのスーパーに中国人は来ない。第一、

スーパーの経営者自体が中国人だった

りするのだから。

ついでに書いておくと、残りの人口のほとんど、正確には全人口の九パーセントはインド人。インド人は牛を食べない。汚いからではなく、尊いからである。インド人は牛を飼い、毎日牛乳を飲み、ヨーグルトを食べるが、母



近所の商店街。奥の角にあるのはケンタッキーフライドチキン  
ちょっとしたごちそう感覚で、いつも混んでいる



なる牛は食べてはならない。汚いから食べないというのよりはずっと宗教的な、崇高なものを感じる。でも市場やスーパーで売っている牛肉に「インディアンビーフ」なる名前がついている国産ものがある。もちろんハラルだ。売りとはすぶんにはかまわないらしい。きっと中国人経営の食肉工場で、インド人から仕入れた牛の頸動脈を、イスラム教徒がお祈りしながらききっているのでしょうか。

私たち、一般的な日本人の常識では、日本には主に日本人が住み、韓国には主に韓国人、タイには主にタイ人が住んでいる。ところが、マレーシアはそうではない。マレーシア人のルーツをたどれば、千九百万人の人口の約六〇パーセントがマレー人、三〇パーセントが中国人、九パーセントがインド人（パキスタン人も多少いる）、そして、一パーセントがオラン・アスリと呼ばれる先住部族たちである。オラン・アスリのオランは、オラン・ウータン（森の人）のオラン、つまり、人とい

う意味だ。

日本にアイヌ民族がいるように、この国には、今はまとめてオラン・アスリと呼ばれる人々が、昔からあちこちに住んでいた。そこへかなり大昔、海をこえてマレー人がやって来て、オラン・アスリたちは内陸のほうへだんだん押しやられていったらしい。そういう状態が何千年も続き、十三世紀には



キアメロンハイランドの紅茶畑。今でこそ自然保護の先頭を走るイギリスも、100年前には熱帯林を伐採し、山の頂上まで茶畑にしていた

マレー人の間にイスラム教が広まった。その後、十八世紀の末から十九世紀の初めにかけて、すず鉱山の労働者（苦力）として、中国南部のほうから大勢の中国人が移住し始めた。そのあと十九世紀末から、ヨーロッパ人が経営するコヒー、紅茶、ゴムなどのプランテーション農園の労働者として、インド南部からインド人が本格的に移住してきた。一五一年にポルトガルがマラッカを占領して以来、オランダ、イギリス等のヨーロッパの列強が初めは部分的に、後に全面的にこの国を支配してきたので、マレー人が力を回復した今世紀後半には、マレーシアはもう、どうしようもないほど多民族化していたのだ。

今は言葉も、習慣も見えた目も全く違うこれらの人々、つまり、マレー人も、中国人も、インド人も、オラン・アスリとまとめて呼ばれるたくさん部族も、みんなそれぞれマレーシア国籍を持つ。つまり、マレーシアという国家に守られているマレーシア人なのだ。

—つづく—

（写真提供・筆者）



## 父の死

東京都世田谷区 太田啓子（38歳）

私の父は、昨年の十二月十七日、六十五歳で他界した。胃ガンだった。

血尿が出、下血し、そして黄疸症状の出た父は、自宅でも口にするのがでなくなつて二日目の、十二月七日に、通院していた大学病院に入院した。母の体力も心労も限界にきているように思われたし、自宅での介護はこれ以上無理と思

われた。（できるだけ家庭で療養を、でも自宅でも口にする事ができなくなつたら入院しよう、という病院側との約束もあった）

入院してすぐ点滴が始まった。それまでも週一回の通院時に二時間ほどの点滴は受けていた。が、入院後の父は、点滴のチューブにつながれ、いつ行っても薬のビンから断続的に透明な液体が父の体に流れこんでいた。

半年ほど前入院経験のあつた夫は、「あの点滴っていうのは、すご〜うつといういのなんだ」と言った。

父は、心拍数をモニターで見するための機械も胸にはりつけられていた。「こんなもんつけられちゃったよ」と、見舞い客に少しおどけた顔で胸の丸いばんそうこうを見せていた父は、何を思っていたのだろうか。

父は、ガンの告知を受けていなかった。治る見込みがない段階でガンの見つかった父に対し、主治医がまず反対だったし、私達家族も同意見だった。気弱な父が本当の事を知ったら、いったいどんな気持ちになるのだろうか。想像することもできなかつた。だが、本人が本当の病名を知らないという事は、末期に近づくにつれ、いろいろな問題を私達になげかけてきた。

入院にしてもそうだった。父の黄疸症状に対し担当のN先生は、それを手術のストレスなどによって肝臓が悪くなっているからだと言明した。だから父は、「こんなふうに家でドラドラした生活をしていてもしかたないと思うんだ。肝臓が悪いのならちゃんと入院して、それを治してまた退院してくれればいいと思うんだよ」と言っていた。そういう言葉を聞くのは、本当にとってもつらかった。

入院して一週間、二十四時間の点滴を続けても、父の苦痛が少しでも和らいだようには思われなかった。そんな父に対しN先生から、このままでは点滴の栄養がうまく体内に入っていないから、肩からする点滴に切りかえたいと思うがどうだろうか、という話があった。それによって、心臓に近いところに栄養を送りこむので効率がよいのだという説明だった。しかし、この点滴にかえると一〇〇パーセント家には帰れないということであった。少し状態がよくなったら、お正月は家で迎えることができるかもしれないと淡い期待を持っていた母と私には、それはつらい宣告だった。

十二月十六日（月）午後、父の肩に点滴がはめこまれた。パジャマの肩の部分が赤い血で染まっていた。「痛かった？」と聞く私に、「よくなるた



めにはしかたないよ」と父は言った。

翌日十二月十七日(火)の昼ごろ、母から電話があった。黄疸症状を少しでも改善するために、胆汁を外に出すための管を今日つけることになったという。以前からそういう話はあったのだが、あまりに急な知らせで少しとまどった。きのうで今日、という気持ちもあったが、もつと先にのばしてほしいとお願ひする正当な理由も見つからず、母と二人病院へ向かった。

その日の父は忙しかった。CTをとりに行った、いつもならほとんど寝たきりの状態なのに、あらこち移動させられていた。若いナースが父に「今日はいろいろ忙しくなっちゃいましたね。体だるいですか?」とたずねると、父は細い体を精いっぱい移動させながら「だるいなあ」と答えながらも、ナースの指示に従っていた。

施術は三時半から始まるというので、それまでの十分ほど、私は細く黄色くなった父のうでをさすっていた。結果的には、これが父との最後のスキンシップになってしまったのだが。

施術は五十分ほどで終り、父は病室に戻って来た。「痛い?」と聞くと、「痛いんだかどうかどうなんかわからないよ」とけだるそうに答えていた。

W先生から、うまくいきました、という説明を

受けほっとした私は、父に「また来るからね」と言って帰りかけた。いつもなら「ああ」とか何とか言って答えてくれる父だが、その日は疲れていたのか、目をつぶったまま「ウン、ウン」とうなずいただけだった。

夜十時過ぎ、ドラマの最終回を見終った私は、そろそろお風呂に入ろうと思い、時計を見ると十時七分だった。とその時、電話が鳴った。夫かと思っただが、思いがけず母だった。「容体が急変したからすぐ来てくれて、病院から電話があったのよ」とあわてた声で言っている。「え! どうして」。五分ほど離れた実家まで雨の中を走り、母といっしょにタクシーに乗り込んだ。

母の話によると、私が帰ったあと弟と合流した母は、七時半ごろまで病院にいたという。その時、父の呼吸が少し荒いのが気になり、「残りましょうか」とナース主任に尋ねたそうだが。しかし、「長期戦になると思いますから、どうぞ今日はお帰り下さい」との答えだったので、後のことは病院にまかせて帰って来たということだった。でも、なぜ、どうして。何もかもうまくいっていたのに。

病院のエレベーターで四階まで上がり、「竹内です!」と名前を告げた。どうもベッドは病室か

らナースステーションに移されているようだった。部屋にとびこもうとする私を当直医が立ちふさがるようにして止めた。

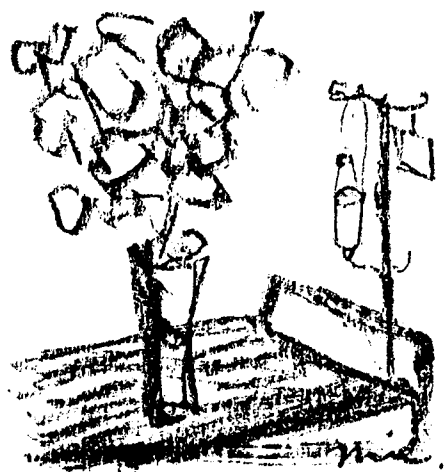
「え!? もう亡くなっているんですか?」

なぜか反射的にそう叫んでいた。

「はい、十時十三分でした」

「どうして!……」

部屋にかけ込むと、父が目と口を少しあけ黄色い顔で横たわっていた。息はなかった。「ごめんね。ごめんね」私は父の額に私の額をこすりつけ



て泣いた。

「一人でいつちゃったの……」

嗚咽がこみ上げてきて、どうすることもできなかった。

ナース主任の説明によれば、九時の見まわりの時には別状はなかったのだが、その後何回かナースコールがあり、ハアハアと苦しそうだったという。九時の消灯後であつたため六人部屋にいた父は、まわりの患者さん達に「すみません、すみません」と気を遣っていたという。タオルで自分の汗をふいていたともいう。そんな力が残っていたのだろうか。心拍はずつと正常だったのだが、急にストンと落ち、そのまま戻らなかったのだという。心臓マッサージをしても無駄だったということだった。

父が死んだ。家族が誰もいない暗い病室で、気を遣いながら死んでいた。「夜が恐ろしくてしかたないんだ」。数日前、父がボソリと言った言葉がよみがえった。こんな事になるのなら、肩の点滴も胆汁の施術も何もしなければよかった。早く二人部屋に移してあげればよかった……。

どんな事も素直に聞いてわがまを言わなかった父。

もし、自分がガンだとわかっていたら、何もさ

れたくなかったのではないだろうか。家にいたかったのではないだろうか。どんな気持ちで死んでいったのか。でも告知を受けていなかったから自分が死ぬとは思っていなかったのだろうか。治ると思っていたのだろうか。希望を持っていたのだろうか。今となつては聞くすべもない。

## 夫へのラブレター

山口県下関市 深田加奈

夫が、ラブレターをもらった。たで食う虫も好き好き。

女は、ずっと前から夫に恋愛感情を抱いていた。女は心をこめて、精一杯の一言を夫に伝えた。夫は女の真剣さに驚き、たじろぎ、そして男の本能でうれしがっている。夫は女を抱いてみたいと思つた。よろめかない、よろめきます、よろめく、よろめくとき、よろめけば、よろめけ。

夫は自分を失い、苦しまぎれに私に全てを告白した。私は夫の話を、ふんふんと聞く。よくある

話だ。人の世には、恋という名のアナボコが、無数に開いているのである。

こんな時、妻はどうふるまうべきか。私は決して声を荒らげず、釘をさす。気を付けなさい。会社の女に手を出すと、あとが大変。すると夫は、いい人なんだ、と女をかばつた。バカみたい。よその男に手を出す女が、いい人なんかであるはずがない。

女は真性のプラトニックを装っているだけだ。女には、すでに夫と子供がいる。そんな女が、どうしてプラトニックでいられるだろうか。メスがオスを見て発情している。これが正しい解釈だ。女は結局のところ、夫とセックスがしたいのだ。恋の最終目的はセックスだ。そんな分かりきつたことを……。

いい人なんだ、と夫は言う。男はいつまでたつても、読みが甘すぎる。

夜が来る。闇とともに、どこからか女のせつなさ伝わってくる。女はとてもあわれだ。私は諭す。いったい、どうしたいというのか。家庭を捨てるのか、家族持ちの恋は命がけだ。分かっているのか。

女は、家庭を捨てる気はない。ときどき夫とホテルに行きたいだけだと、そう言つた。

夫が不在の時、かばんの中を調べる私。安っぽいテレビドラマだ。女からの手紙が出てくるかもしれない。ワクワクしてくる。昔から、こんなことをしてみたかった。大捜査で出てきたものは、湿気ったあられが一つぶと、釣具屋の古いレシートだけ。色気のない男だと思う。この人のどこに魅かれたのか。たで食う虫も好き好き。女に、夫のどこがそんなによかったのか、私はたずねてみたい。そうすれば、私にも夫はすてきに見えるだろうか。

女は、夫の返事を待ち続けた。そして女は、二人っきりで会いたいと、どこそこで待っていますと、夫に告げた。二度目のアプローチ。夫は、行

けない、と答えた。女は泣いた。

ああ、もう煩わしい、どこかへ行ってしまう。夫が女の視線に耐えられないと、嘆いている。何をぜいたくな。言いよられたのは初めてのはず。こういう男に、もてる資格はない。もっと、もて遊ばなくては。

翌日夫に転勤命令が出た。夫はほっとした。

転勤間際、夫は女からプレゼントをもらった。

断わった女からプレゼントをもらうとは、なんてバカなのと思う。女もバカだ。断わられた男にプレゼントするなんて、ルール違反だ。潔くあきらめねばならないのだ。

夫はうれしそうにプレゼントのリボンをほど



く。私は腹が立ち、夫からプレゼントをもぎとると、暴力的に包みを開けてやった。半端な恋は、征伐してやらねば――。プレゼントは、かなりの額のものだった。働いている女はいい。男にりっぱなプレゼントができる。貧乏な妻はみじめだ。プレゼントたちはどれも、私のこと忘れないで、と言っていた。

夫が私のところに戻ってきた。これからも私の生活は安泰だ。娘も父親を失わずにすんだ。そして私は、再び夫をもてあます。いったいこれでもかったのか。この人はこうやって、一生私の側にいるのかもしれないと思う。

## 墮胎

埼玉県所沢市 匿名

「生理が遅れている。もしや」。もう三回目ともなると動揺も少ないが、それにしても長男二歳、長女半年、まだ二人共オムツをしている。うえに、もう一人増えるだなんてゲッソリしてしまいそう

です。けれど今の私はやる気満々はりきっているのです。

我が家は自営業を義父、義母、主人で営む、経済的には独立させてもらっていない家庭なのです。

さて、三人目懐妊の報告となったとき、あまり雲行きがよろしくないのです。義母などは、あからさまに嫌な表情でイヤミな言葉が続き、しまいには、「病院で相談したほうがいい」とまで言うのです。込みあげてくる制御のきかなくなった怒りを抑えきれなくて「一人も子育てをしていると、もう子供を堕ろすなどという発想には至りませんので」と告げ、そそくさと自宅に戻って来ました。

心臓はドキドキし、この怒りをどう鎮めようかと思案していた時、友人からの電話が入り、一時的にも平常心に戻れ、さあ、あらたに戦闘開始です。

結局、義母としては私が実家に帰らず、自宅近くの病院で出産することで、我が身の労力を煩わすことに懸念を感じたのでしょう。自分の娘でもない他人の出産の世話などこりこりよという感情がひしひしと、伝わってきたことが、何よりも悲しくおもわれました。

結果的に、私達は出産するということを強硬に





押し切り、つわりの最中でも、孫におかず一品運んでくれることがない義母に、期待するのが誤りという姿勢で、夫婦二人でなんとか乗り切ろうとしているのです。

今、世間でイジメ問題が盛んに騒がれていますが、そのない優等生タイプの主犯が出来る悪そうな同級生を操り、気に食わない奴をイジメるという場面に実際出くわしたことがあります。主犯は先生や父母の評判がよく愛想もよいので、周りの誰が彼を疑ったでしょうか。いじめ方にしても、目に見える傷やアザができるようなやり方ではなく、精神的にじわじわと苦しめていくタイプのいじめ方なのです。今、私はその時のことを思い出して自分と重ねずにはいられない。義母はとも愛想のよい優しい人で通っているし、初めは私もその通りに思っていたのだから。

けれど、結婚四年目にしてもう何度も人目を避けたところでの、言葉による暴力を受けているのです。

でも私は決して負けない。精神的な力をもつつけて強くなってみせます。

ふと我が子の寝顔を見ると、涙がこみ上げるほどいとおしく、今日はなおさらかわいく見えます。お母さんはがんばるからね。

## 骨粗鬆症は作られる

東京都日野市 十河温子

昨年の八月、同居中の夫の母が居間でころび、左大腿骨頸部を骨折してしまった。高齢者に一番多いケガという。

それ以来自分で自分の体を動かせない、全くの寝たきりとなってしまった。人工骨による大腿骨骨頭置換術の手術も一度は成功し、回復に向かってはいたが、主治医の危惧が適中し、脱臼の二度目の手術のかもしれない、関節は元通りとはならなくなってしまう。

その上左肩関節は数年前から脱臼したままとなっており、右肩関節は習慣性脱臼、つまり少し手を上げれば、角度によつてはすぐに抜けてしまうほどむろい関節となつてしまつていた。足の骨折以前から、背骨の湾曲をはじめあらゆる部位の骨の変形がみられ、加えて骨をささえる筋肉も弱つていた。そのため部分的なマヒも多くなり、年を取るにつれ体の自由がきかなくなつていた。

病名は骨粗鬆症である。今はベッドの上で、首の硬直からあごが高く上がったまま口をあけ、生



氣を失った目を天井に向けて一日をすごしている。食べものを飲み込むことも、頭にイメーじした言葉を正確に発音することも、できなくなってしまう。何かを訴えたくても私たちにはほとんど何もわからない。経管栄養のための管が鼻に取り付けられ、とても正視できる状態ではなくなってしまった。

それでも私は毎日、今日は大丈夫かしらと重い気持ちで病院へ車を走らす。面会しなければならぬ母の様子を思い浮かべると、ハンドルを握りながらも涙があふれてくる。こんなことなら家で憎まれ口をたたかれていたほうが、まだ良かった。骨折し、型通りの弱り方をさせてしまったことが悔やまれてならない。

遠く四国から見舞に訪れた叔母たちも、

「兄弟姉妹の中で一番わがままな人だったけど、こんな姿になるとなあ」

と母の枕元で泣いていく。

意識はあるのに話すことができず、口は渴き切り、つまった痰を吸引してもらったたびに体が大きくのけぞる。苦しいであろう。何度検査をしても脳・内臓・血圧その他何もかもが正常であるのに、体が動かない。何と残酷なことであろうか。でもこんなことになるまでに母がもっと違った生

き方をしていれば、術後の回復はもう少し違ったはずだと思えてならない。

十五年前、連れ合いを亡くした時、母はまだ元氣だった。一人の暮しが始まり、夫中心の生活から自分中心の生活に切り替えられるチャンスだった。

「何かお稽古事でもされたらいかがですか？」

と私は無趣味の母に尋ねたことがある。答は、

「人にものを教えてもらうなんて、そんなアホげなこと（バカらしい）」

とにべもない。

「それでは本でも読まれたら？」

「面白くない」「肩がこる」「目がよく見えない」

と言ひ、揚句に「あくせくするより寝てるのが一番」と横になつてばかりいた。

母は若いころに小学校の教員の経験があり、抜群の記憶力と観察力、そして好奇心もある、知的能力の高い人であった。だからこそ、その能力を生かすことなく、腰が痛い、足がだるいとただテレビを見て時間を潰してしまっていることが、私には勿体なくてならなかった。母は何か生きがいを持つべきだった。

この体を動かさないことと、極端な偏食が原因で母の体の骨はもろくなつてしまった。少なくとも



も私はそう確信している。

加齢に伴う気力の衰えは仕方のない面もあるが、離れて暮している間、私は電話のたびに、「お体を大切に」などと甘い言葉をかけなければよかった。それよりも「ちよつと無理をして体を動かしてくださいね」と、結果はともかく、くり返し苦言を呈しておくべきだったと後悔している。

（え・佐藤瑞江子）

# 野菜で老いを美しく 水と生命の健康学

藤井平司 著

東京都品川区 佐藤ゆかり



世はエコロジーブームで、地球を汚すゴミの削減が叫ばれ、無農薬野菜が脚光を浴びる。それはそれで素晴らしいことだが、果して地球は、人間は、それで本当に健康を取り戻しているのだろうか？

何より、大切なのは「自然界の摂理に従って生きること」。五十五年に亘り、野菜の品種改良に努めた本草学探究家・育種研究家の著者の言葉だ。

つまり、雨の流れを山の木が止める。無農薬の野菜には虫がつくが、それはスズメが食べてくれる。草食動物が草を食むことで植物の繁殖を調整し、肉食動物が草食動物の過繁殖を防ぐ。そんな、一切、無駄のない自然界の仕組みを理解し、

人間もここに生きる一種の動物であることを認識すること。生態系のバランスを調整するために、食み合い関係を保つ動物のテリトリーを侵さないことが大切、という。

そして、便利さ追求で自然を壊して生態系を乱すだけではなく、快適さ優先で冷暖房に頼って生きる現代人を危惧し、ドライアイ、アレルギー体質、大災害などには加害者である人間への自然（被害者）からの仕返し、子供の退廃は「人間が自然の摂理に反した子育てをする歪み」であることを説明。自然と共存する生き方を取り戻さない限り、健康な体を取り戻すことはできない、と警告している。

また、本書では生命の源となる「水」を紹介。水が人間の体はもとより、自然のすべてを浄化し、正常な働きへと導く過程を余すことなく教えてくれる。「汚染されていないきれいな水が、きれいな生物を生みだす。きれいな水を含んだ健康な土が育む野菜は、野菜本来の味がし、日数が経って萎びることはあっても腐ることはない」。この「きれいな野菜」が、何よりの健康食になる、ともいう。

今、私たちは自分のために、「地球に優しく」を考える前に、自然に取り込まれて生きる方法を学ぶ必要があるのかもしれない。

農山漁村文化協会 一六〇〇円

# おさない子を育てる



## あまりだっこは しなかったけれど

タイ・ピッサヌローク市  
ながはたみか

双児の娘達がまだ赤ちゃんだったころ、わたしはもう一人子供を授かるのが夢だった。思いきりだっこしたかったから。

「下のおじょうちゃん、なかなか起きないから、上の子が泣いたらその時一緒に起こして、飲ませるといいですよ」  
生後十五日の娘達をわたしに手渡しながら、看護婦が言った。五日間の入院後、一人先に退院していたわたしは、ようやく一緒に暮せる喜びにニッコリうなずいて帰った。

二、三日は言われた通りに、三時間毎に泣く長女にあわせて次女にも授乳したが、彼女がよくミルクを吐くので考え直した。長女には長女の、次女には次女の体のリズムがあるのだから、一緒になんて気の毒だ。乳児のくせに時には八時間ぐっすり眠る次女は、彼女なりに満ち足りていたはずだもの。  
それでも、それぞれのリズムにあわせて授乳をしていると、一日二十四時間、ほとんどおっぱいを与えミルクを補うという作業で終わってしまう。

やがて一カ月がすぎ、一度に飲める量が増えてくると、一定の時間をおいて飲むようなリズムになってきた。ほっとひと息ついたのを覚えている。

さて、どうやって二人に授乳していたかという、まず、おなかをすかせて泣いている子におっぱいをあげる。おっぱいは長女が左、次女が右と決めていた。実際、左右のおっぱいの出方は違っていて、ああ不公平だなあと思ったけれど。その後、夫がいる時は夫がミルクを飲ませ、わたしは次女のおっぱいをあげる。わたし一人の時には、ひざの上に枕をのせ二人同時におっぱいを飲ませ、それからふとんにねかせてミルクをあげたりした。公平に公平にと思ったから。

だからわたしは、おっぱいをあげる時以外に、あまり娘達を抱きあげることはできなかった。一人を抱いて一人を待たせるのはつらい。たまに一人だけ寝そびれてぐずる時、いつもの分もとだっこした。

あまりだっこしなかったことが、ど

んな影響を与えているかはわからないけれど、大切なのは「赤ちゃんの言うことを聞いてあげること」だと思う。赤ちゃんが泣くのは必ず理由がある。赤ちゃんが泣くのは「呼びかけ」たいからだろう。おなかがすいたよう、ぬれたおむつを取りかえて欲しいよう、背中がチクチクするの、眠いのうまく眠れないのよ、と泣く。



えてきたつもりだ。月日を重ねるにつれ、泣いて呼びかけていた赤ちゃんが、声を出して私を呼ぶようになる。呼べば応えてくれると知っているからだ。呼んでも誰も応えてくれなかったら、赤ちゃんは大きな声で泣くだろう。まだ誰も応えてくれなかったら、もっと大きな声で泣くだろう。そして終いには声も小さくなり再び眠りにはいつてゆく。この時赤ちゃんは、自分の呼びかけが無駄に終わったことに絶望し、あきらめることを知るのだと、波多野

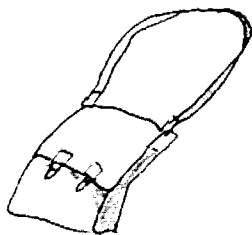


誼余夫・稲垣佳世子著の「無気力の心理学」(中公新書六八〇円)の中にあった。この「無力感の獲得」は、もちろん、こうしたことが何度あったからといって起こることではなく、あくまでも何回も繰り返し生じた場合に限られる、とある。

実際わたしも泣きつかれて眠る娘に、やれやれと思ったこともあるし、たいがいの母親にも同じような経験があるのではないか。

だっこをするほうがいいとか否ということは、前おんぶ(変な言い方だが)より後おんぶがいいというような、問題のすりかえでしかないと思う。要は赤ちゃんはどうして泣くのか。どうしたら泣き止むのか。原因がわかったら取り除いてやる。呼びかけに応える。それでいいと私は思う。

三人目の子供を授かることなく、娘達は六歳になった。一人を抱くともう一人がぶらさがってくる。だっこされたいとやって来る。だっこしてあげようじゃないの、だっこ。



## 「××式」の魅力

埼玉県新座市

上田はるか

「やっててよかった××式」。長男は四歳から四年半、次男が四歳から二年半、この学習方法を続けている。

一教科六千円。月々二人で二万四千円という高い月謝を払い、週二回教室へ通う。その日の勉強と宿題の間違いの訂正を終えると、また毎日の宿題のプリントを持ち帰る。週のうち五日は、家で、親との格闘となる。

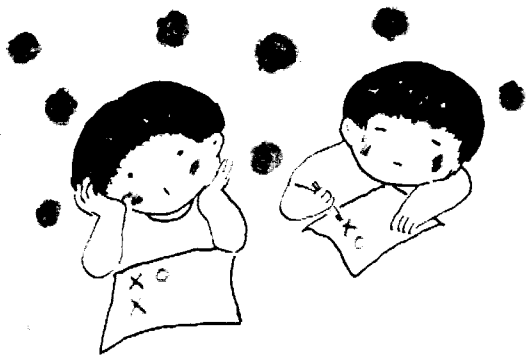
幼い子を毎日机へ向かわせることは、簡単なことではない。「やりたくない」と泣くはグネるは、大騒ぎとなることもある。そこを、うまくおだてて、時には叱咤激励。

まだ鉛筆も満足に持てなかった子が、国語と算数の勉強を、よくも毎日毎日続けてくれたと思う。

そして、この場だから言うが、小さな子がこの「××式」で伸びるのは、先生のお陰でも何でもなく、まさに、親の毎日の叱咤激励の賜物だと思う。

我が家も例外なく、親子でプリントを前に、何度も「修羅場」を経験した。そのお陰か、四月から三年生の長男

は、計算が得意。通信簿も、この二年間、ほぼ完璧に「よくできる」ばかりだった。読書も大好きで、ひまさえあれば、本を開いている。「××式」の教室では、国語・算数とも、二学年





・三学年先を勉強しているエースである。

他のお母さんからは「上田君はできるからいいわね」と羨ましがられ、親としては、鼻高々、将来が本当に楽しみ……のはずなのだが。

この三月で、二人共、きつぱりと「 $\times \times$ 式」とおさらばすることにした。確かに今のところ優秀である長男、与えられた問題は、そつなくこなす。ところが、「考える力」がこの子にはあるのだろうか、時々不安になるのだ。

手先が不器用で、工作が苦手なのは仕方ないが、作品を一人で完成させることが、いつもできない。先生にも聞けず、友達にも聞かず、結局できないと諦めてしまう。

本が大好きなのに、読書感想文、作文、手紙さえも書けず、書く気も起らないらしい。与えられた文を読解する力はあるのに、自ら文を創り出す力はないのだ。

入学してから二年間、こういったこ

とに気づかされる度に愕然とし、通信簿が完璧だからこそなお、これから必ず息子が出会うだろう挫折に、自分で考え、立ち上がる力があるのだろうかと不安になる。

「 $\times \times$ 式」は、決して悪い面ばかりではなかった。二人共、机に向かう習慣はついたし、基礎的な計算力や読解力はついたと思う。

だが、勉強はそれだけではない。与えられた計算をこなすのが勉強だと思っていた息子が、色々な角度から考えなければならぬ問題に出会った時、たぶん戸惑うだけで、投げ出してしまいうだろう。

「 $\times \times$ 式」は魔力だと思う。毎日プリントをさせていると、それだけで子どもの学力が伸びると、親が錯覚してしまふ。そのプリントを途中で放棄するのは、勇気がいるのだ。

この二年間で身をもって息子が私に伝えたのだ。「 $\times \times$ 式」の魅力、それは魔力なのだと。

(え・田沼千恵)

## 算数・数学を教えてみませんか

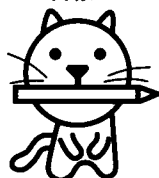
子どもたちが、算数・数学を楽しく学ぶことができれば……と考えたことはありませんか。

これまでの数学教育は、子どもたちの知的好奇心を十分満足させてきたとは思えません。

「量」と「水道方式」による、当会の教材を使って子どもたちに算数・数学を教えてみたいという人を求めています。教材の内容・指導法その他について講習会を開いています。開設後のフォローも万全です。国語・英語教室も開けます。

資料送ります。

水道方式による、  
丁寧で系統的な教材  
知る喜び、  
学ぶ楽しさを  
大切に



おかげさまで29年

〒160 新宿区新宿四―1―33―7F  
☎〇二二〇―四二〇―五三一  
数学教育研究会

# ガン告知

—私の場合—

大阪府豊中市

高宮 みか  
(57歳)

## この私がガン？

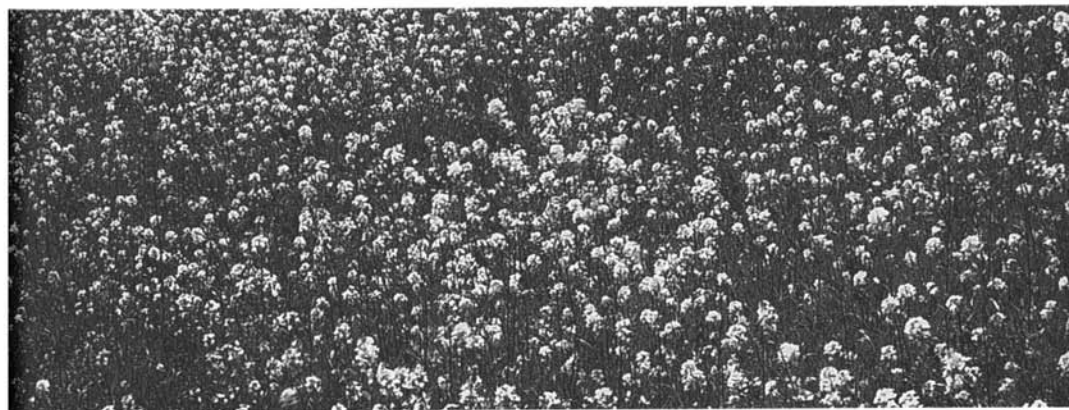
ガンの告知ということ、私はどのように想像していたらうか？  
他人事と思ひ、本気になつて考へたことがなかつたのだらうか？

私は、ごく親しい人をガンで何人も亡くしている。義父、義妹、叔母、従姉、  
テニスのペア相手、そのご主人、親友のご主人など。

ガンと聞いただけで、絶望し、親しければ親しいだけ死と結びつけて考へてしまふのは、当然ではないだらうか。

友人から、

「夫の命はあと三カ月と医者から言われたの」



と聞いたとき、絶望の中で病と闘わなくてはならないご主人のために、彼女を励ましたりしたけれど、私に何が分かっていったというのだろう。

十月十七日（平成八年）の夜、私はテニス仲間の集会でビールを飲み、誰かが持ち込んだワインの白と赤を飲み、注がれるままに水割りもコップ半分くらい飲んで家に帰り、トイレへ飛び込んだ。夜の十一時ごろだった。

「なにーっ！ これ？」

便器いっぱい花のような赤だった。一瞬、狂い咲きの生理かと思ったが、枯れ途絶えてからが長い。痛くもかゆくもなく、キツネにつままれたような感じで、これがガンの前兆だとは思っても及ばなかった。

翌朝、

「今日、私がしなくてはならないことは病院へ行くことね」

私の言葉に、医者である夫は、

「うん」

と言っただけだった。そのとき彼は当然、私の血尿の原因は、膀胱にできたできもののせいかもしれないことを予想していたろう。

私は、この五月（平成八年）に亡くなった父を連れて通った泌尿器科で受診した。

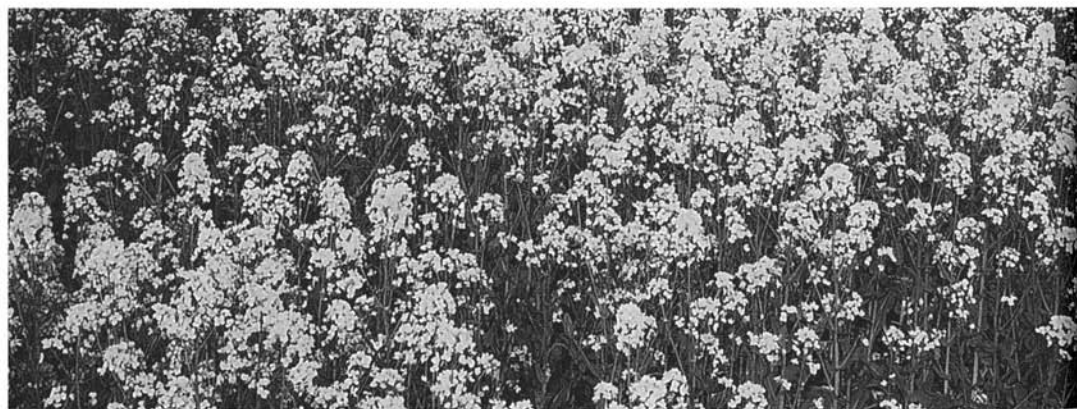
このクリニックの長船先生を、夫は、

「無愛想だけれど、なかなか評判のよい先生らしいよ」

と言って父のために推薦してくれたのだ。

父が通院できなくなっからは、私が父の尿を運んで薬をもらってくる、という関係だった。

「膀胱にできものができてるよ。手術しなけりゃならないが、入院希望の病院はあるかね」



「ちょっと、先生、待って。手術って、どこを手術するんですか！」

「膀胱を取らなきゃ、あかん」

「先生、膀胱取るなんて、そんな大事なところ取ってしまったて、あとどうなるの！」

「今はいろいろ工夫されているから、心配せんでも大丈夫や」

「そんなに急がなければいけないんですか」

「いや……、でもな、そんないらんもん、一日も早く取ってしもうたらええんや」

医者がカルテに膀胱の略図を描き、膀胱内、右後ろ尿管の近くに描いた突起に斜線を入れながら示して見せてくれたが、気がつくとも三人の看護婦が医者に向こうに直立不動で立ちすくんでいる。

「ガン告知の瞬間、か。看護婦さんたちだって厳粛になるんだ」

私はそう思った。それはそうだろう。私はその日初めての患者だし、医師と患者のやり取りを一瞬でも見逃したら、明日の私への応対にも影響する。一緒に働く医師と彼女たちの間には、通じるものがあるはずだ。

「夕べはよく眠れたかね」

翌日、指定された時間にレントゲンを撮りに行くと、医師が気づかってくれる。やっぱりガンなんだ、と思う。

「眠れましたよ。昼間、あんなシヨックなことわれたんだもの。くたびれてぐっすり」

本当によく眠った。夫が翌日の仕事の準備のために遅くなる、と言って朝出て行っていたから、夜中に起きるつもりで早くに寝てしまった。午前二時ごろ帰ってきた夫に、昼間の報告をし、入院する病院を医師のルートでお願いすることを話し合った。その後少し寝て、朝に岡山へ出張の夫を新大阪駅に送ってきたの



だった。

「すぐに現像できるから、待っててや」

見たいと思ったわけではないけれど、この先生のやり方だとこうなるらしい。仕方なしに待合室で待っていると、また名前を呼ばれた。診察室では長船先生がいまでき上がってきたばかりの大きなフィルムを、シャーカッセン（後ろからライトをあてて、レントゲン写真を見る装置）に差し込んでいる。

「これや、これや。あんたのできものは」

見ると二×三センチくらいのヘンなものがある。

私は夫に言われてきたとおり、CT検査は夫の病院で月曜日にでもできることを伝えた。

「そうか、それは早くて助かる。膀胱に一〇〇CCのオリーブ油を注入して、うつ伏せで撮ってもらってきてな」

変なことをするものだ。できものは背中側、尿管の近くに突出しているというから、透明で、ある程度膨らませた状態の膀胱の写真を欲しいのだろう。

## 死を思う

帰りは夜の九時を過ぎる、と言って出ていった夫を待つて、私は土曜の午後を一人で過ごした。

「私はガンなんだ」

私の身体にガンが巣くっている、と思うたびに、今度ばかりは大事だぞ、という感じがつきまとった。

膀胱を取る手術、といきなり言われたのだから、悪く受け取って、一時凌ぎの歯止めのためだと思った。後二年くらいの命なのかもしれないと思った。二年あ

れば後始末ができるだろうとも思った。六十歳の短い人生だったのかあ。どうりで子ども達はせっせと結婚してくれたし、孫を三人も抱かせてもらった、老父も思ひ残すことなく見送った。

友達が大笑いしてくれるだろうなあ、と思った。あの人がこんなに早く逝くとは思わなかった。みんながそう言うてくれているお通夜の場面も想像できた。

心残りも夫と、まだ幼い子どもを抱えた娘の二人。結局、私が少しでも力になれるのは、いまだはこの二人しかいないのだなあ、などとも思う。息子達にはお嫁さんがついていいるから心配ない。

ガンの家系ではないから、と長生きの心配ばかりしてきたきょうだい達には悪いことしたなあ、私が早死にしたら健康に自信をなくすだろう。そんなことも思った。

私が死んでも世の中あまり変わらないだろう。窓の外を見て、来年のもみじだって、やっぱり美しく紅葉するだろう、と思った。

身近な家族を悲しませるかもしれない、と思うことは、つらかった。

五月に亡くなった父の顔が浮かんだ。「もう来たのかい」と言っ、父はなんともしれそう顔をした。数えれば父が亡くなってから、まだ五月しか経っていない。まだ父はその辺をうろろしながら私を待っているのだろうか、と一瞬考えた。

このとき、父の後をこんなにも早くに追うのは嫌だ、という気持ちになった。私は疲れていたと思う。

父の介護をしていたことで、九十まで生きる勇氣はなくなっていたし、八十で死ぬためにはどうしたらいいかも分からなかった。

こんな精神状態ではガンにつけ狙われて当たり前だわ。もっと抵抗しなくちゃ。



十九日の日曜日、夫婦で会話の少ない一日を過ごした。

「明日の晩、僕、滋賀だよ」

「ちょっとお、奥さんがガンかもしれないのに、よくそんなに放っておけるわねえ」

「君、心配してるのか？」

夫が平気な顔をして言うが、私は医者言葉は信じない。

翌日、CT検査のために夫の職場へ連れて行かれた。うつ伏せに寝かされ、枕にあごを乗せると、目の前の検査室ののぞき窓から、モニターテレビを食い入るように見ている夫と部下の医師二人、顔見知りの放射線技師の表情が手にとるように見える。ときどきモニター画面を指差しては頷いたりしている。

「何が見えた？」

検査終了後、私がモニターをのぞくと、

「これですよ、大丈夫、取れますよ」

と、いつもご馳走してあげている若いドクターが、慰め顔で言ってくる。

男の親指の関節一つ分くらいの大きさの突起が写っていた。

翌二十二日、私は長船先生にCTの写真を届けに行った。

「今日の午後には細胞検査の結果が上がりてくるから、面倒でも午後にもう一度きてや。それまでに紹介状と検査結果全部揃えておくからそのまま持って帰り、二十五日には成人病センターに診察を受けに行ってください」

四時からの診察にもう一度クリニックを訪ねると、事務員の女の子が紹介状と、プレパラートの入った封筒を渡してくれる。

「細胞検査の結果はどうだったのか、先生に聞いていたきたいんですけど」  
これだけはつきり言われていて、肝心の細胞検査の結果を聞かずに帰れるものか、という心境だった。



「ガンや、そやけどな、まだ初期といえる。膀胱ガンには二種類あってな、良性と悪性と。あんたのは良性のように僕には見えるから、上手くしたら下から削り取れるかもしれん」

後で分かったことだけれど、膀胱ガンには膀胱の筋肉にできるできものと粘膜にできるものがあり、筋肉にできてしまった場合は膀胱を切除することが多いらしい。私のできものは内視鏡で診たところ粘膜にできるタイプに見えたらしいが、大きかったせいで根が筋肉にまで及んでいる心配があった。レントゲンとCT検査の結果からでは、まだそのどちらとも言えないしかなかった。

二十五日まで二日、間が<sup>\*</sup>あった。

二十三日、予定では豊中市の福祉公社が協力隊員の募集をするにあたって、説明会が行なわれるのでその説明会に出席するつもりだった。どうしよう。人のお世話どころではないじゃないか。そんな気持ちもあったけれど、差し当たってすることもないのに、ガンだからと取りやめにしたところで意味もない。そう思っ  
て出かけた。

二十四日、すぐにも入院と言われたら、と思い、買い物や用事を片付けたが、父の介護や孫の誕生で縛られていた生活から解放されたら、真っ先に映画でも観ようと思っていたことを思いだし、買い物ついでに千里中央の映画館をのぞいた。私の知らない「いつか晴れた日に」という映画をやっている。本年（平成八年）アカデミー賞受賞作品だという。いつか晴れた日に、か。ラブストーリーらしいので、気持ちちが和らいでちょうどいいかもしれない。それにもう映画なんかしばらく観れないかもしれない、そんな気持ちで映画館に入った。

二時間近くの時間が過ぎて映画が終わったとき、「ああ、私はガンなんだっけ」と思いだした。美しい映画で、ガンであることを少しは忘れていたらしい。ガンを宣告されて一人映画館に入る図なんて、人には言えないな、と思いが



ら、自分ではよい時間の使い方だったと思った。いつか晴れる日が私にもきますように！

名画として残りそうもないこの映画のことを、私はしばらく忘れないだろうと思う。

## 入院そして手術……

二十五日、私は医師に託されたレントゲン検査の大きな紙袋をかかえて、通勤ラッシュの中を大阪城に近い府立成人病センターに行った。

「突然のことで驚かれたでしょう。早く入院させてあげたいのですが、泌尿器科は男性が多く、女性のベッドがなかなか空かないのです。明日入院です、という電話がかかりますから、病院からの電話を待ってください」

と主治医となる医師に言われた。留守電には伝言してもらえないという。それではまるつきり出かけられないわけだ。入院準備をしておいてよかった。

土、日は休日だから電話はないだろう、と月曜の朝から電話から離れずに待機していると、思いもかけず、昼少し前に入院案内の電話があった。翌日、二十九日入院。

緊急を要する女性患者が二人になったので、男性用に使われていた二人部屋が空けられたのだそうだった。十一月十三日が手術日と決まり、そのための肺活量検査、心電図、できものの状態を磁気照射によって調べるMR検査などを済ませたところで、十一月はじめの連休に入った。手術まではなにもすることがなく、外泊許可が出て私は家に帰った。

こんなことでいたずらに時間が過ぎ、ガン細胞が私の血流に紛れ込んで、身体中を駆けめぐる想像をすると、血管が凍りつくような感じだった。

連休最後の日の午後、主治医から電話があった。MR検査の結果、ガンは粘膜の上にあり、筋肉まで達していないように見える。ひとまずは尿道からレーザーを入れて、削り取る処置をすることになるので、手術日も六日に変更になった、とのことだった。

願うだけで、罰<sup>ばち</sup>が当たりそうな幸運！ ラッキー！ 膀胱を切除しないだけでなく、開腹手術もひとまず回避できそうなのだから……。

急いで病院へ帰り、夫とともに説明を聞く。なるほど、フィルムに写し出された膀胱はくつきりとその輪郭を保っている。

レーザーで削り取った跡を採取した細胞にガンが発見されなければ、もう手術はないわけだ。人工膀胱をつけた人生をイメージしようとしていた私にとって、思ってもみない幸運なことだった。嘘みたい。

六日、半身麻酔で手術は行なわれた。朦朧とした頭にモニター・テレビの画面が見える。

画面いっぱい光と血の赤とが飛び交い、真ん中に不気味な黒い針がねのような物が見えた。

五日後に、精密検査の結果も上々で、

「百点満点の退院ですよ」と、主治医に褒められた。

再発率五〇パーセント。そう聞かされたが私は驚かない。あと二、三年の人生だったかもしれないことを思えば！

毎日欠かさず見舞いに来てくれた夫に言ってみた。

「やめ暮らしも、いいとこ十日ぐらいじゃなかった？」

「うん。人生観変えなきゃならないところだった」

医者でないときには、結構真実味のある言葉も発しているのである。





## 忘れ得ぬ人々



## 心の夫

神奈川県大和市

浅田節子（64歳）

らすことになり、わけあって結婚への夢は  
グリーンに引き裂かれ、別々の道を歩んだ。  
もし、彼の奥さんが受話器を取ったら  
「〇月〇日の同窓会のことです——」と切り  
出せばいいのだと、心を落つかせダイヤル  
を回した。

すると「モシモシ」と男性の声である。  
ヨカッターと彼の声に小踊りしたが……  
電話の向こうに立っていたのは、彼の息子  
であった。

「お父さんと呼んでいただけじゃないしょう  
か」

と私が言った時である。

「父は亡くなりました」

と冷たい声がひびいてきた。「エッ——」と  
絶句した私。頭の中でガンというような

音がした。

「いつお亡くなりになったのですか」  
と必死の思いで問い返して、さらに胸のつ  
ぶれる思いだった。彼はたった一カ月前  
に、天国の人になっていたので。

後一カ月この世に生きていてほしかった、  
同窓会が一カ月早くあれば、もしかして会  
えたかも……と思ったり、いや、四十歳で  
会う約束をしておけばよかった——と、さ  
まざまな思いが脳裏を駆けめぐった。

初恋の君が五十歳になった姿を想像して  
思い切って約束の電話をしたのに、まさか  
……の出来事！

それは十四年前のことである。

彼はずっと私の「心の夫」であった。そ  
れは思いやりのある、やさしい人だった。

私は、胸をドキドキさせながら、三十二  
年振りに初恋の君の家に電話した（神奈川県  
より九州へ）。彼の奥さんが、電話口に出  
たらどうしよう——と内心ヒヤヒヤした  
が、お互いに五十歳になったら同窓会で会  
おうと約束がしてあり、待ちに待ったその  
日が、ついに数日後に迫っていた。

だから別にやましい事ではないと、自分  
に言い聞かせた。

高卒後、彼は九州に残り、私は関東で暮

もし、同窓会で再会の夢が実現していたら握手くらいしたことだろう。指一本触れることのないままの別れだったから、美しい思いばかりが残る。もし結婚していたら私は五十歳で赤い信女（未亡人）になっていたことになる。

現代の若者には昭和一ケタ生れの初恋の思いなど理解できないだろう。この乱れた世の中では、すぐにセックスに走るだけ……。テレビでは「キャリア妻の不倫急増」と題して取り上げているし、ドキリとすることはかりである。

昔の恋は美しかった。清らかだったとしみじみと思う。

六十代を迎えた今——せめて初恋の思い出を若さの薬として、それを吸収しよう。宇野千代女史は、年を重ねても、好きな人を一方的に作り、いつも乙女のような心で暮らすことを話されていた。

精神面だけでも女盛り——の文字に引かれた私は、そのように生きてゆこうと思った。

## 底辺に生きる あるホームレスとの 交流

大阪市住之江区 中西己巳子（68歳）

大阪の南玄関口である天王寺駅周辺には、一見してホームレスと分かる一部の人達が、地面にゴロ寝をしていたり、ゴミ箱を漁っている。一方少しましな風体の人達は、リヤカーを引いて、古段ボールを集めて売り、僅かなその日の糧を得て暮している。夜はそのリヤカーを段ボールで囲み、即席の宿とする。リヤカーには布団や、必要な生活用品を積んでいる。彼等の生活の知恵なのである。

駅を少し離れた四天王寺附近はお寺が多い。その中に庚申堂という建物がある。その前に、朝早くから二、三人から五、六人の少しましな姿のホームレスの人達が屯し（たむろ）、門の開くのを待っている。私はその前

を通って勤務先に行く。初めはやはり気味悪いので、無視して通っていた。その中に、男とも女ともつかない姿恰好の人がいるのに興味を抱いた。背恰好は女なのだが、野球帽を被って少年のような姿なので、少なからず私の物好きがこうじて、気になって仕方ない。ある朝、

「あんたは、失礼やけど、男性、女性どちらの？」

不躰な聞き方をした。

「女よ」

周囲の男共が、どつと笑った。それから毎朝の挨拶を交わし、彼女と係わり合ってきたのである。そのうち、お金の無心を言ってきた。僅かな金額だが、どうせ彼女が返すことはないだろう、けれども一度ぐらいはいいだろうと思って貸した。会う度毎に「お金が入ったら返すから、もう少し待ってね」とか色々言い訳をしていた。やはり返す様子もなく、気がとがめたのか、いともなく姿を見かけなくなった。

それから二年、昨年の暮れに、また庚申堂の前で出会った。小綺麗な服は、寒そうにしていたので、誰かが恵んで呉れたもの

らしい。乞食稼業は三日したら止められないというけれど、寒空の下で、食物もなく陽溜まりを求めて、震えている姿は、余り見た目のよいものではない。私には考えられない光景である。寝る処、食べる物、色々気になって聞いてみた。食物は一日コーヒ一缶一本、寝る処は一応M生命の軒先を「あそこはいいよ」などと言って確保しているらしいが、いつ追い出されるか、分からないとのことである。二年間どうしていたのかも知らないが、知らない土地は住み心地が悪かったようで帰ってきたらしい。

私の周りの人は、余り深入りしないほうがよいと、忠告してくれる。人の性は善なりというし、情けは人のためならず、姿かたちで差別することは好まない。どんな人とも気が合えば仲良くなる。彼女はゴミ箱を漁ったりはしないし、一応身につけているものも、外見はみすばらしいことはない。少しとはいえ働いて、暮しているのだから。

大阪は、現在月二回粗大ゴミの日といって、生活用品の不要なものを各家庭、職場から出して、市の収集車が無料で集めるシステムがある。彼女は、その日はあちこち

と回って、目ぼしい物を探して、金に換えるのが仕事である。時には、粗大ゴミの中



から探してきたらしい箱入りの座布団カバーを、「新品だから」と呉れた。少し抵抗

があつて「気持ちだけでいいよ」と言ったが、「このくらいのことしか返すことが出来ないから」とのこと。金に換えれば、僅かでもコーヒ一缶が浮くのに、胸にこみあげてくるものを感じ、素直に頂いた。「世の中、満更捨てたものではないや」と道々顔がゆるむのを、どうすることも出来なかった。

お正月前には、少しのお餅や、かまぼこ、日々は、スーパーの安売りをみて、ラーメンや、パンなどを届ける。また時にはおにぎりを作って、「何がいいかなー」などと考えたりして、結構楽しんで、出来る範囲で差入れしている。いつまで続くか分からないし、人から見れば物好きな人と思うだろう。一寸きざな見方をすれば、底辺に生きる者同士の連帯感？ 同じ年代へのいたわり、同情、自己満足、ちよびりの優越感？ 何でやろか、自分でも不思議なくらい、姿が見えないと「病気がナ」などと、保護者みたいに気になる、放っておけない存在の彼女に、ハマっている毎日なのである。

(え・弘法堂連三)



## 時事放談

# 死刑廃止に賛成ですか？

出席者 今井由美子  
鹿内熊代  
高林正美  
辻浦知津代  
編集部 田中喜美子  
司会 和田好子

司会 今回はとても難しいテーマなので、みなさん、喋りにくいところもあるかと思っています。

これは結論の出るような問題ではありませんので、とにかく今日は討論というか、意見が噛み合うような形になればいいと思っています。

まず、この問題に対して、いつ、どこで関心をお持ちになったか、ということからお話しいただいたらどうでしょうか。

死刑肯定派は感情で  
モノを言っている

今井 この問題に関して、情緒的に反対だとは思っていたんですが、きちんと考えていなかった。ですから、これをきっかけに考えようと思って参加させていただきました。

ここへ来る前に一夜漬けのように考えまして、「困った」と思いました。死刑には

反対なんですけど、現在進行形の事件がありますよね。地下鉄サリン事件。あの事件に関しては死刑が妥当じゃないかと思っているんです。

自分の中に、二つの対立した意見がある。そこらへんを今日は考えてみたいと思ってやってきました。

司会 なるほど。

辻浦 四、五年前に、あるところから死刑廃止の署名を求められたことがあるんで

す。

それまで私は、署名にはわりに気安くホイホイと応じていたんです。保育とか教育の問題で身近だったし、でも死刑については考えていなかったもので、廃止か賛成かどうかにするのはどうも納得がいかなかったものですから、初めて「署名できません」て、返したんです。

死刑については、法律のこともよくわからないし、これは署名とか何かで結論がつく問題じゃない。みんなで考える場をつくるべきだと思っています。

**高林** 人の生き死にということに関して、二十歳になる前から非常に関心があったんですね。

けっこう親戚の法事とか葬式にかり出されて立ち会ったことも多かったし、看護婦をしていたものだから、死ぬ人に実際に接してきました。裁判とか法律にまったく縁がなかったけれども、死刑には興味があった、というのが正直なところなんです。

基本的には、「死刑廃止」に反対です。死刑はあるほうがいいと思っています。

でもなんで反対なのかと考えますと、明

確な理由がないんですよ。図書館へ行って、死刑反対を訴えている人たちの意見を読むと、死刑を肯定している人たちは単なる感情で言っている人が多い、と書いてありまして、「自分もその一人かも知れない」ってハッと思いました。

だからといって、死刑廃止に賛成というわけではなくて、やはり気持ちの奥底に死刑を肯定する気持ちがある。まあ、いろんな意見があるというナ、ということをしちよつと勉強した、というところです。

**鹿内** 私は、他人のことはどうでもいいと思っていたんだけど、私の友だちで菅原ニョキという人が、ぜひ意見を言ってくれ、っていうわけで、出てきました。

とにかくね、戦争にしても死刑にしても、人が人を殺しているわけがない、という大前提が一つある、と。執行のハンコを押す人はいいですよ。政治家は。でも実際に執行する人の精神状態はイヤなもんですよね。ハンコを押した人間が死体を片付けるとか、ヒモを引っ張るならいいけれども。

あと、死刑を廃止している所と、廃止していない所とでは、犯罪抑止力はまったく

同じなんですって。

また、間違つて死刑になっちゃう人がいる。六パーセントと言っていましたけどね、後から真犯人が見つかるケースがある。それはもう、愕然とするでしょう。

それともう一つ、これは私の意見なんですけれど、自分が死刑囚にならないという保証はない。みんな、想像力に欠けていると思うのよ。

昔、新宿のバス放火事件で、一番ひどい火傷を負った女の人が、「彼（犯人）はあまりにもひどい成育歴で、助けてあげたい、許したい」って言ってるのね。スゴイ、と思った。私たちはたまたま、ふつうの成育歴で生まれてきて、そういう事件から免れているけれども、状況によってはひどい事をしかねないんじゃないかという想像力が、みんな、欠けていると思う。

ちよつと前まで、人間でサラシ首やつたり、みんなの前で首吊りやつたり、ギロチンやつたり、コロシムにライオンを放つて人間を追ひ詰めて楽しんだりしていたのよ。残酷性がある。

でね、被害者の親が、「アイツは娘を無

残に殺した。殺したい」というのと、「殺せ」というのでは全然違うの。被害者の親の「殺したい」という気持ちはわかるわけ。でも、みんながよつてたかつて、悪いことをしたから殺していってわけはない。これくらいかな。今、思っていることは。

## 日本の殺人は 家族間が一番多い

田中 みなさんのおっしゃっていることを聞いて、ここが強いところだなと思ったのは、死刑廃止に反対する人は感情なんだ、という話が出てきましたよね。で、私、「死刑廃止」に反対の人は感情でモノを言っているから強いんだ、と思ったのよ。やっぱり、こんなヒドイことをしたヤツは殺せ、という気持ちがあるの奥底にあるから、死刑廃止の運動はなかなか進まないんだな、って。今、改めて思ったわけ。やっぱり人間で、感情の動物ですからね、論理だけではいかな。私なんか、この問題については論理だけで言っているけれども。

鹿内さんが言ってくださったように、理

由があれば人を殺すことはいいんだ、という前提があるわけですよ、死刑ってのは。戦争もそうよね。でも、それを言っていたら、何かの形で理屈をつけられるわけだから、殺すって行為はいつまでたってもなくなる。

じゃあ、オウムの松本智津夫は死刑にならないでいいかといったら、私はないでいいと言ったのよ。いかなる理由があっても死刑はいけなから。私の場合は（感情じゃなくて）まったくの論理だけだ。

司会 まず問題になるのは、死刑になる犯罪の種類をかなり少なくしないとイカンじゃないか、という気がする。

ここのところ、だいぶん執行されたでしょう。あの人たち、みんな強盗なのよ。強盗に入つて、人を二人殺して物を盗んだら死刑なんです。殺すのが一人だったら死刑にならない。あるいは物を盗まなければ、複数殺しても大丈夫なの。

この間、医者が自分の妻子を全部殺したって事件、あれは無期懲役になったでしょ。結局、自分の家族を殺した場合は大

丈夫なの。

鹿内 エーッ！ 逆じゃないの？

司会 逆じゃない。今、日本では殺人は家族が一番多いんだって。

鹿内 ワァー、私も殺されそうな気がしてきた……。

司会 家族間の殺人は死刑にならないですよ。それは理由があつて、殺されたほうにも何か問題があると見られる。殺したほうのみを責められないってことがあるみたいね。今度の医者が三人殺した事件だって、奥さんがいろいろヘンなことをやってた、というのが出てきたわけですよ。

鹿内 ランジェリーパブとか。

司会 そういうことがあつたんで、刑が軽くなつちやつたんでしょ。なかなか死刑は適用されない。適用されるのは、だいたい強盗殺人なんです。

強盗殺人ってのはね、たいいてい素人がやる。プロの泥棒はそんなことをしたら死刑になると知ってるからやらないで、うまく盗む。ところが素人は、相手に騒がれたりすると驚いて殺しちゃう。私、そういう人に死刑を適用することは釈然としないわけ。



ところがオウムとかね、ああいうふうには完全に自分の意思を持って大量殺人をした場合に、これでいいのか、って気持ちがあるので、私としては、死刑の適用範囲をごく狭める、という考え方ですね。

## 死刑から他の刑罰の理論ができています？

田中 それはやっぱり、死刑容認論ですよ。

司会 容認論だけれども、範囲を狭めるとのこと。例えば、戦争犯罪人の問題を見ると、日本では何人かが裁判で絞首刑になった。ドイツでもそうだったけど。イタリアはみんなが寄つてたかつて閣僚たちを、ほとんど撃ち殺しちゃった。それはリンチだったわけだけど、戦後イタリアでは戦争責任の問題が起こらない。全部撃ち殺しちゃっているから、現在の政府に責任がないことははっきりしている。日本みたいに、今になって戦争責任が四の五のって言われることはないわけですよ。

田中 それは法制度としての死刑容認論とは違うんですよ。やっぱり感情で殺してるわけだから。アイツ憎らしいってんで。



司会 それは違う。あれは政治的な闘争ですよ。憎らしいなんて問題じゃないですよ。裁判はしなかったけれども。

田中 政治的闘争の決着にしても、死刑を論ずる視点とはちよつと違うと思うんだな。

司会 この問題を複雑に考えるとね、どんな場合でも死刑を廃止していいのかってこ

とは考えざるを得ない。  
田中 やっぱり容認論よ。  
高林 実際にありますよ、一部廃止って国が。

どこの国だったかな、普通の殺人には全面的に死刑廃止だけれども、国家公安罪とか、戦犯とか特別の理由を要する場合に。

司会 思想犯というのは危険だけど、そうじゃなくて大量殺人の場合にどうなのか。

オウムじゃないけれど、はつきりした意思を持って大量に殺した場合にも死刑を適用しないのかといったら、私は考えちゃうね。

普通の、強盗ぐらいのところで死刑にするのは疑問だけれども。間違ひもあることだし、冤罪になったりするわけで、そういう人はだいたいにおいて社会的な弱者だから裁判にも強くない。無理やり冤罪になっちゃうこともあり得るんで、絶対危ないなあって感じがする。

今井 息子が「るろうに剣心」って漫画を読んでいる、時代背景が明治十年、自由民権運動の時代で、仇討ちが禁止のころなんですね。

自由民権運動っていうのは終わりがなく

て、男女平等とか、今でもつながっている。その流れのなかで、どんな社会をつくっていきたいかと考えたときに、死刑廃止だと思ったわけです。

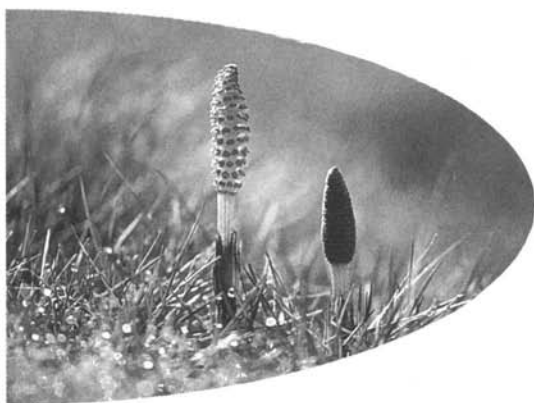
子供に「死刑、どう思う？」って聞いたら、中三と小六の娘は即座に「反対」って言ったんですね。間違えた人を死刑にしちゃったらどうするの、って。で、私も「そうだね。罪のない人を死刑にするなんて、これ以上の人権侵害はないよね」って。

夫に聞いたら「難しい問題だな。抑止力がないとも言われているし」「やっぱり死刑は外すことはできない。でも執行しないようにしたらどうだろうか」と。

私も図書館で、死刑廃止に反対する人の理論を読んだら、死刑というのは廃止したり議論したりするものではなく、恒星のように常に死刑はあって、そこからいろんな刑罰の理論ができていて、と。他の刑罰は相対的なものだけれども、死刑という絶対的な刑は一つおいておく、という理論らしいな、と走り読みして思ったんですけどね。

だから夫の言うような「絶対的な刑としておいておきたい」って、そういう感覚な

のかなあ、って思ったんです。でもプリミティブには仇討ちですよ。で、仇討ちみたいな保守的な感情は子供に持つてほしくないの、で、「死刑のない世の中にしたいよね」って導いていきたいと思っています。でも、今現在、進行形の事件に関して迷ってしまうのは、感情かな。ちょっと、そこがわかりません。



## 戦争での大量殺人は……

辻浦 その感情が大事だと思うんですよ。罪のない人を死刑にすることはいけないと思うけれど、宮崎勤事件でありましたよね。被害者の立場に立つと、子供を失ったお母さんは「あの男がこの世にまだいる間は眠れない」と言ったそうです。

私、これは一般庶民の偽らざる心情で、仇討ちはできないけれど、気持ちを浄化する、おさめる何かができるまでは、やっぱり泣き寝入りは許されないって気がするんです。

司会 「わいふ」の投稿者からライターになった市川順子さん、彼女に今日出席しないかって電話をかけた。そしたら「何しろ悪いことをうんとしてしまえば、死んでお詫びをする、ってことがあるじゃないですか」って言うわけ。「私だって、そんなに悪いことをしたら、死んでお詫びをしますよ」って。(笑)

でも私、あの宮崎勤は死刑を適用したら駄目だと思う。あんなもんじゃ駄目だと思ふ。せいぜいオウムが最低のところです。

辻浦 宮崎勤じゃ死刑にならないですか。  
司会 ならないと思います。あれは変質者ですよ。

辻浦 変質者はいいい、つてところがナンカおかしいって気がするの。

司会 やっぱり、その人の責任を一〇〇パーセント問うことはできないと思う。

辻浦 じゃあ松本智津夫は？ 宗教つてものも現実を超えた世界でしょ。狂気の世界……。

司会 宗教は狂気じゃないですよ。変質者じゃないですよ。

田中 司会者の大量殺人の論ですがね、国家は大量殺人を是認してる。戦争の場合はいつても大量に殺しているわけでしょ。

湾岸戦争もそうだけど、すごい破壊力で本当は大量に殺しているわけよ。でも勝てば官軍では認されて、戦争犯罪人でも何でもない。だから私、基本的に反対だな。殺すことを是認するつてのは。戦争は認しながらるもの。

司会 どんな理由があつても殺してはならない、としても、戦争は起こると思うよ。戦争を起したときに、起こした当人、責

任のある政治家が、全然罪に問われなくていいのか、つて問題よね。

田中 殺して、しかも負けたつて場合でしよ。だつて湾岸戦争なんか、アメリカは勝つてくれどもちつともよくないですよ。

司会 これ、非常に難しいけど、ユダヤ人の大量虐殺なり日本の侵略をああい形で罰したつてことが、うっかり戦争は起こせないぞという抑止力にはなつたような気がする。

田中 こういう形で論じると、いい戦争と悪い戦争というものがあるのか、という問題になつてきて、話が混乱する。今論じているのは死刑の問題なんですよ。

アメリカによくある禁固二百五十年とかね、それは終身刑なの。どんなに恩赦があつても出られない。死刑と同じでしよ。もつと残酷かも知れない。

罰は、人間の社会から完全になくなつていいかどうかという、やっぱり罰はあらざるを得ないと思う。でも死刑は、人間が人間を殺すことを是認することだから、私は反対なの。一度それを是認すると、無限

に拡がつていく気がする。

## 死刑廃止論が出てくるのは人命が高い国

司会 死刑を廃止した国つて、無期懲役つていつたら完全に無期懲役なのね。

鹿内 日本はみんな十五、六年で出てきちゃう。

田中 へんに軽いよ、量刑が。

辻浦 懲役二百五十年とかそういうのがあれば無理に死刑にする必要はないけれど、恩赦だなんてすぐ出てくるんじゃあ、許されないつて気がどうしてもしちゃう。

田中 だから私は、殺すか殺さないか、殺す権利があるつていうのが、どうしてもイヤなの。

司会 ナルホド。

高林 死刑があること自体、基準が曖昧になつてきたら危ないよね。

鹿内 ナチがたくさん殺したときだつて、生物学的な理由で殺していたんだし、みんな納得してんだから、そういう社会がこの先にこないと限らないよ。

だから死刑はいけないうつていう大前提が



ないと、どう悪用されるかわからない部分がある。絶対には。

**司会** 死刑の範囲を狭めてやるとしたら、その狭め方が大変難しい。思想犯とか公安事件を死刑にするっていうのは非常に危ない。

**鹿内** そう、危ないのよ。死刑があるってこと自体がすごく危ない。基準が曖昧だから。

**司会** 死刑を完全に廃止しちゃったらね、戦争中のイタリアみたいな暗殺になると思っ

多くの場合、大量殺人は政治絡みで起こるわけだけど、それに対して死刑がない、捕まえて罰することができないとなれば、みんなで出かけていって撃ち殺すということになるよ。リンチ。絶対、そうなると思う。

**田中** 私、それは許せるわよ。

**司会** 許せるのッ!?

**田中** 法制度として存在するってことは別だから。

**司会** じゃ、法制度さえなければ人を殺してもいいわけ？ 法的に人を殺しちゃいけないと言いながら、個人が恨みで殺すのはいいの？ それって、すごい変な考え方よ。  
**田中** いいか悪いかじゃなくて、止められない、それは。自分が出かけて行くんだから。

**樋口恵子** さんが、自分の娘がいじめにあったら、私はそいつと刺し違えるって。私、それは一応は認めるわけ。そうだろうなあ、分かる、分かる。だから、みんなが死刑制度を廃止するのに抵抗がある、っていうのもおおいにわかるわけよ。感情だから。

**司会** 私が難しいと思うのは、死刑を適用する際に、裁判そのものが判定を下す能力があるかどうか。

**田中** そういう議論になってくると、裁判制度そのものが危ないわよ。

**司会** 死刑制度だけじゃなくて、現代の刑法自体にいろんな欠点がある。

死刑廃止論が出てくる国というのは、人命が非常に高くなっている国なのよ。人命の安い国は出てこない。人口の多い国も人命が安い。死刑廃止が進歩的なものであるのは確か。

ただそこで私が割り切れないのは、大量殺人が起こったときにどうするか、という問題なのよ。

**辻浦** 大量殺人っていうけれども、核、あれは一発で大量殺戮になるでしょう。そういう現実がある以上、法に守られている国は、やっぱり法によって死刑をおいておくべきじゃないかなという気がする。無実の罪で死刑になる人もいれば、うまく逃れて笑っている奴もいるでしょうけど。

**鹿内** わかった。死刑のある国にはミサイルは飛ばない。

辻浦 それとは、また別。

今井 死刑を廃止するかしないかということは、人を許せるか許せないかというボーダーラインだなと感じたんです。

すごい極悪犯でも死刑ではなく終身刑というのは生きていい、つてことですよね。罪が重ければ重いほど許すのに時間がかかるので、被害者の家族は時間が足りないかもしれないけど。

もし、何千年も生きるとしたら、「あつ、生きてていいわ」ぐらいのところまでは許せるんじゃないか。死刑制度存続か廃止かは、人が人を許せるか許せないか、そのボーダーラインじゃないかな、つて。

だとしたら、やっぱり私は迷いながらも許す側に立てるかな、と思うんです。

司会 さんざん議論しましたけれども、私はやっぱり田中さんのように理想主義にないところがあって、必ず人間は悪いことをやらかすし、その限度といたら話にならないんで、私は当面、日本が死刑を廃止することには賛成だけれども、何か事件が起こったときに話は再燃するだろうと思うってるわけ。だから、マア、やってみな

さい、つて感じだな。

辻浦 私は、当面でも死刑は廃止してほしい。やっぱり日本の社会はまだ成熟していないから無理だつていう、それだけです。

田中 死刑容認論には復讐主義とか犯罪の抑止力になるとか、いろいろあるけれども、カタルシスみたいな、ものすごく残酷なところを見せておいて、それが人間なんだと思ひ知らせることで何か作用があるんじゃないか。それは一つある。

司会 それを昔は堂々とやっていたわけだよ。

田中 人間って美しいものでも何でもなくて、残酷なものなんだつてことを言わず語らずのうちに見せることによって、生命力をかきたてるみたいなことはあったと思う。

でも私の「死刑廃止」論は変わりません。とにかく、死刑廃止論に対する反対というのは感情的に非常に根強い。論理じゃない。論理でいけば廃止論にいくと思うんだけど。

鹿内 絶対そうだと思う。

まとめ・宮前 和

(次回の時事放談のお知らせは、一四八ページをごらんください)

## わいふ原稿整理方針

◆投稿誌であるので、「原稿尊重」の方針で整理しています。

◆常用漢字表にない漢字または読みであっても、間違いない限り、原則としてそのまま載せています。ただし次のような語はかな書きに直しています。

又↓また 程↓ほど 位↓くらい 為↓ため 頃↓ころ 丈↓だけ 方↓ほう 様↓よう 御↓ご 迄↓まで 良い↓よい 沢山↓たくさん 中々↓なかなか

答↓はず 更に↓さらに 但し↓ただし 何故↓なぜ e t c .

◆送りがないについては、一応次のような方向で統一しています。

(例) 変る↓変わる 浮ぶ↓浮かぶ 話合う↓話し合う 気持↓気持ち 行う↓行なう 表す↓表わす

◆用字用語の原則は三省堂発行「用字用語辞典」に準拠しています。

おすすめの一冊

# 花信

卑弥呼のルーツ

國弘三恵 著

東京都八王子市 和田好子

著者は日本で生まれ日本で育ち、自分が在日朝鮮人であることを知らなかった。小学三年生のとき、同じ長屋の一軒に越して来た同国人のインテリ青年に、「美代ちゃんにも本名があるんですよ」と教えられ、大いに驚き不安を感じた。

著者が兄さんと呼ぶその人は、「朝鮮人であることに誇りをもちなさい」と言い、日朝の古代史や中国の史書などを教えてくれた。その「夜間学習」は四年余りに及んだ。

学習の成果をベースに著者は本書で「天皇のルーツ」が朝鮮にあることを証明すべく、研究をすすめ議論を展開している。天皇と神とのつながりを説く、神統譜を含む古事記は、伝承であり文学であつ

て史書ではない。しかしそれが、歴史的事実であるかのごとく、敗戦前には小・中学校で教えられていた。皇国史観という一種の神道新興宗教のイデオロギーだが、それが思想界を乗っ取り国家権力と結んで教育を独占したのである。

そういう時代でも知的常識のあるインテリなら、天皇家の故郷は朝鮮だろうと考えていたようで、私も女学校で校長から、それらしき発言を聞いた覚えがある。

戦後は一変して歴史研究が自由になり、古代史ブームといわれるほど、素人までが乗り込んで邪馬台国や倭の五王などが論じられた。考古学の発展も、縄文・弥生時代の見直しを迫っている。

著者は南朝鮮からの大量移民が弥生文

化を創り、天皇もその首長であることを論証しようとしている。ウガヤ、アラカヤの二部族が高句麗に攻められ、新天地を求めて日本列島に渡ったというストーリーである。

私は現在朝鮮で非常に重んじられている同姓同士の結婚禁忌や、族譜という系図などが日本文化に入っていないことから、やや疑問を抱いていたが、最近朝鮮でも十三、四世紀以前は同姓結婚し、族譜も多くは十五世紀以後ということを知り「朝鮮民族を読み解く」吉田博司著「ちくま新書」なるほどと思った。

著者の斬新な問題提起は、今後の日朝共同研究によって解明されることだろう。

近代文芸社 一五〇〇円



## 有料老人ホームと

### ケア付高齢者住宅

今号から、費用はすべて入居者負担の、有料老人ホームやケア付高齢者住宅についてお知らせします。

有料老人ホームとケア付高齢者住宅とは、呼び方が違うだけでなく、所属官庁も違うのです。有料老人ホームは厚生省の管轄で、建設するには事前に審査を受け、許可を得ることが必要です。一般住宅より制約が多く、入居者が快適に生活できるように配慮されています。

ケア付高齢者住宅は建設省の管轄で、建設するのに有料老人ホームほどの制約はありません。集合住宅と同じ扱いです。その分、経営するのがよほど確かな法人でないとい、問題が起るおそれがあります。

廊下に簡単な手すりをつけた

だけの住宅を、高齢者住宅と称して甘い言葉で誘い、高額の入居金を取り入居させたりして、運営はずさん、経営的に破綻寸前の所もあります。

個人経営で、「家族同様に扱います」などという定員十名未満の高齢者住宅は、とくに要注意です。入居者がごく少ない場合、経営的に成り立たない場合が多いからです。

運営面は有料老人ホームも高齢者住宅も、それほど大きな違いはありません。

このほかに県の住宅供給公社が建設している高齢者住宅がありますが、その多くは、すでに有料老人ホームを営んでいる法人が、運営をまかされているままでの運営経験を買われているわけです。

有料老人ホームは入居時の身体状態によって健康型と介護型の二つのタイプに分けることができます。

入居時に自分の身の回りのことが出来るかたが入居するのが健康型。介護が必要なかたが入居するのが介護型です。

また有料老人ホームは厚生省の指導指針により、介護のしかたについて六つの類型に分類されています。

- ①終身利用(同一施設内介護)型
- ②終身利用(提携施設介護)型
- ③提携施設移行型
- ④限定介護型
- ⑤健康型
- ⑥介護型

これは入居後介護が必要になったときの契約の違いを、表しているのです。

次号はこの類型の内容を説明しましょう。

(水落)

親が倒れた!

どうしよう!

高齢者の介護の問題は、待たなで突然襲ってきます。

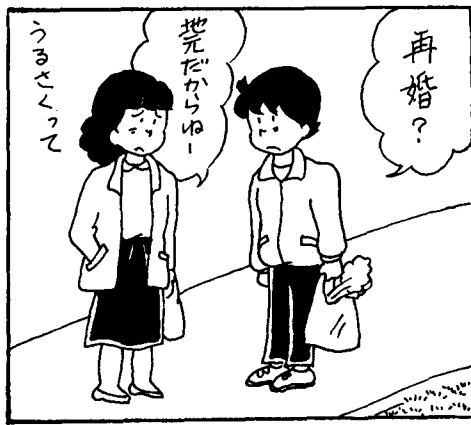
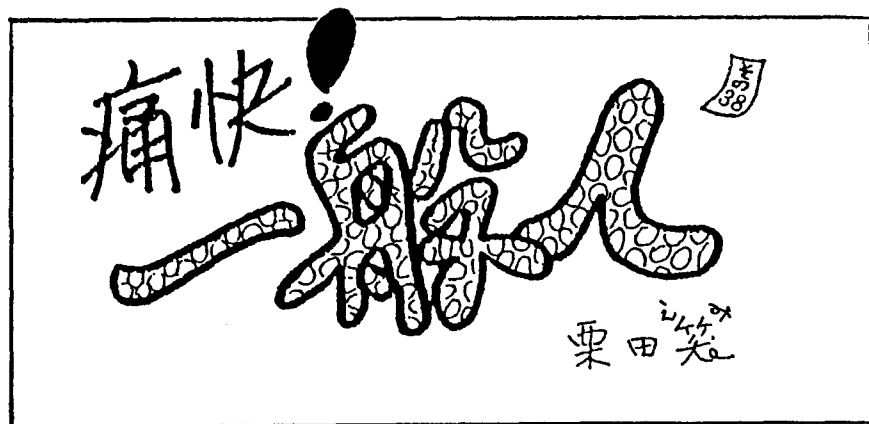
病院から退院を迫られている、どこか入院できる施設はないか。父がどうもボケ始めたらしい。寝たきりの母親をどうしたらいいかなど、など。

緊急避難的に対応できる施設、一生進入居できる施設など、身体状態の如何に関わらず、どんなにも対応できるさまざまなタイプの高齢者用住宅の情報を提供します。(資料は有料)

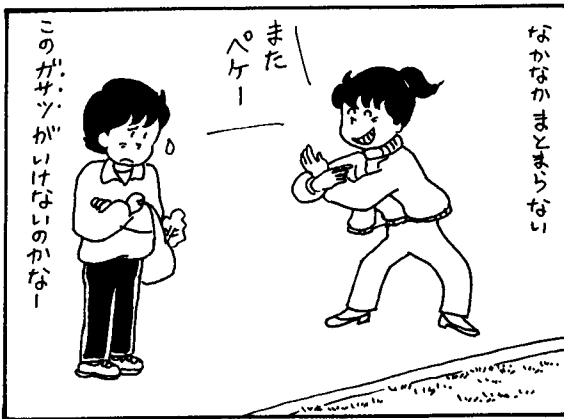
無料相談

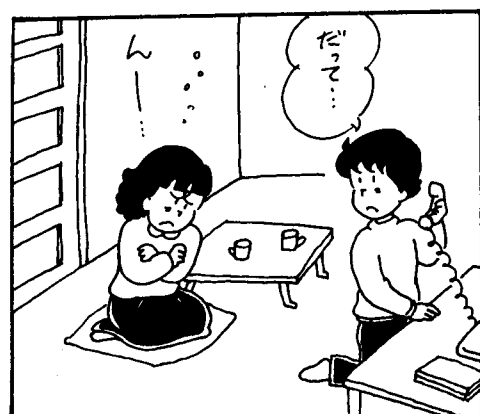
月・木 午前十時半～午後五時  
老人ホーム情報センター













# 娘が大人になった日

一月のある日、娘が学校から帰ってきて、言った。

「お母さん、今日、私、大人になった」

「えっ……。いつ？」

「朝。初めてだからよくわかんなかったけどね。自分でできた」

「どうしてそのとき言わなかったの？」

と聞いてから、私は深く反省した。朝から、夫とつまらないことで口ゲンカを繰り返していたので、娘は口をはさむこともできず、「行つてきます」と言い残して学校へ行ったのだ。ひとりでどんなに心細かっただろう。どんなに聞いてほしかっただろう。その時の気持ちを考へて胸がつまった。

「ごめんね」

## 大人になりかかった子供たち

千葉県市川市 村上悦子

「こんなこと、恥ずかしいっ」

娘は部屋にこもってしまった。ああ、この子も大人の仲間入りをしたんだ。そう思うと少し淋しく、でも嬉しい。私はなんだかとてもウキウキして、

「二人でこっそりケーキ食べてお祝いしない？」

と提案したが、あっさり拒否されてしまった。

「なぜそんなに喜ぶの？ 私はちっともうれしくないのに、めんどうだよ。慣れるとあたりまえのことになるのかな」なるほど。不安やわずらわしさのほう先か。若い子の性の問題は、よくマスコミでも取り上げられているが、どうか生命の尊さを本当にわかる女性

になつてほしいと祈るばかりである。  
そして、この子もいつか女性であるこ

とを喜べる日がきますように。  
久々に生命の神秘を考えさせられ

た。私に娘がいることを感謝し、忘れ  
られない一日になった。



# 三つ編み

「やり直したの？」

「やり直した」

「ちゃんとなつてないじゃないの。まだ左のほうがふわふわしてる」

「直したんだからいいでしょ」

「ぎゅつと編まなきゃだめ。玉は三つ以上でしょう」

三つ編みをきつちり編めと言う私と、これでいいと言い張る娘との朝のやり取りである。

娘の通う中学校では、髪型は三つ編みと決められている。編む玉の数は三個以上、おさげの長さはゴムで止めた部分が衿の先より下に来るように、とされている。

ところが、娘はあごの下あたりまで

髪の毛をふわつとさせ、そこからゆるゆると玉二つ分くらい申し訳程度に編み、残りの髪をゴムでぎりぎり縛つて豚のしっぽに仕上げるという、まことに見苦しいスタイルの「三つ編み風」をでつち上げるのである。

みつともない、許せない、こんな三つ編みならやらないほうがまし、ショートカットにでもしたほうがよっぽどすっきりする！ 毎朝娘と攻防を繰り返しながら、心の中で私は叫んでいる。きちんと編まれた三つ編みは清楚なイメージを醸し出すが、だらしない三つ編みはむしろ不潔感じがするではないか。

ウエストでたくし上げて、膝上一〇

千葉県市川市 荒木裕子

センチにしたスカートには目をつぶつてやってもよい。かばんの中に漫画の本が二、三冊入っていても、まあいいだろう。しかし、あのだらしない「三つ編みもどき」だけは絶対許せないのだからね。

「もう一度やり直さないさいよ」

「時間ないから今度ね」

「だめよ！」

「ごめんなさい！」（ふてくされモード）

「ごめんなさいなんていう問題じゃないのよ。きちんとやればすむことなの！」

今日という今日は、完全にぶち切れてしまった。感情がそのまま言葉と

なつてほとばしり出る、などという  
かつこいいものではない。ただただ娘  
をのしつていた。時間切れをいいこ  
とに、彼女はふわふわ頭のまま玄関か

ら飛び出して行ったので、幸か不幸  
か、余りに汚いバリ雑言は発するチャ  
ンスを逸してしまったが。

一人になると不覚にも涙が出てきた。



何でたかが三つ編みのことで、親子が  
喧嘩しなくてはならないの。変則三つ  
編みで登校したら、本人が学校で指導  
されるだけのことではないか。それと  
もそんな格好で学校へ送りだすなんて  
いう事態は、親としての沽券にかかわ  
るからなのか。少しはそれもあるけれ  
ど、それだけじゃあない。

以前アドラー心理学の講演会に行っ  
た時、目から鱗が落ちる思いで聞いた  
講師の言葉をふと思いだした。「これ  
は本人の『課題』なのだから親は提案  
をするにとどめるべきで、命令する筋  
合いのものではない。大切なのは親子  
関係を気持ちよいものに保つこと」

わかつているのだ、わかつてはいる  
のだけれど、あんなみつももない三つ  
編み、生理的に我慢できないのだも  
の。仕方ないではないか。

三つ編みの編み方をめぐって、親子  
げんかの果てに無理心中、なーんてい  
うのはまずいわよねえやつぱり。悔し  
涙を振り払いながら、つぶやく私で  
あった。

(え・奥島千恵子)

## 子供不足に悩む国、ニッポン

なぜ日本の女性は子供を産まなくなったのか

ユリエル・ジョリウエリ 著  
鳥取 訳

フランス人で日本での子育て経験もあり、現在上智大学教授である筆者は、この本で日本社会での育児の問題点を、膨大な資料の引用を交えて説く。

かつて騒がれた母原病、布オムツ至上論、母乳育児、胎児教育、三歳児神話などの引用部分を読んでいくと、子育てに自信をなくしてしまうほどだ。

しかしその問題点を彼女は細

かく分析、指摘していく。

育児書や小児科医が今までの育児のやり方や失敗の罪を母親になすりつけてきたこと、会社が社員に長時間労働をさせているため、父親が育児参加できないこと、母親が子供を産んだ後、外にフルタイムで働きに出るのが難しいように税金の配偶者控除を設けていること、などである。

子供の教育にお金がかかり過ぎることも、少子化につながっている。

他書の関係資料引用が多いのはフランスのジャーナリズムの特徴だそうだ。「わいふ」誌からの引用も結構あり、親しみもわいてくる。

余談ですが彼女と田中編集長はお知り合いのようです。

大和書房 一三六六円(ク)

## 人はなぜ犬や猫を飼うのか

人間を癒す動物たち



有馬もと 著

空前の「ペットブーム」。なぜ人はこんなにも動物を飼いたがるのか。題にひかれて手に取ると、内扉にコンパニオン・アニマル研究という英語の題が付してある。

まず心の疲れを猫に癒された同僚の例が、次に犬や猫とのつきあいの歴史が、そして病や老いを癒す動物たちが語られる。

さらに盲導犬や介護犬が人と犬との愛情から自然発生的に生ま

れたことも。

これらは実例であるだけに胸を打つ。しかし本書が教えてくれるのは、そうした素晴らしい愛情関係を育むための知識と心得なのである。

現在の都市型生活で動物を飼うためには、昔、田舎で戸外で飼った経験はほとんど役に立たない。

大型犬も室内で飼うとすると、犬種を選び、性質のよいも

のを選び、飼い主として条件を整えなければならない。

にもかかわらず、いや、だからこそ、動物行動学に裏打ちされた筆者の見識が、動物との楽しい充実したつきあいを、場当たりでなく確実なものにしていく助けになってくれると思う。

愛情と手間をかけ、体罰はせずにきちんとしつける。子供の親として読んでも耳が痛い。

大和書店 一五〇〇円(木)





東京心理教育研究所「親の会」編集  
金盛浦子 監修

子どもの閉じこもりや不登校という問題をかかえた母親たちが、金盛さんのカウンセリングを受けて変わっていくプロセスを、体験談というかたちでまとめたものである。

子どもの成績に一喜一憂し、母親は不安を子どもにそのままぶつけてしまう。その結果子どもは自分の不安を増幅させ、追い詰められて家庭内暴力となる。あるいは母親は先回りして子ど

もに手を出し、子どもの生きる力を弱めてしまう。そんな自分の姿に親が気づいていくなかで子どもは確実に変わっていく。学歴信仰に親がどっぷりつかり、子どもをここまで追い込むのかと慄然とするが、口うるさく子どもを管理するのも、母親の愛情の結果だとすると、誰にでも起こりうることだとも思う。親が人間として自分の幸せを大事にし、自分の人生を生きる

ことができれば、子どものありのままの姿を受入れ、その子なりの生き方を認めることができる、という金盛さんの言葉は、そのとおりだ。親は、世の中にはいろんな人がいろんな場で生きていることを子どもに伝え、「大丈夫よ。あなたはやっていける」と支えてやりたい。

親による等身大の話は多くの親たちの参考になるだろう。

青樹社 一二〇〇円(間)



柏木節子 著

船乗りの奥さんが書いた小説で、主人公も外国航路の船乗りである。

ここに収められている三つの短編には、どれも船員の悲劇の部分のみがテーマとして取り上げられている。「航跡」では、出航前に何時間か余裕が出来、急に家に帰ることにする。突然の電話に妻は大喜び、急いで娘を迎えに行く。だが……。家に

帰った船員の前に、妻も娘も姿を見せない。時間が刻々と過ぎていき、乗船時間がせまる。そこへ警察から電話が……。 「下船」では、乗船まぎわ、妻に、「私、あなたが船に乗るとホッとするの。ごめんなさい」と言われ、目の前がスッと暗くなる一等航海士。

妻と波長がずれてしまう淋しい船員達。思わず、可哀想で抱

きしめてあげたくなった。

一般の夫婦にとって、あたり前の、いつもそばで暮らす生活。そのあたり前が、つかの間の幸せでしかない船員夫婦。じつは私も船員の妻だけれど、普通の夫婦は、そばにいるというだけで、もっと幸せと感じてもいいのでは? いや、たまに会うからこそその幸せなのか。

成山堂書店 一八〇〇円(松)



## ボランテアだから こそ、断れない

匿名

夫が日本海原油流出事故のボランテアに参加することになった。ボランテアといっても義務である。職場から何人かが担当上司に抜擢？されて参加するのだ。「〇〇さんに言われたら断られへんしなあ」と仕方

なくOKしたとか。それもそのはず、夫は腰が悪くて整骨院に通っており、同時に一カ月ほど前から泌尿器科にも通っている。その上現在風邪で体調が悪いのだ。「でもこれくらいのことでは断るのもなあ。現に仕事には行ってるし」とすこぶるゆううつそうである。そして我が家には0歳の赤ちゃん（しかも風邪で熱を出し、夜中もぐっすり眠れないので機嫌が悪い）がいるので、休日に早朝から夜遅くまで家をあけられるのはつらい。はつきり言ってボランテアどころではない。だが断れない。

風邪がひどくなつて寝込んだりしたら、一体誰が責任をとってくれるというの？「今トイレに近いのに、バス五時間やで。いくら途中止まるといったって……」と暗い表情。そこまですて参加しなければならぬの？ボランテアってこんな気持ちで行くものじゃないと思う。自分から率先していくからこそ、ボランテアではないのか。そ



れともこんな風にしか考えられない私たちの心が狭いのだろうか。そんな裏事情があるのに、表面はボランテアという美談で片付けられてしまう。ボランテアだからこそ、断れない部分がある。

明日の早朝、理不尽な思いを抱きながら、夫を見送ることになるだろう。「仕事より大変やから、もう寝るわ」と夫は大きな溜め息をついて、先に寝床についた。

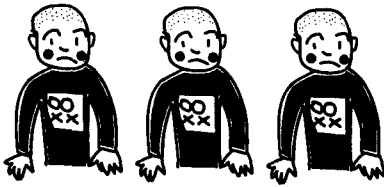
## 異様な光景

千葉県市川市 堺 みどり

日曜日の朝八時ごろだった。わたしは、仕事に行くため京成線の各駅停車に乗っていた。電

車は、時間が早いせいかガラガラだったが、A駅に着いた時、空色のジャージ（運動着）を着た十四、五人の団体が乗り込んできた。全員男の子だ。中学生らしい。

彼らは、私のとなりと向かいの座席に座った。何人かはどっちに座ろうかときよろきよろしっていた。「早く座れ」という声。



引率の先生らしい。男の子たちはそろいのジャージ上下に黒いスクールバッグをしょっていた。運動部で、どこかへ試合にでも行くらしかった。

彼らをちらりと見回した。すると異様な事に気がついた。まず、みな同じ運動着に坊主刈りの頭。おとなしそうで、行儀がよい。似ているというよりは、違いが見えない。

それから、何といってもショックだったのは彼らの左胸にはりつけてある、おおきな布の名札である。縦一〇センチに横二〇センチはあるだろうか。〇〇市立〇〇中学校、学年、組が上側にあり、そして名前がやけに大きいのだ。三分の二をしめていた。それは、向かい合って座っていても、はつきりとよみとれてしまう。千葉県の中北部、落花生の名産地と聞いたことがある地名だ。一年生だ。

いったい彼らは、家を出てからこの大きな名札をつけたまま外を歩き、電車に乗ってきたのだろうか。子どもたちは、学校のきまりといわれればおとなしく従って、疑問も何も持ちえないのだろう。しかし、もし大人がこれをやったら、まるで軍隊か囚人のようではないか。わたしは、教師たちの鈍感さに失望した。

家が密集した東京の下町の、なんとはない景色を、子どもたちは、ながめては楽しそうに話をしていった。わたしは、明るい子どもたちの表情を見てすこし安堵した。

「おい、次の駅で降りるぞ」と先生らしき男性が言った。「はい」とそれぞれの子どもたちは、素直に返事をした。

次の駅で彼らは降りていった。私は、自然と彼らの姿を目で追っていった。そしてまたショックを受けた。うしろ姿のズボン

の右側にも名札が縫い付けられていたのだ。上着でかくれないように名前が一番下に書かれている。

大きくて、見やすい名札は教師の利便性のためだろうと思う。それは管理しやすいともいえるのではないだろうか。生徒たちは、

「きみたちは〇〇中の生徒です。いろいろな人達からみられていきます。学校の名に恥じないような行動をとってください」という先生のことばに、きつと素直に「はい」と返事をしていくにちがいないと思った。

運動などで危険性をさけるためにということも考えられるが、必要最小限度にするべきだと思う。名前を名乗ることの重要性を、子どもたちに教えていく必要があると思う。

（え・山田京子）

# 豊穰の女神

——続アンナプルナ・ベースキャンプへの道程——

奈良県生駒郡 高松恭子

## ■トレッキング開始■

「ナマステ（おはよう）」の声に目を覚ますと、テントの入り口から、キッチンボーイがミルクのたつぷり入ったチャーを差し入れてくれた。田んぼの真ん中にテントを張ったので、稲の切り株で凸凹して背中が少し痛かったが、十分寝て気持ちいい寝覚めだった。お

茶が済むと洗面のためのお湯を洗面器に入れて用意してくれる。いたれり尽くせりである。朝食は、おかゆ、ホットケーキ、目玉焼き、オレンジに紅茶、ミルク、インスタントコーヒー、ココアなどの飲み物だった。朝食後、ポーターやキッチンボーイたちと初めて自己紹介をかわした。

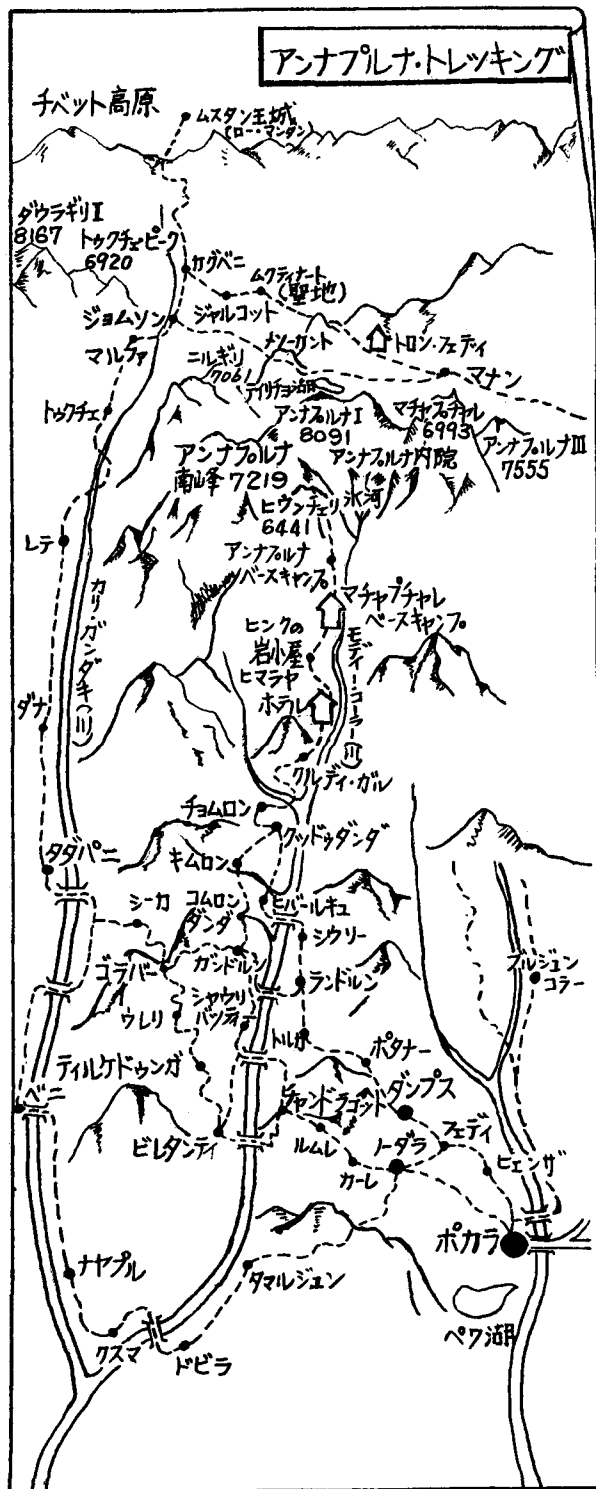
トレックのメンバーは、リーダーがシエルパのモ

ティアル・グレン（四十二歳、モティさんの本名）、サブシエルパがラッパ・シエルパ（二十四歳）、コックのドルシー（二十歳）、キッチンボーイ兼ポーターのトーラン・グレン（二十三歳）、ニマ・テンジン（二十歳）、プードルシー（二十歳）、たった二人のトレックを六人が支えてくれるのである。

朝食の後片付けを終えると、キッチンボーイたちは早々に出発した。早めに目的地に着いて、私たちの昼食の準備をしなければいけないからだ。一休みして私たちもサブシエルパのラッパ君と出発した。いよいよ十四日間のトレッキングの始まりである。

体がまだ慣れていないのと、ラッパ君の歩く速度が速いので、最初ののぼりはたいへんきつかった。さすが歩く以外に手段のないところだけあって、道はき

# アンナフルナ・トレッキング



ちんと石が組まれ整備されている。これなら雨期になってもぬかるんで歩けなくなることはない。しかし石の階段というのは慣れないと足にこたえるもので、たまに土の道になるとほっとした。ふーふー喘ぎながらのぼり、見晴らしのいいところで休憩していると、あとから出発したポーターたちが追いついてきた。三〇キロ以上しよっているのに、まるでハイキングのような顔だ。そこへ今度は見覚えのある顔がやってきた。前日、カトマンズからのバスで隣り合わせた、ダ

ニーボーイとダニボーイだ。四十代後半くらいのイギリス人夫妻を案内している。彼らはロッジを利用しているので少人数でいいのだ。やー!と、お互い挨拶をかわす。イギリス人の夫人のほうは、首からカメラをひとつぶら下げただけで、荷物は全部ダニーボーイが担いでいた。私たちも結構重いものはポーターに担がせていたが、手ぶらではいくらなんでも気がひける。しかしヨーロッパ人の多くは平気で全部担がせていた。

お金を払っているお客なのだから当然と言えば当然だが、階級社会に慣れていない私たちは、日本とヨーロッパという環境の違いを感じた。

再び歩き始めた。天気は快晴、アンナプルナの間並みは美しく、ノグダラの尾根つたいを鼻唄まじりで歩いているときだった。ある建物の前に何人かのトレッカーがたむろしている。前を歩いていたコックのドルシーが振り返って、「トレッキングパーミット（許可

AP16309/109 JAPAN

His Majesty's Government  
Ministry of Home  
Department of Immigration  
(Related to subrule 2 of rule 3)

**TREKKING PERMIT**

In accordance with the subrule 2 of rule 3 of the Trekking and Rafting rules, 1985 the permission is hereby granted for trekking in the area of ANNA PURNA AREA of the KASKI District from 22/11/93 to 25/11/1993 (4 days) to

**Route of Trekking:**  
Pokhara, Naudada, Ghorepani, Birethanti, Ghandruk, Annapurna, Base Camp, Tatopani, Jomsom, Muktinath, Manang Village, Chame.

Point of starting g.v.k.  
Point of ending g.v.k.  
Name of the Trekking agency g.v.k.

**ACAP ENTRY FEE**  
RS. 200.00  
SNJ41464

**NEPAL IMMIGRATION (TREKKING)**  
40434  
T.P. No. 31-10-92  
Valid until 31-12-92  
Passport No. 5121841  
Trekking Area g.v.k.  
Date 21-11-93  
Immigration Officer g.v.k.

To, Mrs. KYOKO TAKAMATSU  
Name, Mrs. KYOKO TAKAMATSU  
Address, 3118A B.D. Road  
Passport No. 5121854

Immigration Officer

トレッキングパーミット

証)は？」と、尋ねた。そうだ！パーミットはまだもらってなかったのだ。

ヒマラヤをトレッキングするにはトレッキング許可証が必要だ。これはトレッキング中のパスポートに代わるもので、カトマンズにあるネパール観光局にパスポートと写真、申請書を提出して発行してもらうのだが、丸一日待たねばならない。

日程に余裕のない私たちの場合、カトマンズに到着した当日に申請書を出した。そして翌朝早く許可証なしで出発した。発行される許可証は、エージェントのだれかが受け取って、その日の夜行バスで私たちを追かけてくる手はずになっていた。私はこんな冷や冷やすることは嫌いなのだが、遠征隊の藤川さんによると、「いつでも冷や冷やするけど必ず追いついてくる」のだそう、エージェントに任せることにしたのだ。

モティさんはまだ来ない。きつと私たちの許可証を持って、夜行バスで追っかけてくる人 wait しているのだ。これがないことには、このポリス・チェックポイントの前を通過できないのだ。仕方なくここで昼食を食べながらモティさんを待つことにした。

おいしい食事だったが、モティさんが来ないのでどうも落ち着かない。事情がどうなっているのか尋ねようにも、コックもポーターも英語が話せないで、夫の片言のネパール語だけが頼りだ。心もとなない会話を

交わしながら待つがまだ来ない。サブシェルパのラッパ君が、「じゃあ行こうか」と言うので、「えっ?どうやって」と思っていると、「チトチト(早く早く)」と言う。ちょうど昼どきで、ポリスマンが中に入っていたのをいいことに、我々は、小さく腰をかがめて逃げるようにポリスの前を通過してしまった。

ワー! やったやったとVサインなどをしてみたものの、何でこんな不法ことをしなきゃいけないのだと腹がたった。先が思いやられる。大丈夫かいなと案じながら歩いていると、いったどこから来たのか、目の前にモティさんがいる。

「もう! 私のパーミットは!」と、ふくれっ面で叫ぶと、「ここにあるよ」と、広げて見せてくれた。

「なかなか来ないから迷子になったのかと心配した」と言うど、モティさんはケラケラ笑って言った。

「迷子だって? このモティが迷子? アンナプルナは私の庭だよ」

この日は合計七時間ほど歩いて大きなチョータラ(休憩所)のあるチャンドラコットという宿場に着き、ここの田んぼにテントを張った。すぐ上のロッジにダニーボーイ一行が泊まっていた。マチャプチャレとアンナプルナ南峰が目前にそびえている。夕日にばら色に染まるさまは、とても私のつたない筆では書き尽くせない。



1時間に一度の休憩。ラッパ君、テンジン君と

## ■ゴラパニ峠を目ざして■

大きな宿場チャンドラコットにはいくつも売店があり、トイレットペーパー、電池、ちよつとした菓子類、水などが売られていて、こういう所では気分にとりが持てるはずなのに、やはり体がまだ慣れていなかったのだろうか、翌朝から食欲が落ちた。

私はあれこれ病氣持ちだが、自分でも驚くほど胃腸は丈夫だ。今まであちこちへ行つて馴れない食べ物も食べたが、おなかをこわしたこともなければ便秘をしたこともない。病氣があつてもこれは強みである。

それが、おいしい食事を作つてもらっているのに急に食欲がなくなった。どうも調理に使っているギーという油が体になじまないらしい。夜中、胃がもたれてなかなか寝つけなかった。翌朝もミルクで炊いたおかゆとオレンジを食べただけで、トーストや目玉焼きは喉を通らなかつた。梅干しを持つてくるべきだったかしら、と思つたりしたが、現地の人食べるものを食べながら旅しなければ、その国を旅行したことにはならないというのが私の信条なので、これでいいのだと思ひ直した。

トレック二日目は、長い長い急な下りから始まつた。前日のぼった分を全部下るのではないかと思うような長い下りだった。のぼったあとの下りは、せっかく貯

めた貯金を使い果たしたような気分で、とてももったいない気がした。一時間以上もかなりの段差がある石の階段を下り続けて足がガクガクしてきたころ、ようやくモディー・コーラー(川)の谷に出て、つり橋を渡つてビレタンティーのバザールに着いた。たくさんロッジが並び、雑貨屋、銀行、ポリス・チェックポストもあつた。

下りのあとはまたきついのが待っている。日中、カンカン照りの下では、まるで夏のような暑さでTシャツ一枚で十分だった。のぼりは土の道も多かったが、それでも大半は石の階段ばかりだったので、一時間に一度の休憩を入れながらも、四時間も歩くと本当にくたびれた。モディー・コーラーの川原で昼食になつたが、暑さと疲れで相変わらず食欲はなかつた。

昼食は準備と後片付けもいれて、いつも二時間近く取つてあつた。この時間を利用してサブシエルパのラッパ君は、川で洗濯を始めた。シャツ、ズボン、靴下などを洗ひ、最後に自分の頭も洗つた。

「川で洗濯か！ まるで桃太郎やなあ」と、眺めていた夫も、さっぱりしたラッパ君を見て自分も頭を洗つた。トレック中は、このようにきれいな川のあるところでは、洗濯やシャンプーをこまめにしておくといふ。洗濯物はリュックにくくりつけて歩けば、空気が乾燥しているので案外早く乾くのである。私もシャンプー





ポーターはこんなにかつぐ、1人平均30キログラム

して、欲張ってリンスしたとき、靴をはいたまま川にはまってしまった。膝から下がずぶぬれになったがこの日の宿营地、ヒレ・カスキに着いたところには、おおかた乾いていた。

私の食欲不振を心配して、この夜はモティさんが焼きそばなどを作ってくれたが、やはりギーの匂いが鼻につく。そこで思い切って言った。

「食事はとても上手に作ってあるけれど、ギーの匂いがどうしてもダメだから油はサラダオイルにしてね。

使わないで、茹でるだけでもいいよ。醬油をかけるから」さすがさまざまな国のトレkkerを扱い慣れているシェルパだけあって、理解が早い。このあとからは、たいいてい私たちの口に合うものを用意してくれた。

この日はクリスマスだった。トレック中はたくさんの人々とすれちがい、日本での山歩き同様、「ハロー」「ナマステ」と挨拶をかわすのだが、この日、西欧人はほとんど「メリークリスマス」だった。夜は、シェルパ、コック、ポーターも交えて歌って踊っての大騒ぎをやった。モティさんの魅力は何といってもその楽天性とリーダーシップにある。パーティーはおおいに盛り上がり、暗がりの中で見ると、ロッジの主人やかみさんまで、ビールを手に輪の中に入っているではないか。

食事のとき、いっしょに食べようと言っても遠慮して、私たちとは一線をひいて接していたポーターたちは、このドンチャン騒ぎをきっかけに、私たちに親しげに近づいてくるようになった。

八時半、「さあ、あしたはハードだよ、今日はぐっすり寝てください」というモティさんの言葉でお開きとなった。最初にも書いた通り、私たちの日程はぎりぎりいっぱいだったが、この二日間の歩きを見て、モティさんは、私たちが思ったより歩けると判断したのか、これから三日かかって行くと二日に短縮し



ダウラギリを背に、モティさん、夫と



ブーンヒル3200メートルで、亡き母の写真を持って

た。そのしわ寄せの日があしたなのである。  
「ええっ！ 今日よりしんどいの？」と、空腹の私は  
情けなくなつた。あしたは一気に前半のハイライトと  
もいうべきゴラパニ峠までのぼるといふ。この夜、私  
はビールとバナナだけ。これでゴラパニまでたどり着  
けるだろうかと不安になつた。

翌朝、モティさんが私にインスタントラーメンを作  
ってくれた。この「ララ」というネパールのラーメン  
は、ちょうど日本のインスタント元祖、チキンラーメ

ンとよく似た味で、空腹の胃袋にはとてもおいしかった。ミルク粥、ミルクティーもたっぷり摂って、「長い長いのはりだからビスタリ、ビスタリ（ゆっくり）」と言うモティさんのことばに送られて八時前に出発した。

出発はいつもサブシエルパのラッパ君と三人で、リーダーのモティさんはキャンプ地の後片付けをして、ポーターの出發を確認してから追ってきた。

ゴラパニ峠は約二九〇〇メートル、高度にしたら信州の乗鞍岳と似たようなものだが、九合目まで車で行ける乗鞍とちがつて、最初から最後まで全部、足で歩かねばならないのがヒマラヤのつらいところだ。

このトレックのコース設定をしてくれたメラ・ピーク遠征隊の藤川隊長は、出発前、気楽に言ったものだ。「ゴラパニは乗鞍程度やし、アンナプルナベースキャンプかて富士山よりちょっと高いだけや。寒いけどなあ」

縦だけ見ればそうだろう。しかし藤川さんは横がこんなに広いとは言わなかった。前年の夏に登った富士山を思い出しながら、あののほり下りをもう三日連続で続けているような気がした。

石畳の坂道を歩いていると、カランカランという音が何度も響く。ロバやラバの隊商である。この道は、チベットとの交易路にあたり、この地方に住む人々に

は生活の道なのである。ロバたちは重い荷物を積み、急な坂道を躡くこともなく上手に下りていった。この日は数え切れないほどたくさんの隊商とすれちがった。ゴラパニへの道は、それほど遠く、長く、きつかった。ウレリ、ナヤタンティーを経てようやくゴラパニの集落が見えてきたときには、もう陽が傾いていた。寒い、とにかく寒い。最後の急な石段をのほりつめるとパツと視界が開け、目の前にダウラギリ連峰が白く輝いていた。

この日は凍った地面にテントを張ったのですがに寒く、断熱マットを通して冷たさがじんじん体に伝わってくる。クロロファイバーの肌着上下にセーター、ズボン、ダウンジャケットを着て、毛糸の帽子に毛糸の靴下、手にはカイロを握ってといういでたちで、シュラフにもぐりこんで寝た。

翌朝、ゴラパニ峠から一時間ほどのブーンヒル（約三二〇〇メートル）に登った。雲ひとつない見事な快晴だった。ダウラギリ峰（八一六七メートル）をはじめとするダウラギリ山群、アンナプルナ三峰（七五五五メートル）をはじめとするアンナプルナ山群、マチャプチャレなどが三六〇度見渡せる大パノラマである。圧巻だった。ここには、モティさんとラツパ君、グリン君の五人で登った。私にはどう考えてもこれは登山とは思えないのだが、ヒマラヤでは三〇〇〇メー

トルクラスは山ではなく丘なのである。彼らにはいつも見慣れている山々だろうが、それでもこのような快晴の下で見るとまた格別なのか歓声をあげていた。

下山して早めの昼食を食べ、この日の目的地、タダパニ（二六三〇メートル）に向かった。昼過ぎまできついきついのはりが続き、そのあとはアイスバーンの危険な下りが続き、アンナプルナベースキャンプまで行く自信をなくしかけていたが、この日の昼を境に急に体が楽になり、どんどん歩けるようになった。そして食欲も完全にもとに戻った。

体が慣れてきたのだらうと思う。これ以降、一日の時間割は、八時間歩いて十時間眠り、食事を含めて六時間の休憩というパターンが定着した。

万歩計をつけて歩いていたが、カウントはたいいて一日二万五千〜三万歩を示していた。荷物をしよって急なほり下りばかりでこの歩数だから、相当な運動量だった。

## ■ベースキャンプ目ざして■

タダパニに向かっているとき雲行きが怪しくなってきた。「雨が降るのかしら」とモティさんに尋ねると、ヒマラヤでは夕方はいいていこんな具合だといふ。細かい霧雨が降ることもあるが、日中はたいいて晴れるらしい。朝の早いうちにブーン・ヒルに登っておい

てよかった。午後ではあれほど見事なダウラギリは見られなかっただろう。

四時過ぎタダパニに着いた。ひと足先に着いたキッチンボーイたちがせつせと夕食の支度をしていた。

ここはかなり大きな宿場でシャワーもあるという。もつともシャワーといっても、太陽熱で温めたタンクの水をホースで出すだけの原始的なもので、ムシロで囲ってあるだけだ。風の吹きすさぶ二六三〇メートルの高地である。どれほど寒かったかご想像いただきたい。この日のように曇りがちだと途中で水になるかもしれないと、私たちはハラハラしながら大急ぎでシャワーを浴びた。(一人六十円)

夕食は非常に寒かったのでロッジのストーブのそばのテーブルを借りて食べた。モティさんはここで偶然シェルパ仲間と出会い、たいそう喜んで私たちまでビールをごちそうになった。食事はいつもローソクをともして食べた。電気のない生活では、火の始末さえきちんとすれば、懐中電灯よりローソクのほうがはるかに便利だった。

翌朝、どんよりとした雲間よりアンナブルナ・サウスの雪を頂いた頂上が見えた。前日ゴラパニから眺めたときにはずいぶん遠かったが、うんと近くなっている。よく歩いたなあと思う。

トレック六日目はモディー・コーラー(川)最奥の

村チョムロン(一九五一メートル)を目ざした。前日までのしんどさが嘘のように体が楽になった。この日も急な下りから始まり、のぼりと下りの連続だったが、土の道が多かったのと、やや曇りがちだったこともあって疲れは感じなかった。日程を一日短縮できたという気分的なゆとりもあつたのだろう。

この日からポーターが一人増えた。年配のおじさんで、名前をチャタレイさんという。この人が加わったのには理由がある。これまでは炊事のために薪を買っていたのだが、タダパニとチョムロンの間あたりから自然保護のため伐採が禁じられている。そのため燃料は石油を使うので、それを担ぐ人が必要になったのだ。チャタレイさんは、ふつう家庭で使っているポリタンク二つ(もちろん満タン)と石油コンロを背負って、にこやかに笑いながら私たちを追い抜いて行った。大きな荷物にすっかり隠れてしまうほど小柄な人だった。

四時ごろチョムロンに着いた。喘ぎ喘ぎ、這うようにしてたどり着いたヒレ・カスキやゴラパニと違い、この日は鼻唄まじりで余裕の到着である。最後の峠を越えてチョムロンの村を目にしたとき、一瞬、スペインの田舎にでもいるような錯覚を覚えるほど、ゲストハウスやロッジに咲き乱れた花々が西欧風だった。

早く着いたので洗濯をすることにした。洗面器を貸してほしいと言うと、モティさんは私から洗濯物を



ヒマラヤでは大半が写真のような石段ばかり  
橋もつり橋はましなほうで丸太1本というところもあった

取ってチャタレイさんに洗うように言った。  
「いいのかしら」と、思ったが、チャタレイさんは凍  
るような冷たい水でさっそく洗い始めた。鍋を洗って  
いる洗濯石けんでごしごし丹念に洗っている。私はオ  
ロオロした。モティさんに「汗を洗い流すだけでい  
い」と、言ってみると頼んだが、「気にしなくてい  
いよ」と、取り合ってくれない。チャタレイさんは四  
十分もかかってたぐさんの洗濯物を丹念に洗いあげ  
た。その間、私はいたたまれない気分だった。

チャタレイさんの真つ赤になった手にホカロンをの  
せてあげると、不思議そうにしげしげと眺めていた。  
その横顔は若々しく、私は勝手に年配の人と決めつけ  
ていたが、意外と若いのではないだろうかと思った。  
食事のとき年を尋ねると、何とそのときの私と同じ  
四十歳だ。貧しい食事ときつい仕事で早く老けてしま  
うのかもしれない。モティさんは、チャタレイと会う  
のは十年ぶりだと言った。モティさんがマカルの登  
頂を果たしたとき、チャタレイさんがポーターを務め  
たのだという。

「マカルーはチャタレイと  
登ったんだ」と、モティさ  
んは当手を思い出すように  
やさしい目をして、懐かし  
そうに言った。

翌十二月二十八日、アン  
ナプルナ・サウスとマチャ  
プチャレがいよいよ近づい  
てきた。目ざすアンナプル  
ナベースキャンプはその間  
の谷だ。この日は非常に陰  
しい道が続き、薄暗い樹林  
の中を歩くことが多かった  
ので、写真を撮ることもな

くひたすら歩いた。珍しく日本人とよく出会った日だった。ほとんど二十代の学生ばかりだったが、みなガイドにも頼らず一人、または二人でトレッキングをしていた。

予定ではヒンク（三〇一四メートル）まで行くはずだったが、三〇〇メートルほど下のドバンで日が暮れてしまった。真っ暗になると、重い荷物を背負ったポーターが歩くのは危険だ。モティさんは、明日一日でベースキャンプまで十分カバーできるから今夜はここに泊まる、と言った。一軒だけ小屋があり、中に入るとまあ、ダニーボーイとタニダニボーイがいるではないか。ゴラパニ以来三日ぶりだ。彼らのお客のイギリス人夫妻もいっしょで、「さあここへ、ここへ」



タダパニにて、ロッジの娘さんと

と、ストープのそばの席を空けてくれた。

夕食はラッパ君が餃子を作ってくれた。もちろん皮は売っていないから粉から作るのだが、はて、どこでこねて伸ばしたのだろうか。大きな皮に包んであり、きれいにヒダがとってあった。どこでこねて伸ばしたかは考えないことにした。この日、私はコックのドルシーに焼き茄子を教えた。焼いて皮をむき、醤油をかけたところまではよかった。

「日本ではジンジャーをかけるのよ」と言ったのがまじった。そのあといつも手鼻をかんているグルンが、その手でぎゅつと生姜を絞ってかけてくれたのだ。

私がポーターたちにあげたホカロンを、彼らが振って発熱させているのをダニーボーイが不思議そうに見ていたのも一つあげた。小さな袋が暖まっていくなを手で感じたダニーボーイの驚きはおかしいほどだった。

「あしたの出発は七時、今夜はぐっすり寝てください。あしたは長いよ」と、モティさんが言った。このドバンの小屋の案内板には、アンナプルナ・ベースキャンプ・アプローチという大きな文字の下に、「アンナプルナを目ざすすべてのクライマーは、ここから出発する」と書かれていた。さあいいよこのトレッキングのクライマックスだ。心配なのは天気だけだ。どうか晴れますように！

——つづく——

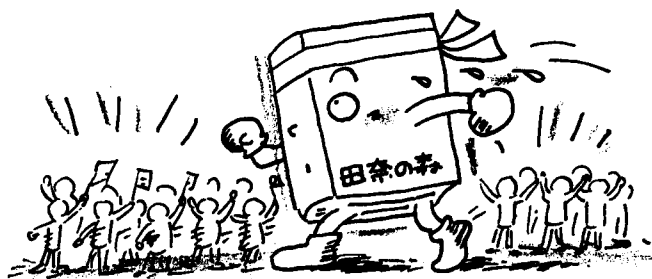
# フリースペース

## 勤労働員の体験記を 出版して

横浜市港北区 酒井智恵子

二年前に上梓した私の学徒勤労働員の体験記「田奈の森」のひとり歩きに、正直言って私自身驚いている。

そもそも体験記を書くきっかけとなったのは、クリスチャンになつて間もないある日の礼拝説教中、講壇から放つた牧師の一言「誰でも他人を傷つけていない人はいない」だった。それは記憶の箱に深くしまわれていた、戦時中の砲弾作りの日々を思い出させたのである。戦いも、敗け戦の様相が濃くなった昭和十八年ごろから、政府は戦争遂行のため国民を根こそぎ動員していた。年端のいかない少年少女も例外ではない。女学生だった私は、学徒勤労働員令という文部省からの通達で、横浜市と町田市にまたがる森の中の工場（東京陸軍兵器補給廠田奈部隊Ⅱ現在）は天皇、皇后両陛下ご成婚を記念して出来た「こどもの国」に



なっている)に行くことになり、高射砲、手りゅう弾、歩兵砲などの砲弾作りにたずさわることになったのである。

ミリタリズムにとっぷりつき、軍国少女に仕上がっていた私は、この砲弾作りを名譽なことと思っていたが、牧師の一言で、私も戦争の加害者であったことを思い知らされた。

後世の若者に同じ道を歩んでほしくない<sup>き</sup>と体験記をまとめる決心をした。途中肺がんが見つかったりしたが、ようやく近代文藝社から「田奈の森」が生まれた。先ず朝日、読売、神奈川、東京などの各紙が取り上げてくれた。これを皮切りに「百万人の福音」という月刊紙、「ハーベスト」というテレビ番組、キリスト教ラジオ放送局FEB Cの「コーヒーブレイク インタビュー」というトーク番組出演のラッシュが続いた。

極めつきは「こどもの国ニュース」で報道されたことから、ついに「田奈の森」が宮中へひとり歩きしていった。本を献上して約一カ月後、井上和子女官長から美智子皇后のお目に止まったことや、皇后様から



の御見舞の言葉の連なる雅の世界からきた手紙に、私は一人感激してしまっ<sup>みやび</sup>た。

本が宮中に行く前にもう一つ大きな波紋がある。それは動員仲間から、今でも残る女学生休憩所の跡地に「平和の碑」を建て

ようという声が湧き上がり、昨年三月末に「平和の碑」が建立されたのである。

ひとり歩きはまだまだ続き、昨夏には、NHKラジオ深夜便で、宇田川清江アナウンサーが本の一部を朗読してくれた。続いて暮れの十二日、十六日、十七日、十八日には「平和の願いを語り継ぐ」というタイトルで、同じNHKラジオ「人生読本」に出演したのである。

今、本は第三刷。相変わらずひとり歩きを続けている。

## 意識のズレ

東京都新宿区 時尾 松子(65歳)

ものの見方考え方は十人十色、さまざまだから世の中おもしろいのだし、その違いを時には楽しみ時には文句を言いながら、みな生きている。

数日前のこと、あるサークルの仲間四人



と集まって一緒に食事をした。わいわい喋っているうちに、いかにして要領よく家事をこなすかという話題になった。みんな適当に仕事を持っていて、奥さんならぬ外さんの身である。年齢が最年長で六十五歳、一人は三歳ぐらい年下、あとは五十代後半が三人。その中のいちばん若い一人が「掃除と料理は手抜きできるけど、洗濯は毎日だもんね」と言ったので、

「あなたのとこ、ご主人と息子さんの三人暮らしなのに、どうして毎日洗濯するの」「だってうちは毎晩お風呂に入るたびに上

下こつそり着替えるし、息子はタオルを一回使うとポイッと籠に放りこむんだから……」

「へエーッ！　うちは主人と二人きりだけど、下ばきは毎日替えるとしてもシャッなんか三日くらい着るわよ、主人は私が黙っていると十日でも平気で着てるわ」

彼女は驚き、信じられないといった顔でまじまじと私を見た。一回顔を拭く度にタオルを洗濯機にかけるなんて、私も驚いた。こちらこそウツソーといたいところだ。改めてみんなに聞いてみたら、他の五

十代の二人も大体同じだという。六十代のもう一人は私よりさらに徹底していて、洗濯ばかりか、石けんを使って体をゴシゴシ洗うこともなるべくしない主義なのだそう。自分では当たりまえと思っている日常生活習慣も、せいぜい六、七歳の年齢差でこんなにも違いがあるとは意外だった。

「一回洗濯機を回すと、すごい量の水を使うけど、気にならない？」

と私は少し遠慮がちに聞いてみた。

「うん、水がもったいないなあーって感じる時もあるけど、一度脱いだ下着をまた着るのがいやなの。やっぱり癖になってしまったようね」

という返事だ。

蛇口から勢いよくほとばしる水を見てみると、私はいつかテレビに映されたある光景が目に見え始める。

遠い山奥の水源地でダムを建設するため、谷間の家々が水没した。それがある年、雨不足で日照りが続きダムの水が涸れて、再びその姿を現わした場面である。代々この地を故郷として暮らしてきた人々の思いのしみついた家が、そのまま残ってい



て、亡霊のように水底から現われてくるのだ。水没させたのは都会の消費者である。あだやおろそかにこの水は使えない、と私はいつも思う。

そんなこといちいち気にしてたら生きてゆけない、という人もいるだろうから、私は別に自分の生き方考え方を押しつけるつもりはない。それこそ十人十色の世の中だから。しかしこの投稿をお読みのみなさんはどちらの「信じられない」派だろうか、聞いてみたい気がする。

## ビルさんの仕事

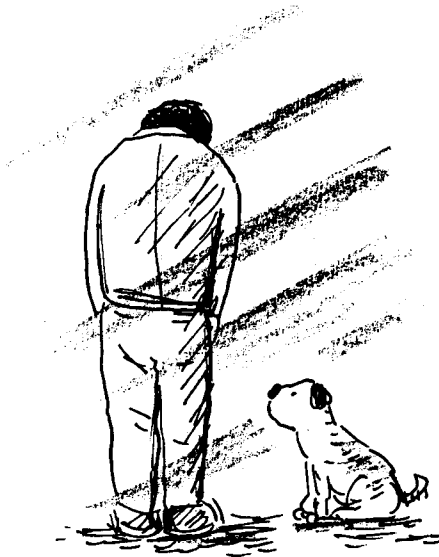
東京都武蔵村山市 大沢 陽子

十二月二十四日夜 七時半ごろ、ビルさんが挨拶に来た。「仕事が減ったから、あしたから来なくていい、といわれました」と。ビルさんは、お隣の工場に一年半も勤めていた。こんなに急にやめさせていいの

だろうか。退職金もなく。

「どうぞ」と夫がすすめて、ビルさんにあげてもらった。お茶を入れてビルさんの話を聞いた。ビルさんの給料は時間給で、

一カ月、二十二、三万円になったそうだ。ビルさんが怪我した時、その場にいた経営者はまず「怪我は自分持ち」と言った。その時、長くいる職場ではないと思ったそう



だ。

話はすぐローラ（ビルさんが保護した犬）のことになった。ローラは本当に、よく人間の言葉が分かる賢い犬だ。今、自分の一番の宝はローラだと言った。

「お願いがあります」と言うから何かと思ったら、私の友人たちに別れの挨拶がでないけど、よろしくということと、もう一つ、「お金はくれないように、お友だちに言ってください」ということだった。

「初めにいただいた時に、大家さんに、これいただいていいんでしょうかと聞き、いいでしょうと言われて、受け取ることにしました。ローラの餌とかいろいろいただくのは嬉しい、手紙も嬉しい。でも、お金はいただかないほうがいい」とビルさんは言った。

よく食べるローラが増えては大変だろうと思って、ビルさんがローラを保護して以来、私は月に一度ぐらい、友だちと工場のビルさんを訪ねて、短い感謝の言葉を添えたローラの餌代と果物など、ささやかな贈り物を続けてきたけど、お金を受け取るの、ビルさんは好きではなかったのだ。

夫や私や友人たちがビルさんに好意を持っているということが、お隣の人たちに嫌だったかも知れない。それが仕事を失う一因になったかも知れない。なんとしてもビルさんの仕事を見つけない。危険でなくて、気持ちよく働ける職場を。帰る時に、「わたしの家に一度来てください。何度でも来てください」とビルさんは言った。

仕事を探す中で、就労ビザは高度な技能を持った人にしか出ていないこと、観光ビザで来ていたら当然不法滞在であるということが分かった。

隣の仕事は鉄粉を吸ったりして健康によくないし、危ない仕事だから辞めたほうがいいと思っていた。でも仕事を探してみるとなくて、危険でも、仕事があるということとはありがたいことだったかも知れないと思ったりした。外国の人が日本で生きているのはほんとうに大変なことだ。日本は、アジアなどの労働者がどつと入って来たら日本人が失業するから、入れないようにしているそうだ。

でも、今日本で暮らしている外国の人たちは、このままでは安心して生きていけない

い。健康保険に入れないから医療費が高く、病気になるてもなかなか医者にかからない。病気になるったり年をとったりして働けなくなったら、生きてはいけない。不法滞在といっても、その人が悪いことをしたわけではない。日本が締め出しているだけなのだ。国に帰れというのかも知れないけど、お国にも仕事がないのだ。

高度な技術を持つか、日本人と結婚すれば、不法でなく、住み続けることができる。でも、どちらもむずかしい。

私は、友人たちに片っ端から仕事があったら紹介してとお願いしてきたけど、仕事はなかなか見つからない。

求人案内でこれはという仕事を見つけたら、外国人でもいいか聞いてみよう。就労ビザを持たないと分かったうえで、人物を見込んで雇って下さる方を探すことを続けよう。動物の世話をする仕事、パンを焼く仕事、その他、日本語の上手なビルさんはなんでも出来る。

まじめで、明朗で、礼儀正しい、ビルさんのようないい人が、住み続けたいと思う日本で生きていけないなんておかしい。

## 母の買物グセ

東京都目黒区 クワシイ智美

母は専業主婦だ。私が中学生のころ半ぐらいパートに出ていたが、その時期以外はずっと家に居る。習い事はプール、社交ダンス、エアロビクス、バレエボールなど忙しい人だ。

そんな母の趣味以外の楽しみは、私が想像するに買い物だと確信する。クレジットカードは持っていないし、そんなに高いものは買わない。でも会う度毎に新しいものが増えていく。勿論普通のジュエリーや洋服もよく買うのだが、それは他の方々もご購入されていると思うし、特筆するほどのことでもない。母はパートなどの催事場で行なわれる「便利品フェア」と名の付く所にはすぐ足が向いてしまう。今日はそんな母のコレクションを紹介しよう。



お風呂の湯船の中に取り付ける背中マッサージセット。これは湯船に入ったとき、丁度背中にあたる部分に吸盤マッサージャーを付け、自分の体の圧力で押すとマッサージ効果ありという代物。私もやってみたが、ツボのポイントにあたらず痛いだけ。ホテルのような大きく長いバスタブならフィットするかもしれないが、家の風呂だと合わない。

もう一つお風呂のもので、湯船の縁に設ける把手。これも吸盤になっている部分を

浴槽の右か左の縁に付ける。何のためかという、湯船からの出入りに転ばないように持つのだそうだ。まだ初老の域にも入っていない母には必要ないものだ。

台所用品では、牛乳パックを開けたあと残った場合に密封するための栓。通常開けてから一、二日で飲み切ってしまうので、これも必要なし。それにこの栓は取り付けるのに面倒だし、牛乳を飲むときにその栓自体取れてしまうこともあって、役に立たない。

クシ形になっているご飯のおしゃもじ。母曰く、これだとベタ付かなくてご飯が取りやすいそうだが、今までのがあるのに、わざわざ新しく購入しなくても……。

水道の蛇口に付けるシャワー。実家の台所は蛇口が二つある。片方の蛇口にはカトリッジ式の浄水器が付いている。このシャワー口は、取り付けたかなり下のほうまで届くようになってしまったので、食器を洗う時など、蛇口と食器がくっつきそうになって邪魔なだけ。

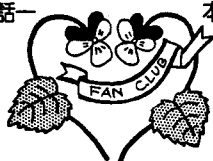
次はトイレタリー商品の部。歯垢を取るゴム付グリップとでも言うのだろうか。歯

の隙間の汚れを取る糸ようじのほうが、まだよく除去できると思う。歯を磨く前か後、どちらに使うのかは説明書がないので分からないが、それにしてもわざわざ歯の表面を、ゴムでこしこしすることもない。電動歯ブラシ。イオン歯ブラシ。歯を白くするハミガキ、薬用ハミガキ。歯の裏を見るためのミラー。どれこれ構わずといった感じだ。勿論そんなにすぐ歯が白くなるわけじゃない。

シャンプー、リンス類も新しい製品のCMをテレビでやっているとすぐ買う。シリコン成分入り、プロテイン入り、フケかゆみ防止用、美容院に行つて、そのオリジナル製品を美容師に薦められてまた買う。止まらない。風呂場には大瓶、小瓶とたくさん並べてある。母と父、二人暮らしなのに。化粧は眉毛と口紅ぐらいしかしないのに通販でまた買う。私や妹が使うかなと思つて買つておいてくれるらしいが。口紅だつて同じような赤、ピンク系統だけが鏡台の引出しの中に溢れんばかりに入っている。アイビュラーも一般の形は既に持っていて、今度は部分的にまつ毛をカールさ

## どうせ死ぬなら自分らしい暮のひき方をしたいと 思っているあなた、FAN倶楽部をご存知ですか！

「FAN倶楽部」は、ご自分の意志やご家族の考えを葬儀に反映できる「生前予約サービス」とご希望する先へ電話一本で連絡ができる「葬儀連絡サービス」をひとつのシステムとわたる安心を保障する保て組み合わせられる「保険も、これまでわかりにくかつ



本で連絡ができる「葬儀連絡サービス」をひとつのシステムとわたる安心を保障する保て組み合わせられる「保険も、これまでわかりにくかつた葬儀費用を明瞭化しました。

お問い合わせは下記へどうぞ



くわしくは「わいび」あて  
電話で資料請求して下さい 東京海上火災保険株式会社

わいふ指定代理店

杉本保険事務所 杉本侑子 ☎03-3260-4771

せることができる、アイデア商品をご購入。私は使ってみたが、普通のタイプのほうが使いやすかった。妹は気に入ったようだ。

そうゆうくだらん物（ここで言うくだらん物とは、どうしても生活に必要なもの以外の物）を買う余裕があるということはとても羨ましい。うち（私と夫、子供）は食費やら何やら切り詰めて、やっと生活しているというのに。私の子供たち、つまり母から見れば孫には、靴や洋服、保育園で使うための物などよく買ってくれるが、そういう生き方もあるんだなと思った。

## 中学受験まず一步

東京都杉並区

大口 笑子

噂に聞いていた。説明を受けにくくと、一〇〇パーセントに近い人が、入ることになると。それほど相手の話術は巧みだと。ライターという仕事柄、人の話を聞くの

は好き。しかもそんなに巧みな話術とはどんなものかと、興味がわいた。簡単に話術に惑わされたりはしないという自信もあった。

自信があつたからこそ、前日、今春小学四年生になる長女に、A塾の学力診断テストを受けさせてみたのだ。今時、中学受験をする人がかなり多いと聞いている。だが私は関西出身なので、東京のことはまったく分からない。今すぐどうということはないが、情報だけは入手しておこうという軽い気持ちだった。新聞チラシに、「無料で、塾に入る入らないに関わらず力だしを」と書かれていたため、参加したものだった。

娘は家では宿題しかしていないが、学校の成績はまあまあのレベルだ。担任からも、「勉強もよくできるし、生活態度もいいですよ」と言われている。その言葉を信じていた。下のヤンチャな息子に比べればはるかにできのよい子なのである。

なのに目の前にデンと座ったA塾塾長を名乗る男は、娘の答案用紙を見ながら首をかしげている。

「中学受験をさせるおつもりですか」

「親の私がまだよく受験の仕組みを理解してませんので、決めてはいないのですが」

男はうなずく。

「もし受験させようと思われるなら、受験クラスに入るのがいいのですが、この成績では無理ですね。とりあえず公立中学を目指す進学クラスに入り、受験クラスに変われるように頑張ってください」

私は想像していなかった言葉に驚いた。言っちゃあ悪いが、相手はいわゆる有名塾ではない。どうぞ、どうぞと招かれるものとはかり考えていたのだ。なのにうちの子は受験クラスに入れない!?、うちの子のレベルは、偏差値にすると四十くらいだともぬかす。何、四十? だって偏差値って平均が五十でしょ。うちの子はそれより十も低いっていうの。クソッ。バカにするなよ。

口には出さないが、大事に九年間も育ててきた愛娘をバカにされたようでムカつく。

この時点で、私は話を聞くプロから親バカに転じた。なのに悔しいことに相手は冷静沈着。



「中学受験と高校受験は違うのです。高校受験はほぼ全員の子が受験をするから、偏差値五十が真ん中といえますが、中学はハイレベルな子だけが受験する。偏差値はその子供たちの中で出すので、五十といっても、全体の中じゃかなり上のレベルになるのです。中学で偏差値五十の学校でも高校受験なら、六十かもしれないそれ以上になるケースが多いんですよ」

なるほど。だから今まで宿題しかしてこなかった娘は四十となるのか……。この塾もクラスは小学二年生からある。すでに受験勉強をしている子に比べれば、我が子は四十程度なのかもしれない。

不覚にも妙に納得させられた。そんな私の表情を男は見過ごすわけがない。

「でもね、まだ三年ありますから、何とかになります。頑張つて力を付けておけば、お嬢さんの受験のころは子供が少くないので、そこそこの学校なら、入りやすくなっています」

なんだ、そうなの。早くそれを言つてよ。ホッとしたとたんつい口が軽くなった。

「実はね、昨日書店で私立中学の本をペラ

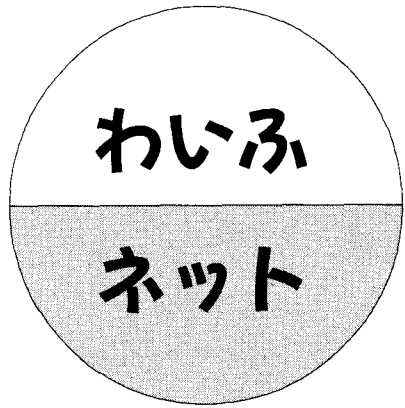
ペラ見てみたのだけれど、自由な校風で制服もないA女学院なんか心魅かれたんですよね、なんとかなりますよね」

私にとっては、雑談だった。真剣にその学校を目指しているわけではなく、本で見掛けたただけなのだから。だがとたんに男の表情が変わる。

「そこは超難関校ですよ。そこらに入ろうと思う人は小学一年のころから目指すか、四年からだとしても、親子が必死に、一致団結して頑張らないと無理ですな」

悔しいけれど、放つてはおけないな、という危機感を感じさせられてしまった。相手は塾長のお面を付けた営業マンなのだ、と分かっているても、勉強をすれば上がることを確認したい。情けないが、娘のためというよりは自分のためだろう。確認をして……、安心したいのだ。

あんなに軽い気持ちでのぞいてみた世界だったのに、帰宅後、仕事をホッポリだして、ゴミになっていた新聞の塾のチラシを前に広げた。気がつけば、どこかよい塾はないかしら、と電話をかけまくっているのだった。



## お答えします

「夜型人間を昼型人間にするには」の  
山藤さんへ

★夜型は昼型に戻るか——山藤様へ——★

東京都府中市 小松智子

夜型で困っている息子さんは、睡眠覚醒障害  
害と思われます。徹夜等をきっかけに、元来  
夜型の人の体内時計が、地球のリズムとずれ  
てしまうのです。都内で四か所、新宿です

と、神経研究所清和病院がこの病気を扱って  
います。私の息子は治療途中です。人それぞ  
れですが、息子は治療効果があまりないので、  
治療を続けながら、夜型人間として生活して  
いくことも考えるようになりました。

★体内時計の刺激!!★

富山県富山市 沢潟裕子

夜更かしや昼夜逆転の生活を続けると体内  
時計に支障を来し、睡眠相後退症候群<sup>イコール</sup>にな  
ることがあるそうだ。体内時計は一日<sup>イコール</sup>約二  
十五時間サイクルなのだが、午前十時ごろま  
でに太陽光を浴びること一日<sup>イコール</sup>二十四時間  
に毎日リセットしている。オリンピック選手  
で時差ボケを避けるために、日本出発前に人  
工の強い光を浴びている人もいます。清々  
しい朝の光で、ご子息の体内時計を刺激され  
てはどうでしょうか。

★「家庭の主人公は親」と伝えてみては★

東京都新宿区 田中喜美子

夜型の生活が、彼にとって何も悪いこと、  
不都合なことがなければ、彼はいつまでもそ  
れを続けるでしょう。

まず「こんなだらしない生活は私はいや  
だ。これからごはんの時間はきっちり決める  
よ」ときっぱり言い渡してください。それで  
もなおらず、食事の時間に起きてこなかった  
ら、食事をすっかり片付けてしまい、食べる  
ものがないようにしてしまってください。そ  
れもごく淡々とやってのけてください。最初  
彼が怒っても、柳に風と受け流して続けるこ  
と。家庭の主人公は子どもではなく、親であ  
ることを、毅然と子どもに伝えてみたらいか  
がですか。

「子ども二人の寝かせ方は？」の  
祇園さんへ

★まずお兄ちゃんと向きあって★

東京都新宿区 田中喜美子

これなかなか難しい質問なんですよ。

二番目の子どもが生まれると、お母さんは  
つい、そちらに気をとられがち。そもそもそ  
こに問題があるのです。

まず昼間、赤ちゃんにあまり手をかけない  
で、お兄ちゃんともっと遊んであげる。そし  
て赤ちゃんを寝かしつける前、赤ちゃんが寝



## 教えてください

子供会は盛んですか？

愛知県豊橋市 藤池タバサ

子供会に入っています。年に三度の催し、夏休みにはラジオ体操があります。残念ながら和気あいあいという雰囲気はなく、子供が都合で催しを欠席する場合でも、連絡に気遣います。また、会合に出ない親への悪口雑言は耳をふさぎたくなるほどで、個人の都合など無視同然です。調和と自由。どう考えたらよいのでしょうか。

草木染めの方法を教えてください

神奈川県平塚市 後藤美幸

ワンパターンの紅茶染めに飽きたのと、若葉の季節になったこともあり、身近な素材で草木染めに挑戦したいと思っています。手始めに「よもぎ」や「玉ねぎの皮」を考えています。

それも含めて、どなたか方法を教えて頂けませんか？

「わいふ」は株式会社？

アメリカ・リトルロック 伊藤琴子

去年より株を始めた。不況の日本と違い、アメリカ株式市場は健康そのもの。株は上がり続けていてこわいくらいだ。先日和田さんより送っていただいたファックスで、「株式会社グループわいふ」と発行人欄にありびっくりした。会長、社長が誰なのか、株価がいくらなのか、株主が何人いるのか、興味深いところです。「わいふ」歴五年目にして知った新事実。是非教えて下さい。

映画のタイトル教えてください

埼玉県戸田市 間瀬中子

以前、ヨーロッパの上流階級の女性がアメリカ（？）にわたってコーヒー園を経営するなかで、夫とは別れ、恋人には飛行機事故で死なれるという筋書きの映画を見ました。そのうえ、コーヒー園も何度かの経営難に陥り、最後には全部焼けてしまうのです。ヒロインはすべてを失い、ヨーロッパに戻ります。この映画のタイトル、原作名、日本語の翻訳本があるか、どなたかご存じないですか。

てしまったら一緒に楽しいことをする——と約束して待たせる。それからお母さんが昼寝をしたいなら、上のお子さんもそのとき昼寝ができるように、午前中かなり活発に遊ばせることが必要なのですが、そのへんはどうなっているんでしょうね。

それからお兄ちゃんに、「赤ちゃんを寝かしつけるとき、静かにしてね」と頼んでみていただきたいのです。子どもは頼んでみると、意外に素直に受け入れてくれます（もちろんそれまでのママとの関係が、よくなくてはならないのですが）。そして頼みを聞いてくれたら、「ママすごく助かったよ、ありがとう」とそのうれしさを率直に表現してください。「いい子ね」というかたちではめるより、子どもにお母さんの気持ちが伝わります。

これでダメだったら、また他の方法を考えましょう。

●このコーナーはみなさまからのご相談や質問を誌上でご紹介し、アドバイスやお答えをつのり、次の号にそれを掲載します。

質問もお答えも、一五〇ページの原稿用紙に、わいふネット質問・わいふネット答えを〇て囲んでお送りください。（短くても可）

# わいわいがやがや

## 遅咲きの息子

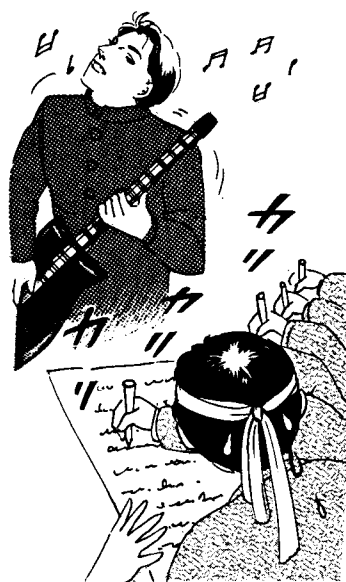
沖縄県那覇市●仲里貞子

息子は小学生のころは外遊びが大好きで、近所の方からは、やんちゃ坊の名も付けられるほどでした。高い所を渡り遊びをし、大人達から注意をされ、親には耳が痛いほど小言がありました。生傷が絶えませんでした。

夫は会社勤め、私は自営業で子供達の行動を見る時間が少なく、恥ずかしい思いも幾度かありました。昨今の子供達の環境なら息子は横道に行ったかも知れません。

三十年前の子供の遊びは健康的でした。

中学になりバント部に入部し、アルトサックスを買いました。それからは生活態度が一変し、朝練や、放課後の練習と、三年間



休むことなく頑張りました。在学中は県外大会に五回も出場し、中央大会では金賞も射止めました。高校入学と同時に進学のためバンドは止めました。将来の希望は特派員になり海外生活が夢だと話していました。

高校卒業後、進路指導の先生の勧めで留学しました。留学先の食生活に慣れるのに苦労したと話していました。二年目に留学生の父母で学校見学に行きました。その時息子に、一年目は

ホームシックになり、苦しかった事を聞かされ涙しました。大家族の中の生活から遠い異国の一人部屋の生活は、どれほど淋しい事かと、想像し、ホテルに着いてからも泣いてしまいました。

一緒に留学した生徒は次々とダウンし、帰国しています。息子は中学時代のバンド部での精神的訓練で、十年間留学生生活を送れたと話しています。帰国して病院関係のバイトをしながら

日本の法的試験をクリアし、今年の医師国家試験に無事合格しました。親は息子が幾多の厳しい試験を乗り越えた辛抱強さ、努力に感心しています。娘達是他府県に嫁いでいますので、皆休みをとり長男の祝福と、就職祝のパーティーで家族の絆を強く結びました。

親から一言、これからの長い人生を一步一步着実に歩んで下さい。

## わたしの健康法

東京都田無市●中村哲子（70歳）

朝、とくに早起きではありませんが、起きるとまず家中の窓をあけ、一時間ぐらい風を通します。東西南北どの室の窓も、冬のどんな寒い朝も。

東京の中では静かで緑の多い家です。それにしても朝の空気はさわやか。このくせがぬけず、スキー宿でも朝、窓をあけて仲間にくらわれ困りましたが、人間は酸素を吸って炭素ガスをはいているのですから――。

そのかわり、夜はなるべく早くお風呂に入ってねるようになっています。お風呂ではタワシで体をこすってから、風呂場の掃除をして上がります。

ベッドは終日陽のあたる二階の室の窓際におき、ふとん干しはカンタンに。

食事は一日三十種類以上のものを食べるよう心がけています。野菜や果物は毎日支度しますが、いそがしいので、カルシウム類は、まとめてふりかけを作って補います。そのふりかけは大きな箱に入れ、ふたをしないうで、冷蔵庫の一番上の棚におきます。カビはえないし、よ

く乾燥します。毎日、ご飯、納豆、青菜のおひたし、トーフなどにかけて食べます。

牛乳は一週間に四リットルは飲み、野菜ジュースは毎朝コップ一杯に酢を入れて飲みます。市販の合成酢ではありません。

わたしは身長一五五センチ、体重五〇キロを四十年間キープしてきました。体重が五〇キロをこえた時はその日のうちに落<sup>おと</sup>してしまいます。トレーニングして、夕食を一回ぬけばだいたい落すことができます。

病気をした事がないからかもしれませんが、医者にも薬にもたよらず、くよくよせず、そんなお金は、健康を保つために使ったほうがよいと思っ<sup>おも</sup>ています。東洋医学の鍼、灸、指圧は使いわけています。

少々の風邪なら、薬を飲まずに、ふとんをかぶってねていれば、そのうち治ります。

歳をとって一人暮らしが続き、ルーズにしはじめると、かぎりありません。それなりに生きてゆけますが、まだ仕事もいくつか抱えていますから、健康や経済を考えると、しつかり生きたほうがよさそうです。

九十二歳になる母も元気ですが、子どもより孫、孫よりひ孫が元氣。金沢にいるひ孫達はアウト・ドア・スポーツが大好きで、わたしの後をつぎそうです。

## 古い織のすばらしさに拍手

神奈川県藤沢市●本間美恵

二月九日、横浜高島屋に初代龍村平蔵——織の世界展を見に出かけた。日曜日ということもあって、列をなしての大混雑。なんという手のこんだ織であろ

うか。二センチ四方に七つの青海波、同じく唐代の人物の顔が三つ。着物もそれぞれミリ単位の精巧なもので、仕上げる気力、持続力、技、体力には想像を超えるものを感じた。人生の苦難の末の至芸をみると、作品のすばらしさよりも造りあげた人間の「意地」のすばらしさのほうに感嘆してしまう。ほとんど前に進まない列をはずれて、正倉院の古代製の復元を見る。

なんといいつも見たかったものだ。予想どおり鈍色にびいろのほればれするような一枚物に、胸の中の拍手が鳴りやまない。

龍村平蔵の織の復元、久保田一竹の染の復元。誰か古代の本の復元をしてくれないだろうか。本の保存はすでにマイクロ化、デジタル化したといわれている。少しさむざむしい。触覚で、古代や中世の息吹を本の復元によって味わいたいと思う。

## 「わいふ」編集部の皆さん

### 十五年ぶりに今日は

千葉市稲毛区●小澤長太郎

九十三歳。この十八年、娘と暮らしている。一日がなんと短いんだろう！ 六時起床。朝食準備。娘をおこしてから新聞を読む、と言っても大文字の見出しを見るだけ。朝食。娘出勤。

今日は泌尿器科専門病院へ行く日だ。入浴。九時出発。二時間待つて診察。医師の質問に、夜は必ず四回起きます。ここへ来るのは、前立腺肥大のため。整形外科も。これは腰の痛みのため。

家へ帰ると二時。遅い昼食。夕食の買物。夕食の仕度。七時娘帰る。「昼食は何を食べたか」と聞く。時々答えられない。「いいよ、食べたかどうかを忘



れたんじゃないから、アルツハイマーじゃないから」。九時就床。

この七年、視力と歩行困難、二つの障害を持つ私、一人で三つの病院へ。八十五歳以上で付添そだなしで病院へ来る者、女は何人もいるが、男は私の他、たった一人。

テレビも見ず、ラジオも聞かない私に、娘は時々週刊誌を買ってくる。だが私、面白い記事に出合ったことがない。で「わいふ」を思い出して電話し

ようと、その前にまず一時間ほどスペイン語の本を読んで、さあ「わいふ」へと思ったら、さつき住所、電話番号をメモした紙片がない。読んだ本の間にでもと思って、本箱の中の本を調べた。次の日、その次の日も。だが見つからない。娘に内緒の四万円も出てこない。覚えてるのは矢来町だけ。このむね「わいふ」へ手紙を書いて郵便局へと玄関へ——そうしたら、なんとも「わいふ」がといていた。

おすすめの一冊

老後はお金で買えますか？

早川裕子 著

川崎市多摩区 原田静枝



高齢者（六十五歳以上）が増え続け、現在人口の一四パーセントを超えてしまった。ちなみに三十四年前には僅か百五十三人しかいなかった百歳以上の高齢者が、昨年九月の調べでは七千三百七十三人にもなつて、もはや老人問題は避けて通れぬテーマ。巷にはその関係の出版物が溢れている。その中に早川裕子さんの「老後はお金で買えますか？」が加わった。彼女とはかつて「わいふ」編集部で机を並べた仲である。

高校の英語教師、結婚後イギリス、シंगाポールと海外生活も長く、その経験から真摯に教育問題を追い続け、その筆力には定評がある。そんな早川さんが老人に関する、それもお金をテーマとした

本を書いたそもそものきっかけは、本誌（二四一号から連載）に載つた「私を襲つた老人問題」であつた。そのころ彼女は「子供のいない大叔父から突然電話で呼び出されて……」とその対応に東奔西走していたが、同時にここにテーマを絞つて各地で取材を続けていたことを知つた。

二十億の預金がありながら孤独に死んでいった女性、息子の妻に遺産の土地が転がり込んだ末の悲劇、老後は田舎で自然の恵みを受けて暮らすことを実践した初老の夫婦、生活保護を受けながらも多くの「他人」に恵まれた夫婦、息子たち四大家族が回り持ちで介護した両親の最後、老人ホームで死を迎える独身女性と、ど

れにもお金についての具体的な話が書かれているが、悲喜こもこもの十四の物語はオムニバス映画を見るよう。特に自らが渦中にあつた最終話は圧巻である。

もともと「経済問題ど素人」と言つていた早川さんが、「遺産は？ 掛かつた費用は？ 税金は？」とお金にまつわるタブーを打ち破つて取材したのだから、その苦労は大変だつたろう。しかしその結果を「老後は八割方お金で買える。あとの二割は若い時からの生き方である」と明確にしてくれた意味は大きい。

中年層はもちろん、「まだほど遠い話」と逃げ腰の若年層も、それを本書の中から実感してほしいと願っている。

主婦の友社 一五〇〇円

# 私も ひとこと

## 一日一回父親の顔

横浜市瀬谷区 小笹明子

二六四号、グラビアの三沢直子さんは「お父さん、アフター5は一緒にね」とビラをまかれたそうですが、わが夫も家にはほとんどいないお父さん。おかげで私は家事、育児、雑事の全てを一人でこなす。とくに育児は、わんぱくな男の子と夜中も二回程乳を飲む乳児の世話でくたくた。夫は深夜に帰宅朝早く出勤。話す時間もないすれ違いの日々。確実に成長していく子供の様子も知らないなんて、ねえ。

## 私も犬が嫌いです

千葉県柏市 河野道子

埼玉県北埼玉郡 嵯峨久美子（36歳）  
二六四号、原真智子様の「遺書」を読んで。心にしみじみ響きました。そうして私も夫と、原様のように、最期の時まで夫のことを大好き、といえる夫婦でありたいと、心から思いました。

私は二六三号から「わいふ」を購読しているので残念ながら、原様のことはあまり存じません。けれど、二六三、二六四号の誌上でこうして出会えたことを嬉しく思います。

二六四号クワシイ智美さんの意見に同感！以前出勤途中、団地の公園をつきつてバス停へと急いでいたら、放し飼いされていた二匹の大型犬（ドーベルマン？）に、突然飛びつかれた。こちらはもう追い払うのに必死。飼い主の夫婦が「じつとしていれば大丈夫」とニヤニヤしながら声をかけてくる。結局二人をにらみつけて、その場を立ち去った。

世の中、犬好きばかりじゃやないんだよ！

## 私も苦手なんです

千葉県市川市 村上悦子

「そうそう!!」クワシイさん、よく書いて下さいました（二六四号）「わいわいがやがや」。私も犬が苦手なんです。猫も。動物好きに悪人はいない、とかいう説もあるし、やめて下さい、とは言いにくい。家を訪ねて行つて、門や玄関から先に犬が出てくる家、二度と行きたくない、と思います。好きなのは勝手だけど押しつけてほしくない。犬に限らず相手に氣くばりできる余裕のある人間でありたいです。

## 面白いよ「わいふ」

千葉県流山市 栗林八重子

「わいふ」読み始めてから二十年近くなが、近頃「わいふ」が面白い。自分が生きてきて、悩んだ事悲しんだ事を今の若い人も同じように悩み悲しんでいるが、皆賢く明るく答を出しているようで快感を覚える。答は出たがそれから先はどうなるの。本当に満足できる人生、生涯いきいきと生きていける仕事や生き方であるのと興味津津。だから「わいふ」は面白い。シルバーエイジも頑張らなくちゃ。

## 絵手紙

埼玉県所沢市 鈴木和子

宮城の実家で独り暮らしをしている八十三歳になる母に、昨年の八月一日からほとんど毎日絵手紙を送り続けている。

電話の場合、切ってしまったらそれっきりで形が残らないが、絵手紙は何度でもくり返し読むことができるし、形式にとらわれず気軽に書ける。そのためにも是非始めたかった。

母は大変喜んでくれ、ハガキが届くのを心待ちにしてくる。

## 四十肩

広島県呉市 松本育子

一年ほど前から右腕が九十度以上上に上がらない。五十肩？ 四十二歳だから四十肩と呼ぶのだろうか。鍼灸整骨院に通い電気をかけマッサージをする。時には鍼も打つ。週三日は近くの銭湯の薬草湯につかり、ジャグジーに入りサウナで汗を流す。湯船の中でも揉んだりほぐしたり、たいたい伸びたり。なのに効果のほどはさっぱりである。殺しても死なないほど健康体の私のはずなのに……。

## いつか翔びたい

埼玉県朝霞市 朝倉みどり

友人がアメリカへ語学留学した。そして幸運にも就職したという。きつと英語もペラペラになったのだろう。

現在ふたりの子を育て、仕事、勉強、趣味と欲張り人間な私であるが、どこか中途半端で甘えがあり、悩んでいる。

思いきって私も留学し、英語にどっぷりつかって彼女のようになりたいと、三十半ばで夢みる夢子ちゃんである。

## 汗をかかない運動が好き

東京都世田谷区 後藤 晶 (38歳)

区の温水プールにひとりで出かけるようになってもう半年。週に一、二回、子供の帰宅時刻と競争するように、約一時間、いそいで千メートルくらい泳いでくる。泳ぐ人より歩く人のほうが多く、私が最年少かとも思うようなのんびりしたプール。

午後の日ざしは、水中にまで明るくさしこんでいて、「スイミング・ハイ」な状態で、うっとり泳ぐのがいい。

## ピンクの割烹着

佐賀県佐賀市 渡辺憲子

ずーっと昔に両親からもらって、タンスの奥で眠っていたピンクの割烹着。しかし、ここ二三年、すっかり私の定番となった。水仕事の時はもちろん、汚れを気にする事なく動けるので、一歳の子供の食事時など超便利。上から一枚重ねるだけで、冬場は暖かいし手離せない。ふと気づくと、袖の底がすりきれている。よく使い込んだ!!と満足。私も、いつの間にか、割烹着の似合う年頃になった。

## 記念切手

福岡市西区 加藤君子

最新の切手カタログ誌を図書館で見つけ、我が家の切手ファイルと見比べる。子どもが小学生のころ集めた記念切手や、祖父からもらった使い古しの昔の破れかけた切手、ニュージーランドへ留学していた甥からもらった外国切手が入っている。全部売ったら小遣い銭くらいにはなると思い、切手商へ持って行った。店主は「このまま、切手としてお使いになったほうがいいですよ」。ただ今実行中。

## 日本一短い赤ちゃんへの手紙

長野県小県郡 花岡京子

前略

お義母様。先日娘が貴女様よりドラ

焼きと煎餅を頂き、ありがとございました。煎餅の袋を何げなく見ると平成八年六月賞味期限となっております。只今は平成九年二月でございます。八カ月も過ぎてますと、とても体に自信がありませんので捨てさせていただきますました。ドラ焼きは察する所五日前の法事の引物でしょうか。私達は不用品処理所ではありませんのでお間違えなきよう。草々

「目には目を」本当の意味

静岡県清水市 鈴木美奈

ハムラビ法典のこの言葉、有名なわりに誤解されている。本来は、他人に損害を与えた場合その身分などに関わりなく等しく損害賠償せよ、という意味で、決して復讐や仕返しではない。また、マドンナとはキリスト教で唯一無二の聖母マリアのことで、普通の女性(失礼)に使つてよい言葉ではないのだ。

宗教上の言葉を誤って使うのはその宗教への大きな非礼である。即刻改めるべきだ。

## 過剰包装

東京都目黒区 クワシイ智美

パン屋の持ち帰りで思うこと。神戸屋キッチンは特にこちらが「袋全部一緒にして下さい」と言っても手つきよく、一つのパンを一つの袋にこいていねいにも入れて下さる。「セロファンテープしなくていいです。すぐ食べますから」と言っても一つずつこれまたていねいに付ける。これじゃあゴミも増えるわよね。店の方針か、店員の手際のをさを競つてゐるのか知らないけど、ゴミ増やしてどーすんの！

何かおかしい

神奈川県中郡 石井しのぶ(38歳)

新聞にまた高校教師がテレクラで知り合った十代の少女たちと交際し、逮捕された記事が載っていた。私があきれていると、夫は「サラリーマンだったら結構、普通のことじゃないの」と平然としていた。愛もない男女が関係をもつことに、罪の意識も何も感じない人たちのどこが普通なのだろう。節度のない少女と倫理感を失った大人たち……。こんな世の中になった原因はどこにあるのだろうか。

「こんなおしょうゆ

欲しかった」と好評

全国にお送りします。



(二例)こいくちしょうゆ(1ℓ)

6本入 二、九〇〇円

12本入 五、七〇〇円

合成保存料、合成甘味料は一切使用していません



有限会社 大 仲 屋 本 店

島根県鹿足郡日原町青原  
TEL(0856)510003  
FAX(0856)510013  
フリーダイヤル 〇二〇一-二〇〇七八



# ニュー・マザリングシステム大反響

――母子のよい関係づくりを目指して――

●長年の夢であった子育ての通信教育「ニュー・マザリングシステム(NMS)」をオープンしてから一カ月。反響の大きさは思ったとおりでした。

とても素晴らしい仕事だけれど、責任もほんとうに大きいなあ、とずっしり肩に荷のかかるのを感じています。

びっくりしたのは、資料をご請求なさった方のうち、「怖くて子どもが生めない」という方が一人ならずいたことでした。NMSをうければ、安心して生めるようになるでしょうか、と。これは生んでからのシステムです、とお断りしましたけれど、事態はそこまでの極限状況になっているのだ、と改めて驚きました。

にもまして痛感してしまうのは、問い合わせの電話でわかる、子育ての混乱の深さです。赤ちゃんをことん甘やかしてもいい、と教わっている方の何と多いこと。赤ちゃんのときから「けじめをつけて」というとみなさん、びっくりなさる。でも最後

にはとても納得してくださるのは、上のお子さんを見ていると、たしかにそうだなあ、という実感があるからなのでしょう。

●人間は生まれたときから、人間と関係を結んで生きています。そして相手が自分を尊重しているか、蔑ろないがしにしているかという点に関しては、いつも動物的敏感さで感じ取っています。

痴呆になった老人も、赤ちゃんも、その点に関してはまったく同じ。生後三カ月でも、自分が家族のなかでどう扱われているかは、しっかりと受け止めているのです。

そもそも赤ちゃんに抱き癖がつく、というのもその表れ。泣けば母親が反応してくれる、自分の要求が通る、ということを、赤ちゃんはちゃんと感じとっています。

ですからゼロ歳のときはことん甘やかかし、二歳になったらしつけをしましょう、などということが、常識で考えたらどれほどナンセンスかすぐにわかりそうなものなのに、この国ではいまだにその説が横行し

ています。

ゼロ歳のときからしっかりとけじめをつけて育てていけば、子育てがどれほどラクになるか知れないのに、どうしてこんなことになってしまったのか。そのひとつの理由は、昔から赤ちゃん甘やかしの伝統のあるこの国に、「スキンシップ」に象徴される母子密着推奨の学説がアメリカからはいつてきたとき、それをまったく国情の違う日本に無批判に取り入れてしまったからだと思います。

●しかしその一方で、奇妙におとなしく、元気のない幼児たちもまた、確実に増えています。これは、子どもがおとなしく時間をつぶせるテレビやビデオ、ゲームなどの発達、さらにことばを使って他者と関係を結ぶ能力が若いお母さん自身、衰えている現実と関係があるように思われてなりません。

人間がますますロボット化してくる……。NMSは、それを食い止めるためにも役立つ、システムだと思っています。(田中)

へお問い合わせ先

ニュー・マザリングシステム研究会

☎〇三―三二六〇―二五〇九

# ファム・ポリティク編集室より

## 女性よ、議員を目指そう

田中喜美子

●私のようなしごとをしていると、各地の公民館や、女性センターなどで講演をする機会がしばしばあります。テーマが「子育て」や「教育問題」だと張り切って出かけますが、「再就職」あたりは、すごく気が重い。

なぜ重いかというと、そもそも私に声をかけてくる自治体は、都心まで電車で一時間半、などという東京周辺の場所であることが多いからです。

とくに郡部などに住んでいる女性たちは、「働きたい」と思っても、なかなか働く場所がない。しかもパブルがはじけた今日、口を見つけるのはますます難しくなっています。

「再就職」というのは話しがいのあるテーマなのですが、「べき」論で話すのは簡単でも、話を聞いてくださる対象の女性たちが、現実として職を手に入られる地域に住んでいないというのでは、万事が絵に描いたモチになってしまします。それがつらいところでした。

●ところが数年前から、この悩みがふつきました。すばらしいアイディアが生

まれたのです。

どんなへき地に住んでいても、能力ある女性ならうってつけの職業が手に入る、ということに気づいたのです。

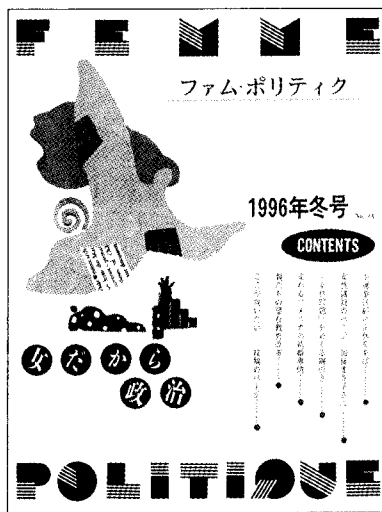
もちろんすべての女性にふさわしい職業ではないかも知れませんが、決してそんなに難しいものではなく、また特定の資質を持ったひとにしかできない、というものでもありません。

四十を過ぎて、ある程度人生の哀歓を経験し、子育ての苦勞も味わい、人づき合いの楽しさも難しさも知った女性。人間が好きで、その人間で構成されている社会を何とか少しでもよくしたい、という社会的指向性を持ったひとにはぴったりの職業です。

身についた技能がなくても構いません。住んでいる地域は、人口の少ない小さな町であつてもまったく構いません。むしろそのほうがいいぐらい。

なに、それ。とお思いになるでしょう？ それは、地方議員になることなんです。

●これは夢物語ではありません。生活クラブ生協を母体とする「生活者



ファム・ポリティク (Femme Politique=仏語で「政治的女性」の意) 1993年創刊。わいふ編集長でもある田中喜美子が編集長を務め、女性のための政治情報誌として出発したが、最近「政策提言」をするために、読者のオピニオンを載せるページも設けた。A4判20ページ・季刊・300円・年間購読料1560円(送料含む)。わいふ読者の方もぜひお読みください

ネットワーク」は、元氣な女性をたくさん地方議会に送りこんでいます。彼女たちは生協での共同購入などを通じて、企業利益の優先する社会の矛盾にめざめ、生活防衛に立ち上がるところから政治に参加した女性たちです。しかしなにもこうした組織に籍をおいていなくとも、一匹狼で議員になることはできるのです。

私の見聞のなかから、効果的なやりかたをお伝えしましょう。

●まず友人と連れ立って、地元の自治体の議会を傍聴に行きます。男たちの牛耳っている議会は、呆れるぐらい低調、かつナンセンスなので、あなたにとって傍聴が初体験ならば、もうびっくり仰天だと思えます。それだけで、ムラムラと怒りがわいたり、バカバカしくて笑いだしたかったり、さまざまな刺激を受けるでしょう。

我慢してつづけてください。そして、その内容にかっこいいタイトルをつけて、小さな新聞を発行するんです。タブロイド判二ページぐらいのものでかまいません。見たまま、聞いたままを、生き

生きと面白く書いてください。そして疑問のところがあれば、少し調べて、いま、自治体でなにか問題になっているのかをあなたなりに把握して、そこをクローズアップしてください。

それを配る。女の人は地元のいろんなサークルでネットワークがあるので、二、三人の共同者がいれば手配りできたり撒けると思えます。

生活者の感覚、女の感覚で政治を見ていけば、きつと面白いのができると思えますし、そのうち、男に任せておいてはダメだなあ、と思うポイントがかならず浮上ってきます。それを取り上げる。

気長に粘りつよく、そして明るくユーモア感覚を失わずに、二、三年、つづけて見てください。

そのうち、きつと自分なりに政治が分かってくるはず、議員という仕事がある自然とあなたの射程に入ってくることは確実です。

どうでしょう、この再就職口。悪くないと思いませんか？

## わいふ 投稿規定

●定期購読者はどなたでも(男性でも)投稿できます。原稿には住所(郵便番号、都道府県名から)、氏名、会員番号を明記のこ  
と。誌上匿名・ペンネーム可。

### 次のコラムを設けています。

#### ●エッセイスト・クラブ (二六〇〇字まで)

びたりとキマった文章、豊かな内容を持った随筆をお寄せください。

#### ●ズバリ一言(二六〇〇字まで)

オピニオン、評論、改善策の提案などの欄。政治、事件、芸術から身近の商品、

サービス、その他細かいことまで何でも遠慮なく言ってください。ただしなるべくあなたの独自の考えを。

#### ●マイジョブ・マイホビー (二六〇〇字まで)

本格的な職業生活から、パート、アルバイト、内職までの仕事について、また楽しみ、生きがいとしての趣味について等々、あなたの活動報告をお待ちします。

#### ●家族と私(二六〇〇字まで)

一つ屋根の下にいる夫や子供はもとより、別居している親(舅・姑も含み)、成人して離れた子供、他人の始まりといわれる兄弟姉妹など、とにかく「身内」とあなたの関係レポートをどうぞ。

#### ●おさない子を育てる(二六〇〇字まで)

子育てではやはり、女性にとつての最大の関心事です。おさない子はいわゆるど子育てはホントにしんどい!

現実のなかから、あなたと子供のありのままの関係を浮きぼりにしてください。

#### ●サブレシーブ(八〇〇字まで)

本誌の投稿や記事についての反響をお載

せします。感想、反論、何でもどうぞ。

#### ●大人になりかかった子供たち (二六〇〇字まで)

反抗期、思春期、青年期の子供と親の関係についてお書きください。大きくなった子供の問題は、これまであまり言い立てられなかったと思いますが、若いお母さんにも将来の参考になるはず。体験談をお待ちします。

#### ●忘れ得ぬ人々(二六〇〇字まで)

印象の深かった人の姿を描写してください。思い出の中にある人、現在関わっている人どちらでもけっこうです。いやな奴、すばらしい人、奇人変人、あなたの詳しい観察を。

#### ●フリースペース(二六〇〇字まで)

どんなテーマでも書けます。思想・信条にかかわらず、一〇〇パーセント言論の自由のある「わいふ」ならではのコラム。

#### ●わいわいがやがや(八〇〇字まで)

誰でも気軽に書けるコラム。

#### ●私もひとこと(一八〇字まで)

何でも。添付の原稿用紙でお願いします。

## ●わいふネット(一八〇字まで)

教えてほしいこと、聞きたいこと、それに対する答えも。読者参加のQ&Aです。

## ●ワーキングマザー(二六〇〇字まで)

まだまだ母親が働くことへの偏見が残る中で、頑張っているお母さんたち、子育てのこと職業のこと家事のこと、悩み、喜び、充実感、言いたいこと呼びたいこと、何でも彼でもお書きください。

## ●おすすめの一冊(八〇〇字まで)

書評のコラム。女性問題にかぎらず、視野の広い読書体験を。

## ●情報コーナー(四〇〇字まで)

お知らせ、募集、お願い、探しもの、交換、相談、何でも。なるべく短く、要点をまとめてください。

## コラム以外の投稿募集

### ●特集テーマ原稿

毎回テーマを設定して募集しています。

### ●特別寄稿

ルポルタージュ、自分史、伝記、旅行記、その他の体験記、評論、小説、どんなジャンルのものでもけっこうです。枚数も

自由。本誌に適當と思われるものは掲載します。長編なら連載になります。

本誌には合わないが、価値ありと思われるものは、出版社に紹介、推薦します。

●カット・イラスト・写真・コミックも募集しています。ご自分の投稿にイラストや写真が用意できる方は、あわせてお送りください。

## 注意

●投稿は一人一篇に限ります。

●ただし次のコラムへのご投稿とはだぶつてかまいません。サブプレシブ・私もひとこと・情報コーナー・わいふネット。

●投稿は原稿用紙に。本誌はタテ組みですので、ヨコ書きはご遠慮ください。原稿用紙は開いて右肩を(一カ所)とめてください。

●ワープロ打ち原稿は、字詰め二十字、二十行を一枚に、行間をあまり詰めないよう、また禁則処理をしないで打ってください。

●ファクスでの投稿は受け付けません。

●投稿は多少添削することがありますのでご了承ください。

●締め切りは原則として偶数月の二十五日

(当日必着)。それ以後に着いたものは次号まわしとなります。規定枚数はきっちりではなくともよく、長くても内容がよければお載せします。

●他誌との二重投稿はお断わりします。

●原稿はお返しできませんので、必要な方はコピーをとってからお送りください。

●匿名、ペンネームは原稿の最初に。住所本名は、そのすぐあとに併記してください。

また整理の都合上、住所には郵便番号を付記し、本名には会員番号(本誌送付封筒の宛名の下と、振替用紙にあります)を付記してください。

●ペンネームをいくつも使い分けるのは、ご遠慮ください。居住地もとくに理由がなければ記載したいのでよろしく。ただし匿名・ペンネームは原則として自由であり、書くことの自由を守るためであれば、むしろ積極的に評価します。濫用は困る、ということです。

●年齢をお書きをえくださる方は、名前の下に算用数字で。

●おたよりで掲載ご希望でない場合は、必ず私信とお断わりください。

## 次号投稿募集

### ●特集テーマ原稿

二六七号（八月一日発送）の特集テーマは「わたしの小学校時代」です。

たまたま「わいふ」で、自分の小学校時代に何をして遊んだかが話題となりました。

「イナゴとりをした」「川で泳いだ」から「チャンバラをした」「テレビが来て、夢中で見た」「本を読んでいた」なんていう人まで。それが、年代で違うのかというところでもなく、居住地によってもさまざまなのです。「弟妹のめんどうをみていた」「お友達と遊ぶなんてしなかった」、あげくは「中学受験のため塾に通っていた」という人も。けっこう皆で盛り上がりました。

だれにでもある小学生時代。楽しかったこと、苦しかったこと、皆さんいろいろな思い出をおもちでしょう。

何年ごろの話か、どこでの体験かを文中に明記していただけると、なお、興味深く読めるかと思います。

四百字詰原稿用紙で十枚ほど。

締め切り六月十日。

### ●時事放談

二六六号の時事放談のテーマは「わが家でやっているリサイクル」です。

地球環境のことを真剣に考えなければならぬと言われ続けて、何年になるでしょうか。私たち人間が生活していること自体、地球には迷惑とか。

そんななか、資源を大切に使う方向で、私たちにできることの一つにリサイクルがあるかと思っています。皆さんの自宅ではどんなリサイクルをされていますか。例えば、廃油からのせっけんづくり、ゴミの肥料化、牛乳パックの再利用などいろいろあるでしょう。

子どもの洋服を友だちどうしのやりとりで調達、あるいは大人の洋服を子どもの洋服に、着物をブラウスにつくりなおすことなどもリサイクルのなかに入りますね。

皆さんに知らせたい素敵なリサイクルのアイデアをお持ちの方、こんな提案をしたいという方、どうぞお集まりください。

日時 四月十八日（金）

場所 「わいふ」分室

四月十六日までに電話でお申し込みを。

### わいふ文章講座のすすめ

公民館、女性センター、社会教育課などのご依頼で、しばしば「わいふ文章講座」を開いています。

編集長田中、副編集長和田、「わいふ」から巣立ったライター達を講師とし、五回から十回までのコースがあります。

また、「子育て」「教育」「女性」「高齢者」「社会参加」など、各種の問題について講演をいたします。デスクの間瀬、老人ホーム情報センター主任研究員の水落も担当いたします。

お住まいの地域で開きたい方は、お電話をください。資料をさし上げますので、それを持って公民館、教育委員会の社会教育課などに開講を頼んでみてください。引き受けてくれるところも多いと思います。

父母と子の立場から教育・学校を考える

## 母と子

四月号

五〇〇円・二十六八円  
(見本誌(旧号)進呈)

今月の視点

## 子どもを包みこむ網

好評発売中『母と子』臨時増刊シリーズ 各一〇三〇円

PTAって何？

不思議なPTA

地域がつくるPTA

いじめの迷宮

子どもと読む

子どもの権利条約

子どもの権利条約

市民・NGOの意見集

お申し込みは書店か母と子社へ

〒203 東久留米市中央町五一四八  
☎〇四二四―七四一九―二五

母と子社

## 創刊50年をすぎた女たちの情報紙

女の視点で創るもう一つのメディア



自分史・インタビュー・映画・CD・書評・催し・

アジア・さべつ・たべもの・からだ・おい・そだてる・はたらく

### WOMEN'S DEMOCRATIC JOURNAL

5日・15日・25日発行・年間9000円 ●見本紙どうぞ！

婦人民主新聞

ふえみん

東京都渋谷区神宮前

3-31-18-301

TEL 03(3400)3244

3238

FAX 03(3401)3453

(○で囲んでください)

タイトル・住所・氏名

## 本文

私もひとことは、投稿してみたいけど、長いのはチョットという方のためのコーナーです。わいふネットは相談や質問、掲載された質問への答えをお寄せいただくべー

ジです。あなたの声をお待ちしています。  
投稿には、右の原稿用紙をご利用くださ  
い。

●タイトル、住所 氏名は一行めに。もし、

二十字を超える場合には罫目にこだわらず  
小さい字で、住所、氏名は他のコラムを参  
照してください。

●二行めから本文、全体で九行一八〇字。

[illegible]



# 編集室から

●いつも楽しみのコーナーが辛くて書けない状態。失恋でも別れでもなく毎年のスギ花粉との出逢いだ。電流が走るような頭痛、目・鼻・喉・胃・全ての関節の痛みと嘔吐。足元はフラつき、体中ボロボロ状態。どこにも怒りのはけ口が見つけられず、十六年を迎えている。(菊池)

●この春、石垣島へ行こうと思っています。二十数年前の学生のころに沖縄の島々を旅して、空も海も、暖かい人の心もすべてが美しく新鮮で、ここは私の住んでいる国とはまったく違う国だと思いました。今度もまたあの感動をあじわうことができるかドキドキしています。(成井)

●「ママ! 待つて。ネー待つてよ」「待たない!」。子供との関わりの中で待ちくたびれて、先に歩くことにした。亀のよう

にのろろ歩いていた子がいつのまにか私の前を歩いていた。

「チョット、待つてヨ」という私に、だまって立ち止まって待っている子は二十四歳。(野村)

●副編集長が突然「お宅の主人首大丈夫?」と聞く。「厳しいことを」と思いながらも、

「まあ何とか今のところ無事です」と答えたら、変と思った他の編集部員、「首って体のことでしょう。ほら年末痛いつて」。

「あ、そうか」と叫ぶ私。一同爆笑。そう。整体を紹介してくれたのは副編でした。(浅野)

●阪神大震災に遭った方との文通ボランティアをしました。

でも、こちらからの一方通行でした。それが一年たってはじめてハガキをいただいたのです。何か私が傷つけることを書いたかな………と思ったことも。よかったです。ご投稿とお便りお待ちしております。(間瀬)

●木々は、新しく根を張り、芽をふくらませて、年ごとの春を待つている二月。樹皮も化粧なおしをととのえて、季節のめぐりのなかにいる。「私たちも、

古い皮膚をぬぎ捨てて新しく生まれ変わったらしいのに」と泣いた友人が、逝ってしまつて六年めの春のなかにいる。(望月)

●二年半の間に、親友二人を失った。ともに五十代のあつけない死であつた。老後も楽しくや

ろうよと言つていたので、その喪失感は大きい。春になつても心は沈んだまま。何か強い力が欲しい。友よ、天空を仰いで涙

する私を上から見かけたら、必ず合図して下さい。(山本)

●「ライターになりたいのですが……」というお電話がときどきあります。よく聞いてみると、

自信あつてのことではなく、「生きがいのある仕事がほしい」だからライター………なのです。

ライターもいろいろあり、何にその人がむいているかは判断が難しいところです。

私は「毎号投稿して、毎号入選すること。その上で売り込みができるかどうか考えます」と

答えます。投稿がマスコミの目にとまつてという人もあり、志望者は頑張つて下さい。(和田)

●人生は「運・鈍・根」だと痛感して、みんなにそれを触れ回

つたら、十人中九人ぐらいがこのことばを知らなかったのでび

っくりしてしまいました。みなさん知つていらつしやいますか。

何につけても成功に必要なのは「運と根」、これはわかること

ですが、さて「鈍」となると何で?という方も多いでしょう。でもそうなんです。つまり人間、神経が図太くないといけな

# 編集だより

●梅の花がいつもの年より二週間も早く咲きました。春の訪れは早いそうですね。遊びに出たい季節なのに、「わいふ」はニュー・マザリングシステムのオープンで、てんやわんやの毎日です。

●二六四号特集中「故郷の行事」の二七ページ、ハンボ（飯盆？）とあるのはハンボの間違いでした。お詫びいたします。

●二六五号の投稿数は全部で百六通、とても内容ゆたかなものばかりで、選ぶのに苦労いたしました。今回掲載されなかった方はがっかりなさらずに、またご寄稿くださるよう。特に初めて投稿された方は気落ちされるかと思いますが、載るか載らないかは運（？）もあります。似たような話題が続いた場合、次号にまわしたり、場合によってはボツにすることもあります。どうぞめげずにお書きください。

●職場体験記を募集しています。事務職の方だけでなく、美容師、警察官、建築家、スーパーの店員などいろいろな職場を体験された方、体験中の方、書いてください。

●四月より消費税が五パーセントになりました。三パーセントと五パーセントでは、やはり重みがずつしりと違います。編集部で大討論の結果、二パーセント分を定価にのせることにいたしました。定価五六〇円（本体価格五三四円）、年間購読料送料共で四五六〇円となります。

新規購読の方、誌代切れの方から順に新定価でお願いいたします。何もかも価格が上がるなかで本当に申し訳ないのですが、私どもも苦しいなかでやっておりますので、どうぞご了承ください。

●久しぶりに「わいふ」の読者懇親会を開きます。花見をかねて、お弁当をいただきますが、おしゃべりしたり、「わいふ」誌の感想、日頃のみなさまの活動など伺いたく思います。同封のチラシにくわしく案内してありますので、どうぞふるってお申し込みください。

いろいろな仕事に追われていそがしいなかでの準備ですが、みなさまにお会いできるのを励みにがんばっております。人数に限りがありますので、お早めに。

●落丁・乱丁のあった方ご連絡ください。

## 購読のお申し込みは……

ハガキか電話、ファクスでどうぞ。

すぐ本に振替用紙を添えてお送りしますので、折り返しご送金ください。バックナンバーのご注文も同様です。

●年間購読料は割引となっております。

## WIFE・265

（隔月刊）

1997年5月1日発行

編集・わいふ編集部

定価560円（本体534円）

（年間購読料送料共4560円）

印刷・平河工業社

発行所・（株）グループわいふ

〒162 東京都新宿区矢来町115

東海神楽坂マンション406

☎(03)3260-4771・FAX3260-4773

郵便振替00150-3-110430

加入者名 わいふ編集部

## 購読中止は……

必ずお申し出ください。

送金をお忘れになる方が多いので、誌代が切れても引き続き送本しています。お申し出がないとお送りしてしまうので、ぜひハガキか電話を。

# 教育史料出版会

〒101 千代田区西神田 2-4-6  
☎03(5211)7175

## ハイスクールレポート

自分にあった学校をえらぶ私立高校ガイド

入学してからでは遅すぎる！  
服装・頭髪規定は？生活指導の身中は？  
どんな行事があるのか？力を入れてい  
る教育内容は？進学への取り組みは？  
学校生活がこの一冊で見えてくる！

関東版 わいふ編集部編 4月末刊 ★1800円＋税  
関西版 公立校も収録 / 5月末刊 ★1710円＋税

子どもはなぜ  
★1500円＋税

渡辺 位  
学校に行くのか

自分にあつた  
★1602円＋税

早川裕子  
高校のえらび方

●生徒・父母・教師が綴る 私の北星余市物語

やりなおさないか  
君らしさのままで

北星学園余市高校編  
中退生を受け入れる北の学園！  
★1500円＋税

わいふ編集長  
田中喜美子 編

# どう死ぬなら 上手になら 死のうに

死ぬのに  
必要な  
手続きのすべて

グループわいふから育ったライターたちが取材

よりよい老後を過ごすために、今しておかなくてはいけないこと、  
してはいけないことなど、100以上の生き残実例をもとに、  
上手に死ぬための方法を具体的にわかりやすくまとめた熟年必読の書！

集英社 定価1325円（本体1262円）

# 農文協

http://www.ruralnet.or.jp/  
〒107 東京都港区赤坂7-6-1  
☎03(3585)1141 ●内容見本室

「本体」価格には別途消費税が加算されます



## 野菜で老いを美しく 水と生命の健康学

●生命を科学する生態系を舞台にした(自然と人間)のドラマチックな博物誌。人として生まれて誰でも願う、心やさしく身されいな暮らし方を、野菜と水と生命から考える本。

■藤井平司の「食と健康」の本 好評発売中!

●老いと健康の生命科学

65歳以上は老人という前に 本体1845円

旬を食べる

からたの四季と野菜の四季 本体1204円

## 楽しくやろうボケ予防

藤井貴郎著 必ずしも絶望的なことばかりではないボケや痴呆の現場から、希望への道筋を介護体験も交えてルポ。\*税別本体14000円

## 魚とつきあう健康法

●現代海洋薬膳のすすめ 鈴木たけ子・大野智子著 魚介や海藻の効果を引き出す、ボケダイエット他にも役立つ本。\*税別本体16000円



最新刊

江島雅歌著  
本体13000円

## みうたさんのノシシュガーおやつ

砂糖なしでもできる楽しいおやつ50のレシピ  
イラストと手書き文字が優しい/カラー口絵8頁付  
●みうたさんの姉妹図書

減糖・減バター 自然派おやつ 本体1311円

江島雅歌著 素材の風味を生かして

野菜たっぷり旬のお菓子 本体1456円

林弘子著 四季を感じる和洋のおやつ50 本体1553円

果物たっぷり旬のお菓子 本体1456円

林弘子著 旬で安い果物利用のおやつ50

## 輸入牛肉に、いま何が起きているか?

★最新刊!



●食糧輸入大国・日本の今と明日...  
イギリスの狂牛病騒ぎ、米国での病原性大腸菌O157の恐怖と脱却への試みなど、現地ロケから明日の日本の食糧のあり方を考えるビデオです。  
●内容 食糧輸入大国・日本の食卓は寄生虫の恐怖にさらされている。いま輸入牛肉に何が起きているのか? 狂牛病とは何か? 人畜共通感染症の時代 大阪府堺市でのO157集団中毒 O157とは何か? 他 ●中学生からPTAまで対象  
●農文協企画VHS・カラー 50分 \*税別本体1万4千円

## お年寄りって、どんなことをしてほつて、老いと共に生きる

★最新刊!



●お年寄りって、どんなことをしてほつて、老いと共に生きる  
からたの不自由なお年寄りがお近くにいらつしやいませんか? そんな方に役立つ、どう介護してほしいのか? がよくわかるビデオです。介護ボランティア教育に!  
高年齢者介護のボランティア  
J.A.全国健康管理推進協議会企画/VHS・カラー 27分 \*税別本体1万円  
お年寄り介護ボランティアの心かまえる「自覚性を基本にしながら自立を助けること」その上での介護用品・機器などの選び方も、用途に応じて解説します。  
●中学生からPTAまで対象

## 学校農園でいきいき農業体験

●地域の農家がはくらの先生 小学生が農家に出身きイネや野菜作りに取り組む「生きる力」の教育。VHS・カラー 35分 \*税別本体1万円

## 二んなに危ないシンナー吸引

●栗原久(群馬大学医学部)協力 実験と動物実験による薬物乱用の実態と恐怖を描く。  
●中学生から親・教師まで \*税別本体1万円